

CSR Report 2012

あなたに、ベスト・ウェイ。





●発行の目的・編集方針

高速道路という公共性の高い事業を行っているNEXCO東日本グループは、どのような考え方で、どのような活動に取り組んでいるかを、社会に情報開示する目的でCSRレポートを発行しています。全体の構成についてはGRIガイドラインを参考に「環境側面」「社会側面」「経済側面」のトリプルボトムラインを基本に、体系的で網羅的な情報開示となるよう心掛けました。

●対象期間

2011年4月1日～2012年3月31日
(一部期間外の活動なども掲載しています。)

●対象範囲

NEXCO東日本及びグループ会社27社

Keyword & INDEX

NEXCO東日本グループのCSR

- 会社概要……4
- トップコミットメント……6
- 経営理念……8
- NEXCO東日本グループの使命……10
- NEXCO東日本グループの主な取り組み……12

特集-1

P14~21

東日本大震災からの復興に向けて

2012年

12月

本復旧工事
完了予定

災害対策
強化と
復興支援
の取り組み



特集-2

P22~23

道東自動車道「直結」

ミッシングリンク解消に
より地域が活性化

6倍以上

トマムへの道外からの
観光宿泊客数
2010年と2012年の比較



CSRの基盤

P24~29

- CSR推進体制……24
- コーポレートガバナンス……25
- コンプライアンス……26
- リスクマネジメント……28

※CSRの基盤に関する記載は2012年9月末現在です。

環境

P30~48

環境方針……30

環境行動指針・高速道路事業に関わる

CO₂排出量……31

NEXCO東日本の環境マップ……32

■地球温暖化防止への貢献……34

約5万トン/年

2011年度に開通した
高速道路ネットワーク
整備によるCO₂削減効果

■循環型社会形成への貢献……40

■環境負荷の低減……43

■新たな環境技術の開発……47

■環境をテーマとした社会貢献活動……48

社会

P49~88

お客さま

お客さま満足の向上

■気持ち良くご利用いただける料金所を
目指して……50

現場の声「一期一会の思いでお客さまに接しています」……50

■多様な割引制度の実施……51

道路の安全・安心を守る取り組み

■効率的かつ効果的な維持管理……52

現場の声「道路のお医者さんとして日々見守り続けています」……54

■冬期の気象特性に対応した雪氷対策……55

現場の声「信頼される高速道路への使命感に燃えています」……55

■ETCの普及に応じた安全性の向上……56

■高品質な高速道路を目指した
技術開発・品質管理の取り組み……58

快適なドライブのサポート

■道路状況・交通状況の把握と提供……62

現場の声「24時間365日、円滑な交通を目指しています」……62

■交通安全対策・啓発活動……64

■渋滞緩和に向けた取り組み……67

お客さまへのおもてなし

■魅力あるSA・PAを目指して……68

現場の声「お客さまの笑顔のために誠心誠意のおもてなし」……69

■地域のショーウィンドウ化……70

■施設の快適性向上の取り組み……72

高速道路を活用した取り組み……73

お客さまの声への対応……74

救命活動のサポート……75

地域社会

高速道路ネットワークの整備

■ネットワーク整備の推進……76

■首都圏の高速道路整備……78

■地域を結ぶ高速道路整備……80

地域社会との連携……82

地域における社会貢献活動……83

国際社会

世界の高速道路づくりへの貢献……84

社員

働きやすい職場環境づくり……86

取引先

取引先との連携による安全・円滑な事業の推進……88

経済

P89~91

■着実な債務の返済による社会への還元……90

■資金調達活動とIR活動……91

約280km

新たなネットワーク
整備を推進中

あなたに、ベスト・ウェイ。



社 名・・・・・・ **東日本高速道路株式会社**
East Nippon Expressway Company Limited

所 在 地・・・・・・ 東京都千代田区霞が関三丁目3番2号 新霞が関ビルディング

設 立・・・・・・ 2005年10月1日

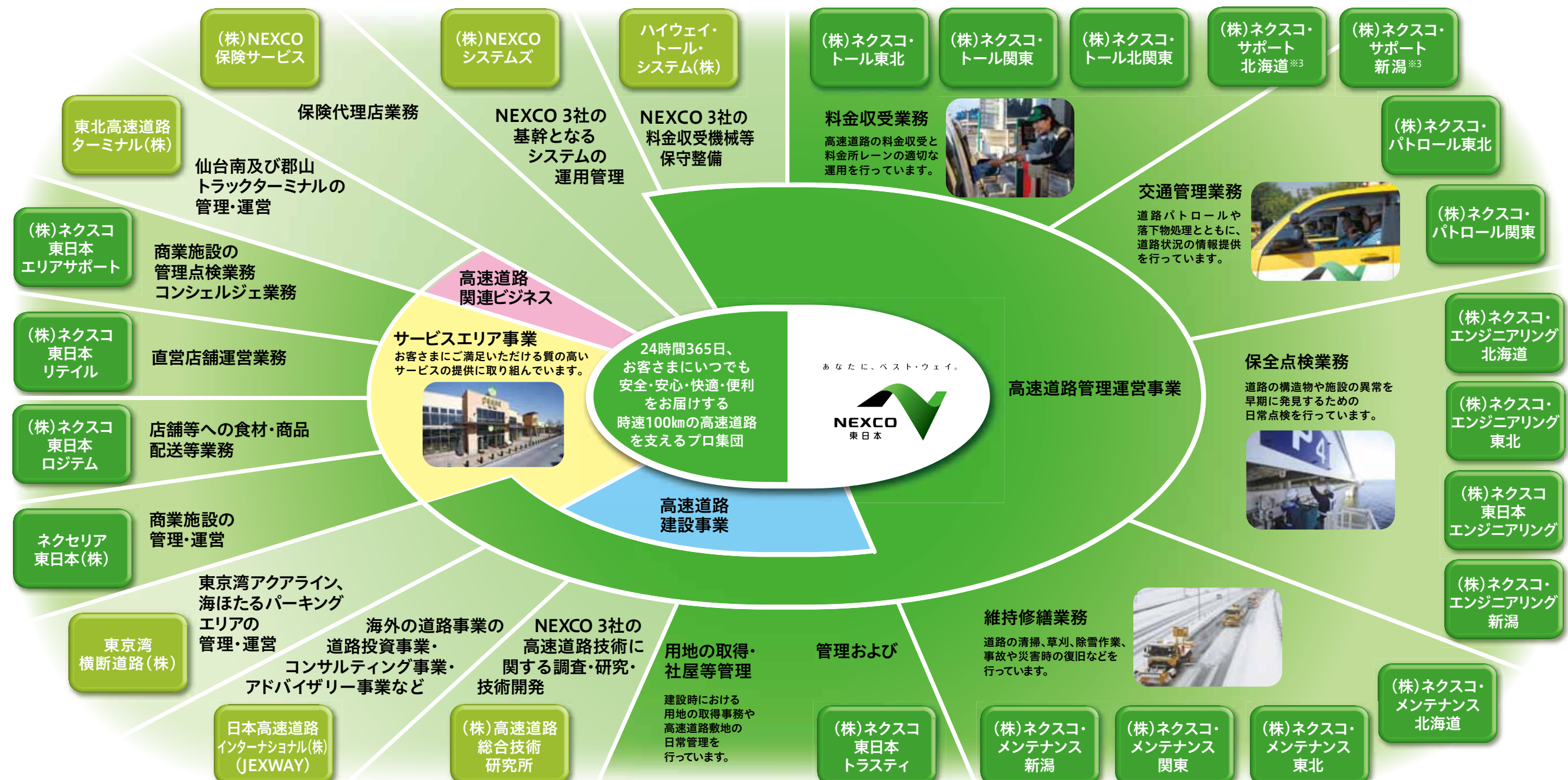
資 本 金・・・・・・ 525億円

社 員 数・・・・・・ 2,192人（2012年3月31日現在）※1

事業内容・・・・・・ 高速道路の管理運営・建設事業、サービスエリア事業、
駐車場事業、高架下活用事業、トラックターミナル事業、
カード事業、ウェブ事業、ホテル事業、海外事業等

営業延長・・・・・・ 3,668km(2012年7月1日現在)
 インターチェンジ・・ 407ヵ所(2012年7月1日現在)
 スマートIC・・・・・・ 34ヵ所(2012年7月1日現在)
 利用台数・・・・・・ 1日平均283万台(2011年度実績)
 料金収入・・・・・・ 5,280億円(2011年度実績)
 建設延長・・・・・・ 280km(2012年7月1日現在)
 サービスエリア・パーキングエリア・・・・ 309ヵ所(2012年7月1日現在 上下線別)
 店舗総売上額・・・・ 1,517億円(2011年度実績)

社員数 12,578 人(2012 年 3 月 31 日現在)^{※2}



子会社 関連会社

Top Commitment

私たちNEXCO東日本グループは、
コーポレートスローガン「あなたに、ベスト・ウェイ。」のもと、
常にお客さまを第一に、高速道路の安全・安心・快適・便利
について効率的に追求していきます。
地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向け、
「つなぐ」価値を創造し、あらゆるステークホルダーへの貢献、
公正で透明性の高い事業運営を行い
信頼される企業として成長します。

●NEXCO東日本グループの事業概要

NEXCO東日本グループは、関東以北、長野、新潟から北海道に至る東日本エリアの高速道路の管理運営事業、建設事業、SA・PA（サービスエリア・パーキングエリア）事業及び高速道路関連ビジネスを行っています。高速道路の管理延長は約3,600kmに及び、一日約280万台（2011年度実績）のお客さまにご利用いただいています。私たちは、時速100km（規制速度の最高値）の高速走行空間を、いつでも安全・安心・快適・便利にご利用いただけるよう、高速道路のプロとして、細心の注意を払い管理運営を行っています。

また、地域の発展と暮らしに貢献する高速道路ネットワークの整備を進めており、特に2011年度には道東自動車道（占冠IC～夕張IC間・約35km）の開通により、道央圏と道東圏が高速道路で結ばれました。この区間を含む開通により山岳ルートである日勝峠（標高1,022m）を回避した往来が可能となり、交通事故の減少や冬期の交通障害発生リスクの軽減、移動時間の短縮による物流の効率化、観光など行動圏の拡大による地域間の連携の強化など、様々な面において地域社会に貢献しています。

さらに、地域と連携し、お客さまに地域の商品や食材を楽しんでいただくSA・PAの「地域のショーウィンド

ウ化」を進め、地元ならではの生鮮野菜や果物等の販売、地域商材の発掘など、そこでしか味わえない一歩進んだサービスの提供を追求し、お客さまの満足度向上のための取り組みを行っています。

●NEXCO東日本グループの目指す企業像

NEXCO東日本は、2012年10月で創立7周年を迎えます。現在は、グループ会社27社とあわせて、総勢約14,000名からなるNEXCO東日本グループとして、社員一人ひとりが知恵を出し合い「現場力」を高め、一体となって業務を行っています。

当グループは、「高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献する」ことを経営理念に掲げています。そして、地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向けて、「つなぐ」価値を創造し、全ての深くかかわりのある関係者、すなわちあらゆるステークホルダーに貢献する企業として持続的に成長するという「経営ビジョン」の下、グループ一丸となって進んでいきます。

●NEXCO東日本グループのCSR方針

NEXCO東日本グループは、前述の経営理念等に基づき、「コーポレート・ガバナンスを充実し、公正で透明



代表取締役社長 廣瀬 博

な企業活動を行い、「環境にやさしく、安全・安心・快適・便利な高速道路空間を提供し、「事業活動を通じて、社会的課題の解決に取り組む」ことで、「お客さま」、「地域社会」、「国際社会」、「国民」、「環境」、「株主・投資家」、「取引先」、「社員」などのあらゆるステークホルダーに貢献するCSR経営を推進してまいります。

●東日本大震災からの復興に向けて

2011年3月に発生した東日本大震災では、グループを挙げての緊急復旧工事により被災から約20時間で緊急交通路を確保し、消防や自衛隊などの広域な活動に大きく貢献することができました。また、13日後には、ほぼ全線での通行止めが解除され、お客さまの通行路を早期に確保いたしました。福島原発の事故に伴う警戒区域内となった常磐道及び常磐道の建設区間においても、国等の関係機関と協働し、復旧・整備工事をすることなり、一日も早い開通に向け努力してまいります。

2011年度は、被災地の復旧・復興を支援する立場から国の施策に協力し、通行料金の無料措置を行ったほか、SA・PA事業では「HEARTLINK NIPPON」のスローガンのもと東日本地域の産品を応援する取り組みを展開し、被災地域の食材を活かした復興応援弁当の販売等も行いました。また、「東北六魂祭」や「東北観光博」など地域の催しにも積極的に参加する

など、東日本地域を元気にする活動を幅広く行っています。今後も東日本地域に拠点を置く企業として地域の発展に向けた取り組みを行ってまいります。

震災からの一日も早い復興のために、高速道路の果たす役割は極めて重要であることを肝に銘じ、当グループが担っている社会的責任の重さを社員一人ひとりが認識し、今後のCSR経営を推進していく上での大きな教訓としなければならないと考えております。

●CSRレポート2012

この「CSRレポート2012」は、全てのステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールとして、私たちがその企業活動を通し、どのように社会的責任を果たし、持続可能な社会づくりに向けてどのように貢献しているかを「環境」、「社会」、「経済」の3つの側面から体系的に取りまとめるとともに、「特集」などのコーナーを活用し、主な取り組みを分かりやすく紹介する工夫をしています。

私たちNEXCO東日本グループの活動やレポートの質を向上させるためには、皆さまからのご意見が何よりも大きな力となります。どうか、忌憚のないご意見をお寄せ下さい。今後とも、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

経営理念

NEXCO 東日本グループの経営理念、経営ビジョン、経営方針、CSR方針についてご紹介します。

●グループ経営理念

NEXCO 東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。



●グループ経営ビジョン

NEXCO 東日本グループは、地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向けて、「つなぐ」価値を創造し、あらゆるステークホルダーに貢献する企業として成長します。



● グループ経営方針

- お客さまを第一に考え、安全・安心・快適・便利を向上させます。
- 公正で透明な企業活動のもと、技術とノウハウを発揮して社会に貢献するとともに、的確な企業情報の発信を行います。
- 終わりのなき効率化を追求するとともに、経営資源を最適に活用することにより、お客さまサービスと企業価値を向上させ、健全な経営を行います。
- 社員各自の努力とその成果を重視し、チャレンジ精神を大切にします。
- 「お客さま」、「地域社会」、「国際社会」、「国民」、「環境」、「株主・投資家」、「取引先」、「社員」などのあらゆるステークホルダーに貢献するCSR経営を推進します。

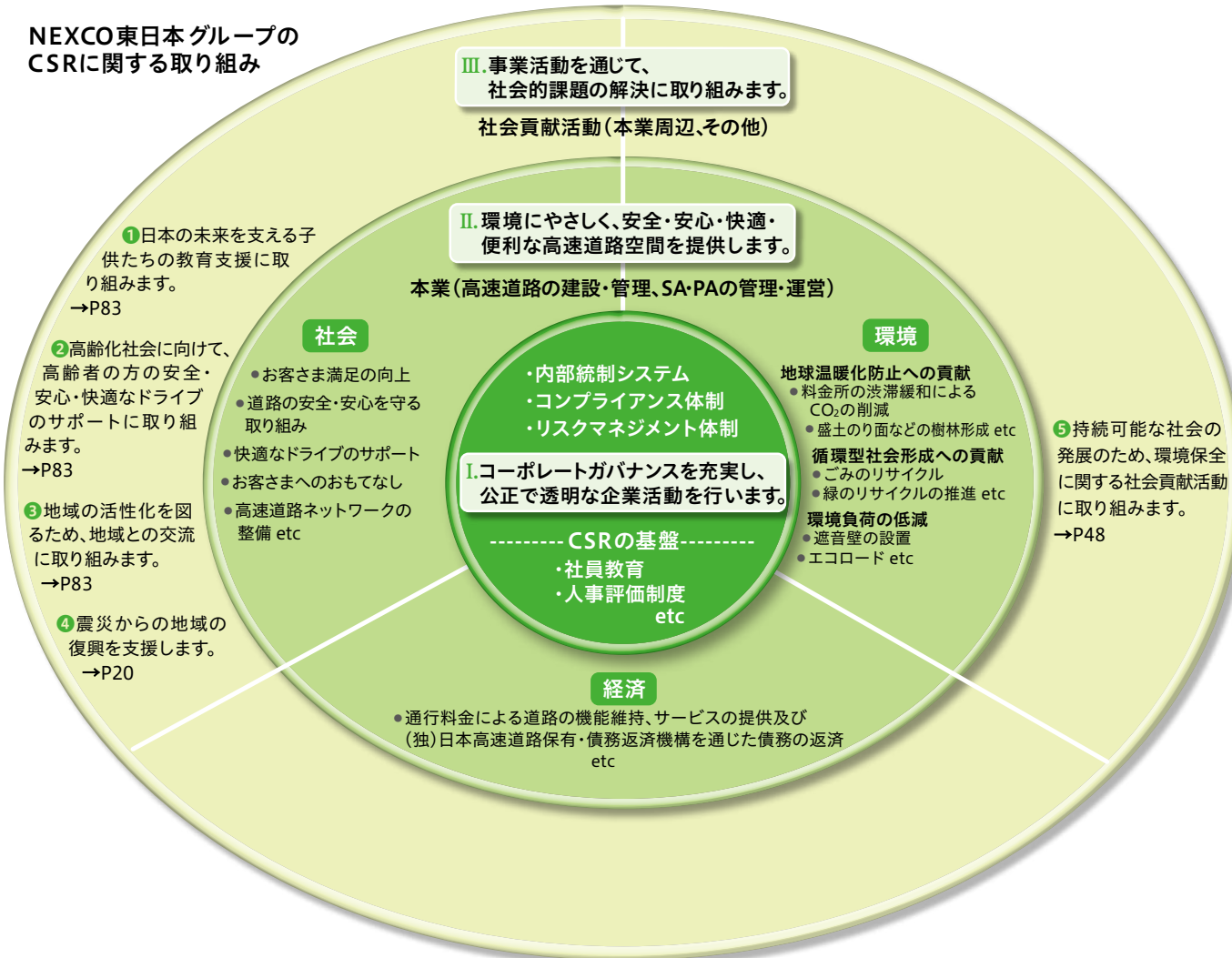
グループ経営方針に基づき、NEXCO東日本グループは以下の方針によりCSRに関する取り組みを進めてまいります。

● NEXCO 東日本グループ CSR 方針

NEXCO東日本グループは、「お客さま」、「地域社会」、「国際社会」、「国民」、「環境」、「株主・投資家」、「取引先」、「社員」などのあらゆるステークホルダーに貢献するCSR経営を推進します。

- I. コーポレートガバナンスを充実し、公正で透明な企業活動を行います。
- II. 環境にやさしく、安全・安心・快適・便利な高速道路空間を提供します。
- III. 事業活動を通じて、社会的課題の解決に取り組みます。

NEXCO東日本グループのCSRに関する取り組み



NEXCO 東日本グループの使命

公共性の高い事業を、効率よく運営すること。
それがNEXCO東日本グループの使命です。

高速道路の公共性

NEXCO東日本は、東日本地域の3,668kmの高速道路の管理運営、280kmの建設を行っています。高速道路は、地域間の時間距離を飛躍的に短縮するなどの交通機能を通じて、沿線地域の工業、農業、観光などの諸産業の活性化、行動圏の拡大による日常活動の活発化をもたらし、地

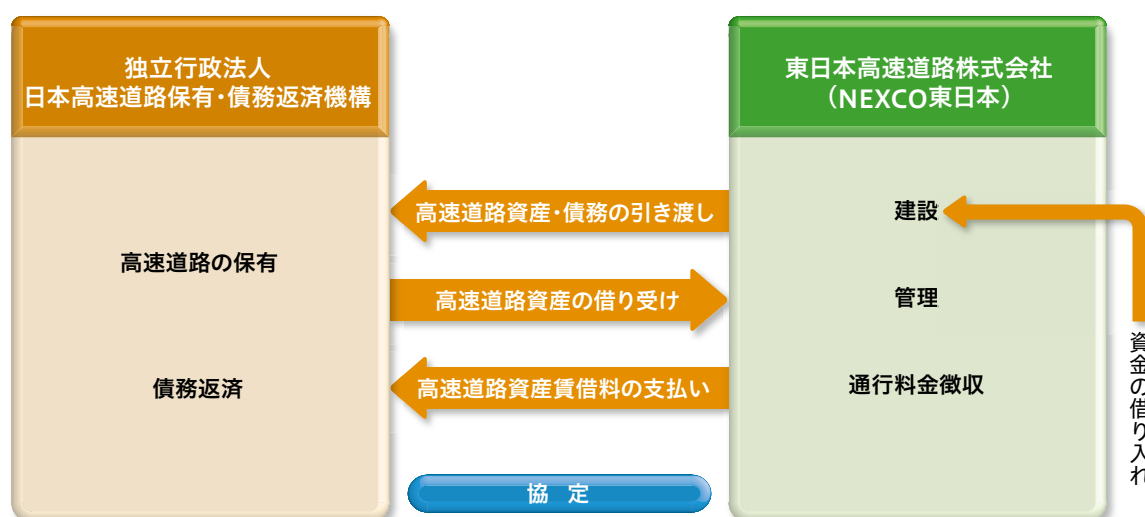
域の発展に大きく寄与しています。例えば、工場進出などによる工業発展、産地の広域化などによる農業振興、アクセス改善による地域観光の活性化、雇用機会拡大などによる人口定着・増大および地方税収の増加、高速バスの発達などの効果が挙げられます。

● 高速道路の管理運営・建設事業のスキーム

高速道路の管理運営・建設事業に関する基本的な事項については、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「機構」）と協定を締結するとともに、事業の内容及び予算が妥当であること、適正な通行料金の設定のもとで高速道路資産賃借料が確実に支払われること、高速道路資産賃借料に

よって機構が行う民営化後45年以内の債務返済が可能であることなどについて、国土交通大臣の事業許可を受けています。

なお、高速道路は国民共有の財産であることから、通行料金の設定に当たっては、当社の利潤を含めないこととされています。



● サービスエリア事業・高速道路関連ビジネスの展開

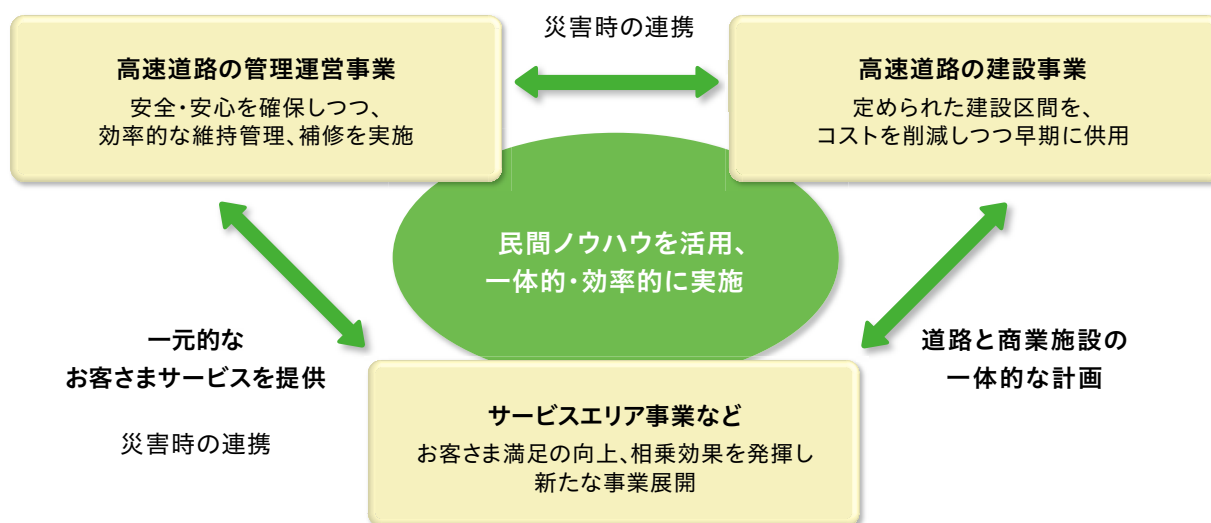
SA・PAはNEXCO東日本が所有する施設です。お客さまの利便性向上のために、これまでにないさまざまなサービスを提供しています。また、カード事業、ウェブ事業、ホテル事業などの高速

道路関連ビジネスは、自らの経営責任のもと、国土交通大臣への届出方式により、自由度の高い事業を展開しています。

● 3つの事業（高速道路の管理運営・建設・サービスエリア）の一体的・効率的な実施

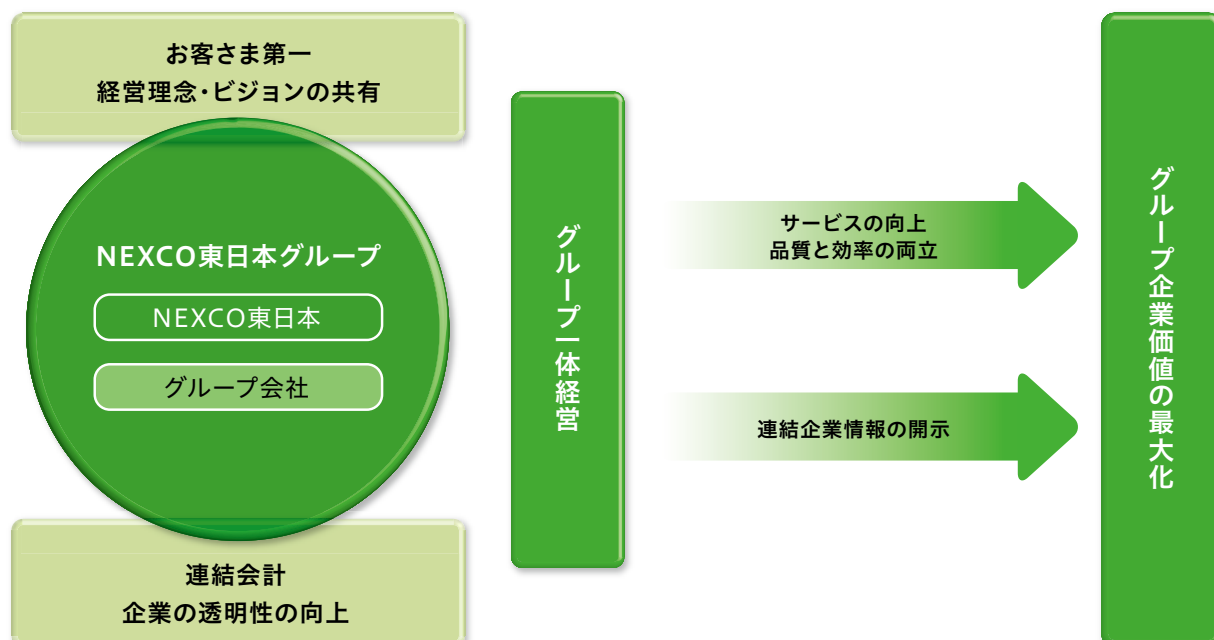
NEXCO東日本は、民間ノウハウの活用により、高速道路の管理運営・建設・サービスエリア事業などを一体的・効率的に実施し、お客さまへ安全・安心・快適・便利な道路空間を提供しています。

「効率的に管理できる道路」の建設



● グループ一体経営の推進

当社とグループ会社が一体となり、お客さま第一の目線でサービスの向上と業務の効率化に努めるとともに、連結会計により経営の透明性・成果の共有を図り、グループ企業価値の最大化を目指します。



NEXCO 東日本グループの主な取り組み

テーマ			2011年度取り組み状況（2011年4月～2012年3月）		2013年度までの取り組み目標		頁		
環境	地球温暖化防止への貢献		◆高速道路のネットワーク整備、のり面の樹林形成などにより、CO ₂ の削減に貢献しています。		◆地球温暖化防止や循環型社会形成に貢献します。		34－39		
	循環型社会形成への貢献		◆SA・PAのごみや建設副産物のリサイクルの推進などにより循環型社会形成に貢献しています。				40－42		
	環境負荷の低減		◆遮音壁の設置や「自然にやさしい道づくり(エコロード)」の取り組みを推進し、沿道環境や自然環境に及ぼす影響を低減しています。			◆沿道環境や自然環境に及ぼす影響を低減します。	43－46		
	新たな環境技術の開発		◆植物廃材を活用した「バイオマスガス発電」や遮音壁裏面を活用した「太陽光発電システム」の研究に取り組んでいます。			◆環境保全に関する技術開発に取り組みます。	47		
	環境をテーマとした社会貢献活動		◆COP10イベントへの参加や地域と連携した環境への取り組みなど環境をテーマとした社会貢献活動に取り組んでいます。			◆持続可能な社会の発展のため、環境保全に関する社会貢献活動に取り組みます。	48		
お客さま 社会	お客さま満足の向上	気持ち良くご利用いただける料金所を目指して	◆料金所では適切なレーン開放やETCレーンのモニタリング、通行止め時の対応などを実施し、円滑な交通の確保に努めています。 ◆「北海道ETC夏トクふりーぱす」の実施など、地域と連携した企画割引を実施しています。		◆24時間体制でグループ一体となり道路管理を行い、お客さま満足の向上に努めています。 》お客さま満足度の向上:3.6	◆円滑な交通の確保に努めるとともに、気持ち良く料金所をご利用いただけるよう、お客さまを笑顔でお迎えします。 ◆地元の観光協会や観光施設等と連携して、地域の観光シーズンなどに高速道路の料金がお得になる企画割引を実施します。	◆24時間365日グループ一丸となり 不断の道路管理を行い、高速道路のプロ集団として、現場力を一層高めていき、お客さまサービスの向上に努めます。 》お客さま満足度の向上:3.9 ※「満足」～「不満」までの5段階評価。	50－51	
		多様な割引制度の実施							
	道路の安全・安心を守る取り組み	効率的かつ効果的な維持管理	◆24時間体制で道路の維持管理や橋梁・各種設備の老朽化対策に計画的に取り組んでいます。 》老朽化対策 舗装修繕率:92.2% 橋梁修繕率:88.1%			◆最先端の点検技術により予防的な補修計画・実施・評価までを確実にマネジメントし、老朽化が進んでいる道路資産の健全化と長寿命化を追求します。 》老朽化対策 舗装修繕率目標:96.8% 橋梁修繕率目標:90.8%		52－55	
		冬期の気象特性に対応した雪氷対策	◆視認性確保のための防雪柵・防雪林、自発光スノーボールの設置や新技術を活用した効率的な雪氷対策作業に取り組んでいます。 》冬期営業率:99.4%					55	
		ETCの普及に応じた安全性の向上	◆速度抑制強化対策、ETCカード未挿入お知らせアンテナの設置、不正通行対策などの各種安全対策を行っています。					◆お客さまがより安全にETCをご利用いただけるよう、各種安全対策を推進します。	56－57
		高品質な高速道路を目指した技術開発・品質管理の取り組み	◆外部技術力を積極的に活用するための「TIネットワーク」を開設し、技術開発に取り組んでいます。					◆最小のLCCで最良の道路空間を提供することを目指し、効率的な長寿命化・予防保全に向けた技術基盤を整備します。 ◆道路事業の効率化と安全性・快適性の向上を主眼におき、外部の技術力を活かしながら、技術開発・基準要領化を行います。	58－61
	快適なドライブのサポート	道路状況・交通情報の把握と提供	◆交通管理巡回などにより道路や交通の状況を把握し、迅速な道路交通情報の提供や異常事態への対応を24時間体制で行っています。 ◆夜間事故対策として自発光デリネーターの設置や対面通行区間の凹凸型路面表示による車線逸脱防止対策等に取り組んでいます。 》死傷事故率:6.7件／億台キロ(当初目標7.2件／億台キロ)			◆対面通行区間の抜本的事故対策や夜間走行の安全性の確保に努め、より安全な高速道路を目指します。 》死傷事故率目標:7.1件／億台キロ以下 ◆渋滞の削減やネットワーク機能強化のため、付加車線の設置や各種渋滞対策、情報提供設備の高機能化を推進します。 》渋滞損失時間目標:663万台時間／年以下 ◆現地に即した交通安全啓発活動と各種交通安全講習会等の開催、また並行して、全社的にマナーアップキャンペーンの展開・強化を行っていきます。		62－63	
		交通安全対策・啓発活動	◆京葉道路花輪IC付近の付加車線の設置やLED速度回復板による情報提供など渋滞の緩和に努めています。 》渋滞損失時間:604万台時間／年※					64－66	
		渋滞緩和に向けた取り組み	◆マナーアップキャラクター「マナーティ」を使用したマナーアップキャンペーンの実施や各地で交通安全キャンペーン、交通安全講習会の開催に取り組んでいます。					67	
	お客さまへのおもてなし	魅力あるSA・PAを目指して	◆「ドラマチックエリア」として那須高原SA(下り)のリニューアルオープンを行うなど魅力的なSA・PAづくりに取り組んでいます。 》ドラマチックエリアの展開:1箇所			◆SA・PAをよりエキサイティングにし、お客さまに感動をお届けできる積極的な設備投資を実施します。		68－69	
		地域のショーウィンドウ化	◆「新メニューコンテスト」の開催や「E-NEXCO野菜市場」の展開など「地域のショーウィンドウ化」に取り組んでいます。			◆地域と連携し、地域の「ショーウィンドウ化」を推進します。		70－71	
		施設の快適性向上の取り組み	◆オストメイト対応トイレの整備を進め、一部のトイレではフィッティングルームを整備するなど、どなたでも快適にご利用いただけるトイレ空間づくりに努めています。			◆ユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが安心して快適に利用できる休憩施設を整備していきます。		72	
	高速道路を活用した取り組み		◆「イオンE-NEXCO pass」の発行やドライブ旅行の情報サイト「ドラぷら」の充実などに取り組んでいます。			◆事業中の高速道路関連ビジネスを着実に拡大させていきます。 ◆積極的なグループ全体の効率化・ブランド力向上につながるサービスを実施します。		73	
	お客さまの声への対応		◆お客さまの声に24時間365日対応し、より質の高いサービスの提供に努めています。			◆お客さまセンターに寄せられる「お客さまの声」に真摯に対応します。		74	
	救命活動のサポート		◆救命活動や緊急医療のサポートとしてヘリポートや緊急入退出路を運営しています。			◆緊急時にも迅速・適切に対応できるよう、救命活動や緊急医療への支援を行います。		75	
地域社会	高速道路ネットワークの整備	ネットワーク整備の推進			◆高速道路ネットワークの形成を通じて地域社会の発展に貢献します。 》新規開通延長目標:160km	76－77			
		首都圏の高速道路整備	◆新規のネットワーク形成に向けた取り組みを進めています。 》新規開通延長:58km			78－79			
		地域を結ぶ高速道路整備				80－81			
	地域社会との連携		◆地方自治体との提携の強化や地域産業の課題解決への取り組みを進めています。		◆高速道路を通じた地域社会との連携に取り組みます。	82			
地域における社会貢献活動		◆子供向け現場見学会の開催、高齢者向け交通安全講習会の開催、地域のイベントへの参加などの社会貢献活動に取り組んでいます。		◆事業活動を通じて、社会的課題の解決に取り組みます。	83				
国際社会	世界の高速道路づくりへの貢献		◆海外の道路事業への参画、専門技術者の派遣、PIARC国際会議への参加、維持管理技術の発信など世界の道路づくりに貢献しています。		◆海外の道路事業への参画や技術支援業務を実施するとともに、国際協力・国際貢献に努めます。	84－85			
社員	働きやすい職場環境づくり		◆「ワーク・ライフ・バランス」やダイバーシティの推進、社員教育の充実など「社員の働きやすい職場」の環境づくりに努めています。		◆ダイバーシティを推進するとともに、社員の能力開発の支援及び多様な人材、グローバルな人材育成に取り組めます。	86－87			
取引先	取引先との連携による安全・円滑な事業の推進		◆お客さまサービス向上のための地元企業とテナント事業者との商談会の開催や食の安全への取り組み、工事施工業者と一体となった「安全協議会」による安全パトロールや安全講習会を実施し、取引先との連携に努めています。		◆取引先との連携を深め、よりよいサービスの提供や安全・円滑な事業の推進に努めます。	88			

※東日本大震災直後の交通量の減少に伴い、当初目標値から大幅に渋滞が減少。当初目標値:667万台時間/年

東日本大震災からの復興に向けて

着実に進む本復旧工事

2011年3月11日14時46分に発生した三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震によりNEXCO東日本が管理する高速道路でも管理延長の65%に及ぶ35路線、約2,300 kmが通行止めに、交通の支障となる被害は20路線、約870kmに及びました。

地震発生後、緊急交通路を確保することから始まり、応急的な復旧から本格的な復旧工事に着手するとともに、国の施策や自治体からの要請等による災害救助従事車両や復旧・復興支援、東北地域の観光支援等のための高速道路料金の無料措置等への協力もしてまいりました。

現在、NEXCO東日本グループは一体となり、高速道路本線の本復旧工事に取り組んでいます。

■舗装復旧工事 東北道



応急復旧で路面段差を緩やかにすりつけた箇所を被災前の道路縦断に復旧します。



■橋梁復旧工事 仙台東部道路

ゴム支承が破断し脱落した主桁を被災前の位置に復旧します。



本復旧工事の状況



崩壊した盛土を被災前の状態に復旧します。

津波による被害を受けたETC設備を被災前の状態に復旧します。



■土工復旧工事 常磐道

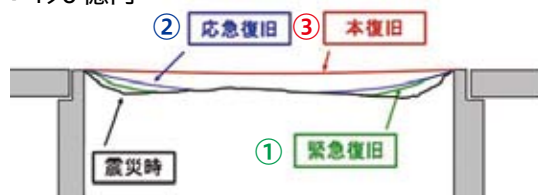
■施設復旧工事 三陸自動車道 仙台港北IC

●本復旧工事の概要

2011年9月より、東北支社及び関東支社管内の区間において、順次本復旧工事に着手しております。「本復旧」は、高速道路が本来有する機能を震災前の状態に戻し、高速道路の機能を最大限に発揮させるための工事です。2012年12月までにすべての区間の本復旧工事を完了させることとしています。

■工事の概要

- ・本復旧箇所：東北道、常磐道他15路線 109IC区間
- ・本復旧内容：舗装367km, 橋梁65橋, のり面6km, 通信幹線105km, 防護柵78km
- ・災害復旧費：490億円



▲舗装路面損傷区間の復旧イメージ



▲本復旧工事範囲図

●本復旧工事の交通規制方法

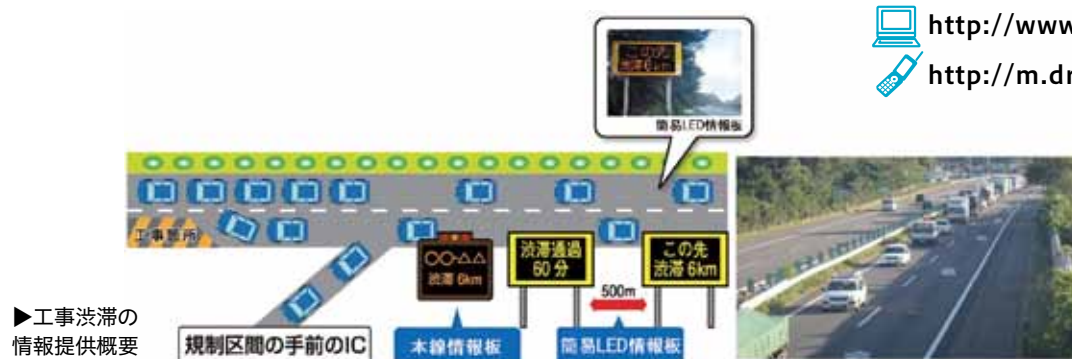
- 東北支社管内における本復旧工事は、工事を効率的かつ工事期間を短縮するため、1インターチェンジ間を集中的に実施する平日昼夜間連続規制で実施しています。(土日は休工)
- 関東支社管内における本復旧工事は、昼間規制を基本に実施します。ただし、交通開放する場合に、走行・追越車線間に段差が生じる一部の箇所では、走行追越車線の規制を切り替えながら昼夜連続規制で実施し、暫定2車線区間は昼夜連続の通行止めにより実施しています。(土日は休工)



●本復旧工事の渋滞対策

- 本線情報板、ハイウェイラジオによる情報提供のほか、簡易LED情報板による渋滞延長や渋滞通過時間等の情報提供を行い、渋滞後尾での追突事故防止対策や渋滞緩和対策を実施しています。
- 工事規制は、「ドラぶら」にて規制箇所の予定や渋滞実績等の情報を提供しています。

<http://www.driveplaza.com/>
<http://m.driveplaza.com/>



▶工事渋滞の情報提供概要

◀東北道(下り線)矢吹IC付近渋滞状況

東北復興に向けた常磐自動車道等の整備

常磐自動車道(南相馬IC～相馬IC)が、開通しました。

常磐自動車道常磐富岡IC～相馬IC間は、2011年度開通に向け鋭意工事を進めておりましたが、2011年3月11日に発生した「東日本大震災」及び「福島第一原発事故」により警戒区域内の工事を中止しました。

そのなかで、警戒区域外の南相馬IC～相馬IC間(14.4km)は、震災後2カ月間の工事中止、全線にわたる震災復旧工に加え、人員確保・工事資機材調達が非常に厳しいなか、ほぼ当初計画どおりの2012年4月8日に開通することができ、福島県浜通りの復旧・復興の基軸として機能しています。



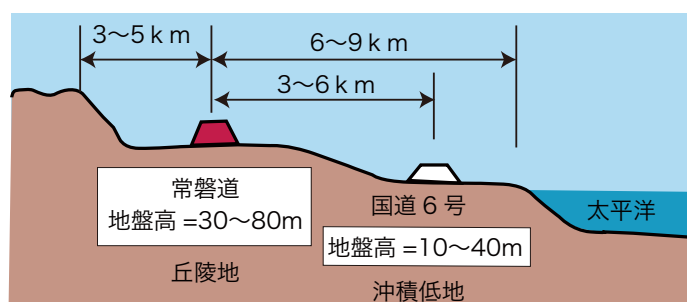
▲震災によるのり面の崩落



◀南相馬IC～相馬IC間の開通状況

●開通区間の整備効果

この開通により、南相馬市と相馬市間の移動時間の短縮と、常磐道が国道6号より内陸部の高い位置にあり、津波等の災害時には国道6号の代替機能も果たせます。さらには、緊急時の避難や震災復興における物資輸送・人的移動の経路としても機能し、周辺道路の混雑緩和に寄与しています。



▲地形断面



▲物資輸送で混雑する国道6号

●常磐道の全線開通に向けて

福島原発事故の発生に伴い工事を中断していた広野IC～南相馬IC間については、2012年1月より一部区間で工事を再開しましたが、環境省が除染工事に着手することを受けて全区間での復旧・整備工事を進めてまいります。今回開通した区間から仙台方面の相馬IC～山元IC間は、2014年度の開通に向け鋭意工事を進めています。

東北自動車道とのダブルネットワークの早期整備及び東北地方の復興に貢献するために、常磐道の全線開通に向け、引き続き取り組んでまいります。

●事業促進PPP(Public Private Partnership) 業務への参画

国土交通省は三陸沿岸道路等の復興道路の円滑な進捗、事業マネジメントの充実等を図るため、民間の技術力を活用した事業促進体制(事業促進PPP)を導入しました。当社は、長年にわたり高速道路事業者として培った「技術及びノウハウ」を最大限に活かせるものであることから、業務に応募し、「三陸沿岸道路事業監理業務(気仙沼唐桑工区)」(10km)を受注し、2012年6月より業務に着手しています。なお、グループ会社のネクスコ・エンジニアリング東北も、鹿島建設・ネクスコエンジニアリング東北・中央復建コンサルタンツ・三井住友建設JVで山田宮古工区(14km)の業務を開始しています。

本業務では、調査設計等業務受注者との調整や地元及び関係行政機関との協議などを行い、関係機関と連携しながら、担当工区の速やかな工事着手に向け、鋭意努力し、東北復興の一翼を担っていきます。



▲三陸沿岸道路事業監理業務(気仙沼唐桑工区)メンバー

事業促進 PPPとは…??

従来、発注者の行ってきた協議・調整等の施工前段階の業務を民間技術者チームが発注者と一体となって実施するもの

施工前段階の業務内容

【発注者】

法制度等により発注者の実施が必要な領域

- ・ 予算管理
- ・ 契約
- ・ 最終判断
- ・ 指示 など

事業促進 PPP
【新たに民間においても実施可能とする領域※】

- ・ 事業進捗管理
- ・ 業務工程管理
- ・ 地元への説明
- ・ 関係機関との協議・調整
- ・ 用地取得計画調整 など

【民間技術者】

すでに民間に委託していた領域

- ・ 測量業務
- ・ 調査業務
- ・ 設計業務
- ・ 用地調査業務 など

※ PPPに委ねる業務内容については、発注者と民間が協議して判断。ただし、最終的な責任は発注者がとる。



▲工区割及び担当国道事務所位置図

東日本大震災を踏まえた災害対策強化の取り組み

● 災害対策強化に向けた取り組み

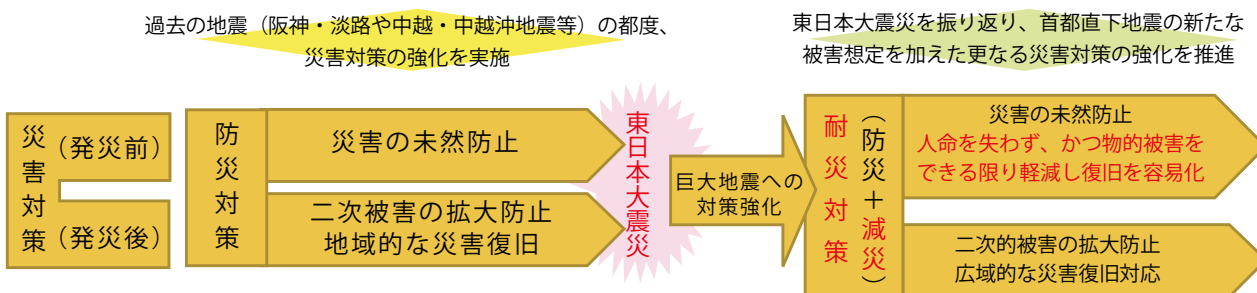
NEXCO東日本グループでは、これまでの東日本大震災での復旧活動を通じて得た教訓や経験、課題等を踏まえ、中期経営計画（2011-2013）において災害対策強化3ヶ年プログラムを策定しています。

このプログラムの考え方は、右の5つの基本方針に基づき各施策を策定し推進していきます。

災害対策強化3ヶ年プログラムの基本方針

1. **二段構えの耐災思想**
「防災対策」と「減災対策」をより明確化した災害対策を推進する。
2. **首都直下地震への対応**
東日本大震災の経験、課題を踏まえ、巨大地震（広域的な大災害）への対応を強化する。
3. **情報収集と伝達の強化**
ITを活用した情報収集とICT※を活用した情報伝達路を強化し、災害時の意思決定の迅速化・的確化を図る。
※information and Communication Technology
4. **SAの防災拠点化**
社会的責任として、関係機関と緊密な連携体制を構築し、高速道路を活用した被災地の復旧活動や救命救急活動を支援する。
5. **人材育成**
災害や危機管理に迅速かつ的確に対応できる人材を育成する。

災害対策強化の基本的考え方



● SAを活用した防災拠点化

東日本大震災では、救助・救急・医療活動や復旧活動のために全国から集まった多くの警察、消防、自衛隊車両が、被災地に向けて高速道路を通行するとともに、高速道路の休憩施設を被災地への中継基地等として利用しました。

しかしながら、被災地近くの休憩施設では地震の影響で電力、通信、情報、燃料補給などが機能せず、万全な後方支援が行えなかった反省点を踏まえ、災害時において電力、燃料、通信、水などのライフラインの確保とともに、被災地や交通網に関するリアルタイムな情報の提供、商業施設スペースを利用した指揮所の設置など、自衛隊や消防の部隊への支援を行うことで、効率かつ効果的に人員・機材・物資が被災地に到達できるよう防災拠点化を検討しています。

常磐道守谷SAをモデル箇所と位置付け、具体的な防災機能や運用方法について検討をしております。



▲▶ 震災直後のSA・PAでの利用状況

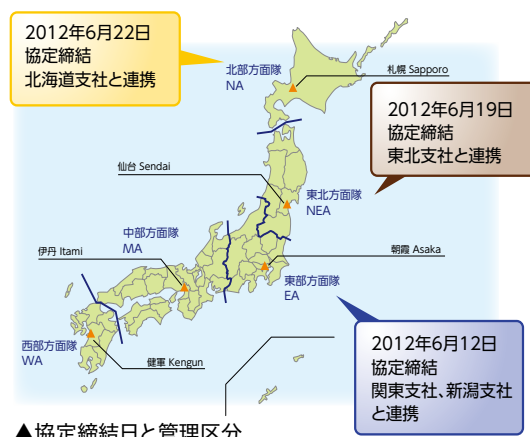
■ SA 防災拠点のイメージパース図



● 陸上自衛隊との協定を締結

2012年6月、NEXCO東日本は災害発生時における相互の協力体制を構築し、災害発生時の双方の活動をより円滑で効率的なものとするを目的として、陸上自衛隊東部方面隊、東北方面隊、北方方面隊と「連携協定」を締結しました。

この協定締結により、総合的な災害対応力の強化が図られるとともに、高速道路休憩施設の防災拠点化として検討を進めている常磐道守谷SAにおいて連携訓練を実施するなど具体的な取り組みを行っています。



▲協定締結日と管理区分



▲協定の概要

各地での取り組み

●「HEARTLINK NIPPON (つなごう、こころ。ひろげよう、出会い。)」の展開

東日本大震災により被害を受けた地域を応援するため、被災地の土産品販売に力を入れ、その地域の食材を使用したメニューを提供するなど、積極的に地域の商材を取扱い、その売上金の一部を義援金として拠出しています。5月26日・27日に盛岡市内で開催された『東北六魂祭』に協賛し、超人シェフ倶楽部の有名シェフと連携して被災地食材を使用したメニューの販売イベントを実施し、売上金の一部として、670,329円を日本赤十字社へ寄付いたしました。



▲東北六魂祭でのNEXCOブース前

コンセプト

- 高速道路のネットワークやSA・PAを活用した取り組み
- 高速道路で、被災地と、こころ・ヒト・モノ等を「つなぐ」がキーワード
- 「東北をはじめとする東日本の地域に積極的に観光等に行っていただきたい」、「その途中のSA・PAでも東日本の観光資源や地域物産等との『出会い』の場を提供したい」との想いを込めて、さまざまな取り組みを企画・実施



●被災地の野菜販売・被災地の食材を利用したメニューの提供

SA・PAでは、地域の特産品の充実を図る「地域のショーウィンドウ化」を進めています。東日本大震災における被災地支援の観点から、被災地の野菜販売やその地域の食材を使用したメニューの提供を積極的に実施しております。



▲被災各県の食材を使用したどら弁プレミアム復興応援弁当「春の息吹 福香(ふっこう)弁当」



▲東北道 那須高原SA (上り) E-NEXCO 野菜市場 被災地の野菜販売

COLUMN

高速道路での節電対策

- 福島第一原子力発電所の事故に伴い電力不足に対する政府の方針を受け、道路照明の消灯、トンネル照明の減灯、休憩施設の照明の減灯などの節電対策を実施しました。その結果、全体の使用電力量については、2010年度約50,500万 kWhに対し、2011年度約45,000万 kWhとなり5,500万 kWh (一般家庭約9,730戸相当)の使用電力量を削減しました。
- 今年度についても引き続き、節電対策を実施いたします。お客さまのご理解とご協力のほど、お願いいたします。

●「耳カー」による被災地への応援メッセージ

「耳カー」は、ICレコーダー内蔵の巨大な耳（最大幅140cm 高さ210cm 立体造形）を取り付けた車です。3月よりSA・PA等をまわりながら、被災地への応援メッセージや、被災地からの声を集め、弊社のホームページ専用サイトやラジオ等でご紹介させていただきました。また、5月26日・27日に盛岡市内で開催された『東北六魂祭』の会場では、「耳カー」に吹きこまれた皆さまからのメッセージをお届けしました。



▲宮城県・気仙沼出身のマギー審司さんによる「耳カー」イベント（2012年3月18日 常磐道 守谷SA（下り））



◀東北六魂祭での「耳カー」イベント実施状況（2012年5月26・27日 東北六魂イベント会場）

●お預かりした義援金や被災地商品の売上金の一部を寄付

東日本大震災の復興支援策として、東北道・常磐道・関越道の主要14エリアで実施した被災地商品販売における売上金の一部を義援金として日本赤十字社へ寄付しました（約700万円）。また、SA・PAに設置した義援金募金箱に寄せられた義援金とNEXCO東日本グループ社員から拠出した義援金合計約4,000万円を関係各県にお渡ししました。



◀義援金目録の贈呈と受領書



▲福島県からの感謝状

●震災からの地域の復興を支援する活動に取り組んでいます。

地域の震災復興イベントの開催やボランティア活動への参加、避難者の方への炊き出しなど震災からの地域の復興を支援する活動に取り組んでいます。

▶ハイウェイコミュニケーションin東北 2011「がんばろう東北〜絆〜」



◀避難者の方への炊き出し

道東自動車道「直結」

ミッシングリンク解消により地域が活性化

道東道は、北海道を東西に貫き、北海道の政治・経済の拠点である札幌市を含む道央圏と農畜産業や漁業の盛んな道東圏を結ぶ高速道路です。

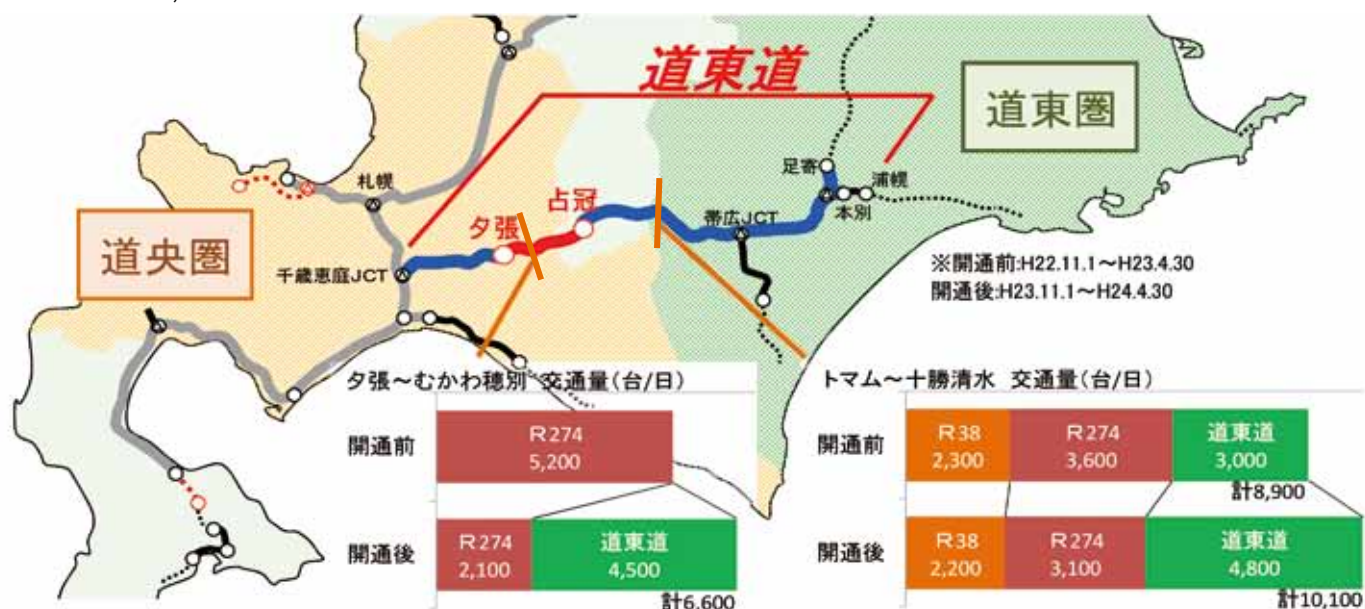
2011年10月29日に夕張IC～占冠ICが開通し道央圏と道東圏の高速道路ネットワークが直結したことで、標高1,022mの日勝峠を回避するルートが更に強化され、利便性の向上、行動圏の拡大及び圏域間の交流促進など、地域の発展・活性化において効果を発揮しています。

※ミッシングリンクとは高速道路ネットワークの未整備部分のことをいいます。



●道東圏と道央圏の圏域間を交流する交通の増加に寄与しています。

ネットワーク直結効果により、札幌市と帯広市間の移動時間は、すべて一般国道を利用した場合に比べて約80分短縮となり、開通後では高速道路と一般国道を合わせた圏域間の交流交通が、夕張～むかわ穂別間で日当たり1,400台以上増加しています。



開通後 +1,400 台増加

開通後 +1,200 台増加

●道東方面の産業振興に貢献しています。

道東道の直結にて、札幌市と帯広市が約3時間で移動できるようになり、道央圏からの行動圏の拡大や新千歳空港とのアクセス向上において、観光ツアー客数が増加し、トマム・サホロ・糠平などの道東方面での宿泊観光も増加しています。



●地域の救命、医療活動に貢献しています。

開通前の占冠村からの救急搬送は、富良野・旭川方面への搬送が主流でしたが、道東道の開通によって帯広方面や苫小牧方面などの選択肢が増加し、柔軟な救急搬送が可能となり、更には搬送時間の短縮や搬送時における傷病者への負担軽減などの地域医療の環境が改善されています。



CSR 推進体制

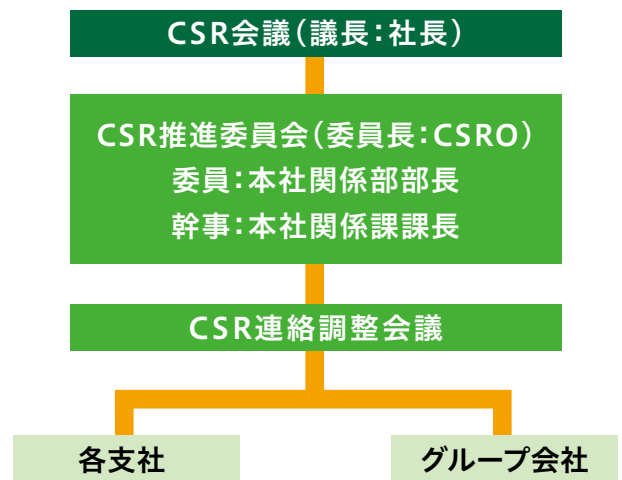
あらゆるステークホルダーに貢献するCSR経営を推進しています。

NEXCO東日本ではグループ全体のCSRに関する取り組みを推進するためにCSR推進体制を構築しています。

●CSR推進体制

NEXCO東日本では2010年9月にCSR推進委員会を、2011年3月には社長を議長とするCSR会議を設置し、CSR推進体制を構築するとともにCSRの推進に向けた取り組みの検討を行いました。

また、CSR連絡調整会議を開催し、CSR方針の共有化を図り、グループ全体で一体的にCSRに関する取り組みを推進しています。各地においては地域の有識者懇談会を開催するなどしてステークホルダーとのコミュニケーションを行い、事業に反映しています。



●国連グローバル・コンパクト

2012年4月、NEXCO東日本は国連グローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、署名を行いました。NEXCO東日本グループの影響力の及ぶ範囲内で、人権、労働基準、環境、腐敗防止の各分野で核となる10原則の実践に取り組んでいます。

国連グローバル・コンパクトの10原則



人 権

企業は、

- 原則 1： 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
- 原則 2： 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

労働基準

企業は、

- 原則 3： 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、
- 原則 4： あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
- 原則 5： 児童労働の実効的な廃止を支持し、
- 原則 6： 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

環 境

企業は、

- 原則 7： 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
- 原則 8： 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
- 原則 9： 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。

腐敗防止

企業は、

- 原則 10： 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスの充実に向けて体制の整備、内部統制システムの構築を図っています。

NEXCO東日本は、皆さまから支持と信頼をいただくために、コーポレートガバナンスの充実を最重要課題のひとつと位置付け、経営の意思決定、業務執行などについて適正な体制を整備し、経営の健全性、効率性および透明性の確保に努めています。

●コーポレートガバナンスの状況

NEXCO東日本の取締役会は取締役全員7名で構成され、監査役も出席し、経営の方針、法定事項など会社の重要な業務執行について決議、報告を行うとともに、取締役の職務の執行状況を監視しています。

経営会議は社長、本部長等で構成され、経営に係わる重要事項について審議しています。

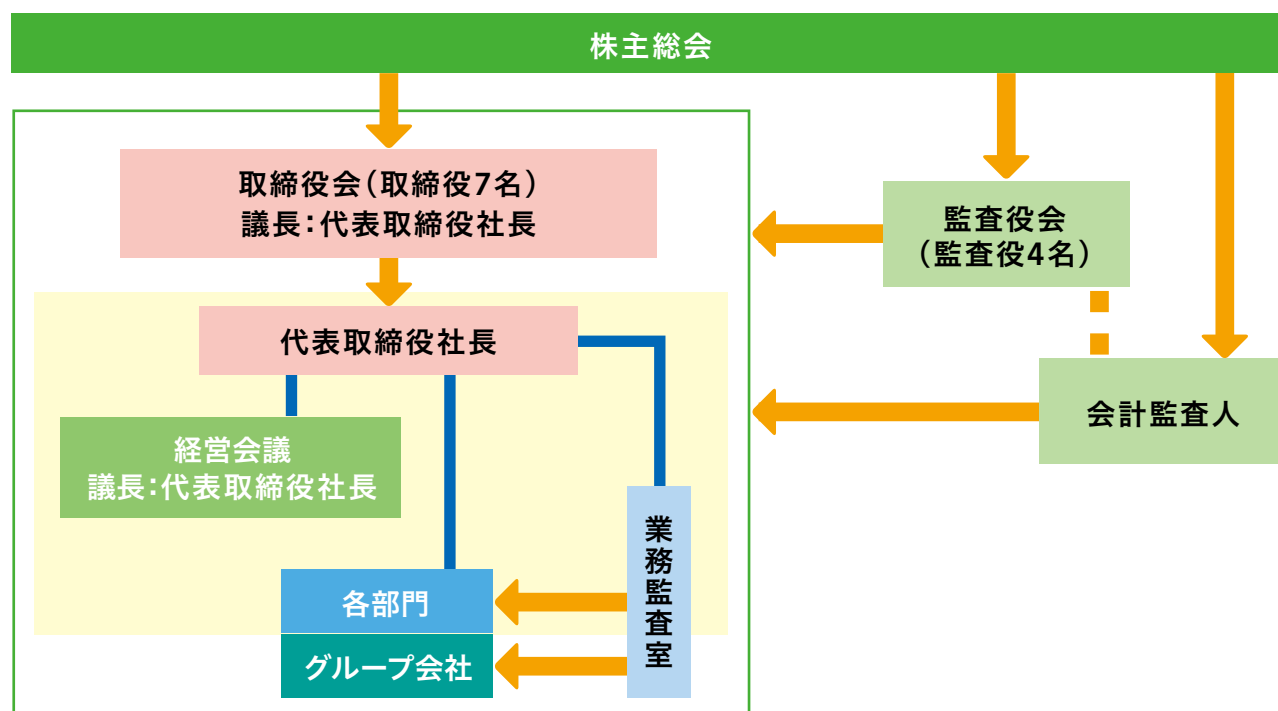
監査役会は3名の社外監査役を含む4名の監査役で構成され、監査のために必要な決議を行い、各監査役はその方針に従い、取締役会その他重要な会議への出席などにより取締役の職務の執行を監査し、監査役会に報告しています。

また、業務監査室を設置し、社内規程に基づき内部監査を実施しています。

●内部統制システムの構築

NEXCO東日本は、コーポレートガバナンスを充実させ業務を適正かつ効率的に遂行するため、コンプライアンス体制(P27参照)、リスクマネジメント体制(P28参照)などの内部統制システムの構築を図っています。

コーポレートガバナンス体制



コンプライアンス

公正で透明な企業活動を推進するために、
コンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。

NEXCO東日本グループは、公正で透明な企業活動を行うために、経営のあらゆる側面で、国内外の法令やルールを遵守することはもとより、高い倫理観を確立し、常に公正・公平・清廉を旨として行動することで、社会から信頼される企業を目指します。

●NEXCO東日本グループ倫理行動規範

NEXCO東日本は、2011年6月にNEXCO東日本グループ全体で共有する行動原則として、「NEXCO東日本グループ倫理行動規範」を制定しました。

「NEXCO東日本グループ倫理行動規範」は、企業の行動原則としての「企業行動基本方針」と役員及び社員の行動原則としての「私たちの行動指針」から成り立っています。

特に、「私たちの行動指針」では、ルールの遵守、人間尊重とともに、経営ビジョンに掲げるあらゆるステークホルダー（お客さま、取引先、株主・投資家、社会、環境、社員）との関係において実践すべき指針を定めています。

また、自分の取るべき行動について迷ったときの判断基準として、【迷ったときの4つの判断基準】を掲載しています。

「NEXCO東日本グループ倫理行動規範」の構成

I. 企業行動基本方針

II. 私たちの行動指針

(1) ルールの遵守

(2) 人間尊重

(3) お客さまとの関係

お客さまへの姿勢

個人情報の保護

(4) 取引先との関係

(5) 株主・投資家との関係

株主・投資家への責任

情報の開示

(6) 社会との関係

地域社会への責任

道路資産等の保全

反社会的勢力等への対応

国際社会への責任

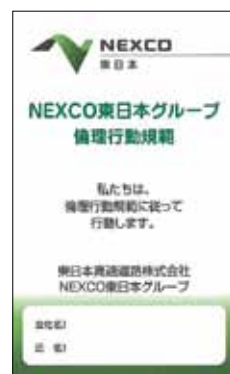
(7) 環境との関係

(8) 社員との関係

【迷ったときの4つの判断基準】

自分の取るべき行動について迷ったときは、次の基準に照らして判断します。

- ① 法令、ルールに違反していないか。
- ② NEXCO東日本グループの信頼・ブランドを損なわないか。
- ③ 十分な情報に基づき、相当の注意を払った上での判断か。
- ④ 家族に、友人に、胸を張って説明できるか。



社員に携行版を配布しています。

●コンプライアンス体制

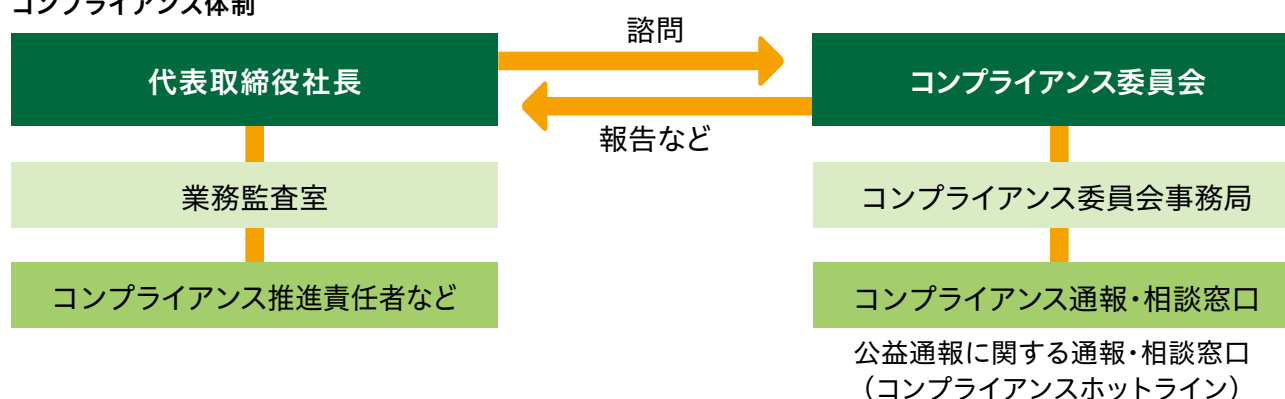
NEXCO 東日本では、コンプライアンスに関する重要事項を検討することなどを目的として、外部弁護士を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置しています。

各職場において主体的に取り組むを行うために、各職場ごとにコンプライアンス推進責任者等を置き、コンプライアンス啓発活動を推進しています。

また、当社社員及び当社と取引関係のある会社の方のための、公益通報者保護法に基づく通報・相談窓口を設置しています。

この窓口を適正に運用することで、コンプライアンスに関する問題の早期発見・解決を図り、企業としての自浄作用が有効に機能するよう努めています。

コンプライアンス体制



●法令遵守と公正性・透明性を確保した調達の実現

公正で透明な調達手続きにより、調達にかかるあらゆる不法・不正行為の排除に努めています。

■調達の適正を確保するための取り組み

●調達にかかる営業活動の自粛要請と接触禁止の徹底

入札参加希望者に対して、個別の発注条件に関する営業活動の自粛を要請するとともに、社員にも、接触を行わないよう倫理教育を行っています。

●調達手続きにかかる情報の管理の徹底

契約制限価格や発注予定など、調達手続きにかかる情報については、情報セキュリティ対策を実施し、情報漏洩などの防止を徹底しています。

■公正性・透明性を確保した調達制度の構築と実施

●一般競争入札と総合評価落札方式の原則化

競争方法を一般競争入札とし、また、落札決定方法を総合評価落札方式とすることにより、品質と価格に優れた調達を実現しています。

●調達手続き、調達結果にかかる情報の公表

「公共工事の入札及び契約の適正化に関する法律」を踏まえ、工事などの調達情報や、主要工事の平均落札率を公表しています。

■入札監視機能の強化

●入札監視委員会の設置

外部有識者からなる「入札監視委員会」を支社ごとに設置し、発注した工事などの競争参加資格の設定理由及び経緯などについて審議しています。

●入札監視統一事務局の設置

「入札監視統一事務局」を設置し、入札契約手続きに関する事前・事後の審査やデータの収集分析を行っています。

リスクマネジメント

24時間・365日、迅速かつ適切な対応ができるよう、リスクマネジメントに取り組んでいます。

高速道路という社会インフラの適正な管理運営と、災害などからの迅速な復旧に向けて、リスクマネジメント体制を構築し、リスクマネジメントに取り組んでいます。

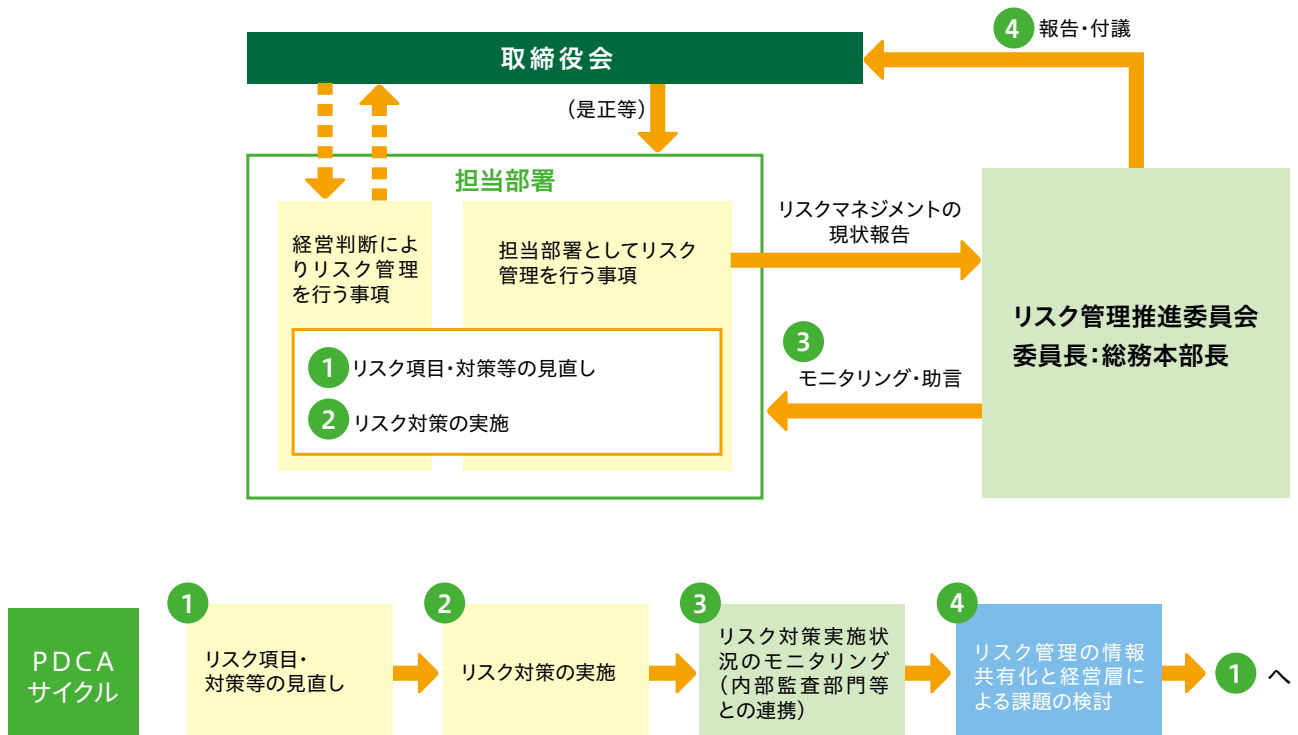
●リスクマネジメント体制

NEXCO東日本では、事故・災害などの発生に備えて、交通管制部門を24時間体制にするなど、迅速かつ適切な対応ができる体制を整えています。

業務執行上のリスクについては、担当部署において対策を講じつつ、経営に大きな影響を与えるリスクに関して取締役会で審議するとともに、「リスク管理推進委員会」を設置し、PDCAサイクルに則ったリスクマネジメントの実施を支援しています。

同委員会では、関係部署が複数にまたがる横断的な事項を中心に、経営上当面注視すべきリスク項目を特定し、これらの項目を主な対象としてモニタリングを実施しています。

リスクマネジメント体制図



●防災業務計画と防災業務の実施

高速道路を地震などの災害から守り、高速道路の社会的役割を果たすことを目的に「防災業務計画」や、その実施のため「防災業務実施細則」を定めています。これらに基づき、情報システムの整備やヘリコプターの運用による災害発生時の情報収集・提供のほか安全確保、復旧などを実施しています。

※防災業務計画：災害対策基本法の指定公共機関であるNEXCO東日本は、災害に強い道づくりに向けた「防災業務計画」を公表しています。

 http://www.e-nexco.co.jp/company/law_ordinance/security_plan/

防災業務の概要

- | | |
|-------------|-----------------|
| ● 防災体制と非常参集 | ● 応急的な道路機能の確保など |
| ● 道路通行規制 | ● 防災訓練及び社内教育 |
| ● 応援協力体制 | ● 災害への備え |
| ● 情報収集連絡体制 | ● 広報活動 |

●防災訓練

NEXCO東日本では、高速道路におけるお客さまの安全・安心のため、事故・災害を想定した対策本部運営訓練や関係機関と連携した実動訓練を行っています。

右の写真は、2011年10月6日に関越自動車道関越トンネルにて行われた総合防災訓練の様です。



▲防災訓練

●情報セキュリティ

情報セキュリティ対策に関する規程を定め、対策の運用体制を確立し、セキュリティの維持及び改善活動を継続的に実施しています。

情報資産の保護に関しては、個人情報をはじめとする重要な情報資産の安全確保のための諸対策を

講じるとともに、情報セキュリティ講習会などを通じてグループ全体で意識の醸成に努めています。定期的に対策の実施状況を検査し、必要な是正を行うなど、情報セキュリティの確保に取り組んでいます。

 http://www.e-nexco.co.jp/security_policy/

環 境

環境方針

NEXCO東日本は、環境への取り組みを経営の重要課題と位置付け、社会の責任ある一員として、地球環境の保全や循環型社会の形成に貢献するとともに、沿道の生活環境や自然環境の保全の取り組みを進めることにより、社会から信頼される企業を目指します。 (2007年7月制定)

環境行動指針

NEXCO東日本は、環境方針に基づき、以下の行動を行います。

I. 環境保全の取り組み

1. 地球温暖化防止への貢献

- 高速道路のネットワーク整備、ETCの普及促進、本線部の渋滞対策などによる交通の円滑化やのり面の樹林形成などにより、CO₂の削減に貢献します。

2. 循環型社会形成への貢献

- 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進、グリーン調達を推進することにより、循環型社会形成に貢献します。

3. 環境負荷の低減

- 沿道の生活環境に及ぼす影響の低減に努めます。
- 自然環境に及ぼす影響の低減に努めます。
- 事業活動の全ての段階における環境負荷の低減に努めます。

II. 技術開発

- 持続的・効果的な地球温暖化防止、循環型社会の形成、

環境負荷の低減に資するため、保有技術の活用や新たな技術開発に取り組みます。

III. 環境経営の取り組み

1. 環境マネジメント

- 環境保全の状況を毎年度分析・評価することにより、取り組みを持続的・効果的に実施します。

2. コミュニケーション

- 環境マネジメントの結果を「CSRレポート」により公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。
- 地域の方々や自治体、国などと連携した社会環境活動に取り組みます。

3. 社員教育

- 社員教育を通じて、環境に係る社員の意識向上、企業風土の醸成をさらに高めます。

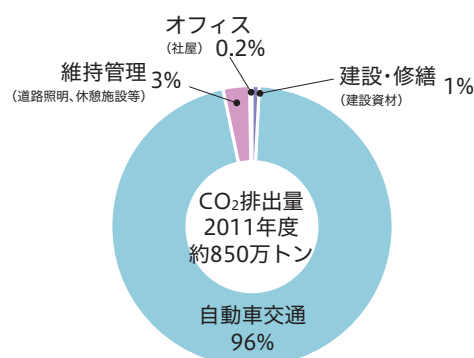
(2007年7月制定)

高速道路事業に関わるCO₂排出量

NEXCO東日本管内において、2011年度に排出されたCO₂は約850万トンと推計されます。2010年度の日本のCO₂排出量11億9,200万トン※と比較すると、0.7%程度の規模となります。

その構成は、高速道路をご利用いただくお客さまの車両から排出されるものが96%、道路照明や休憩施設等の維持管理によるものが3%、建設・修繕工事の建設資材によるものが1%となっています。

※ 環境省 HP「2010年度（平成22年度）の温室効果ガスの排出量（確定値）について」より

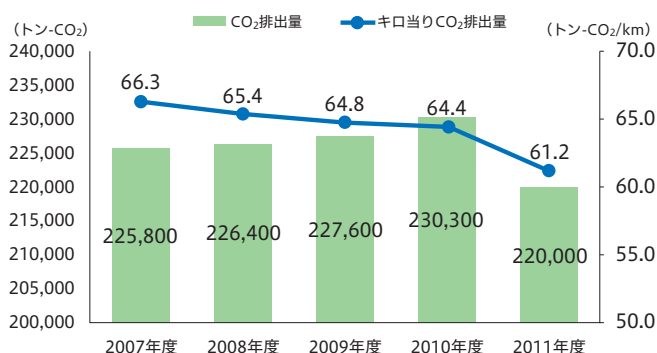
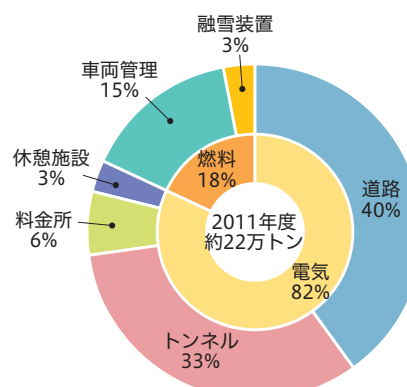
高速道路事業に関わるCO₂排出量の割合◎高速道路の維持管理におけるCO₂排出量の推移

NEXCO東日本が行っている高速道路の維持管理におけるCO₂排出量の推移は管理延長の増加に伴い増加していますが、管理延長あたりのCO₂排出量は微減しています。

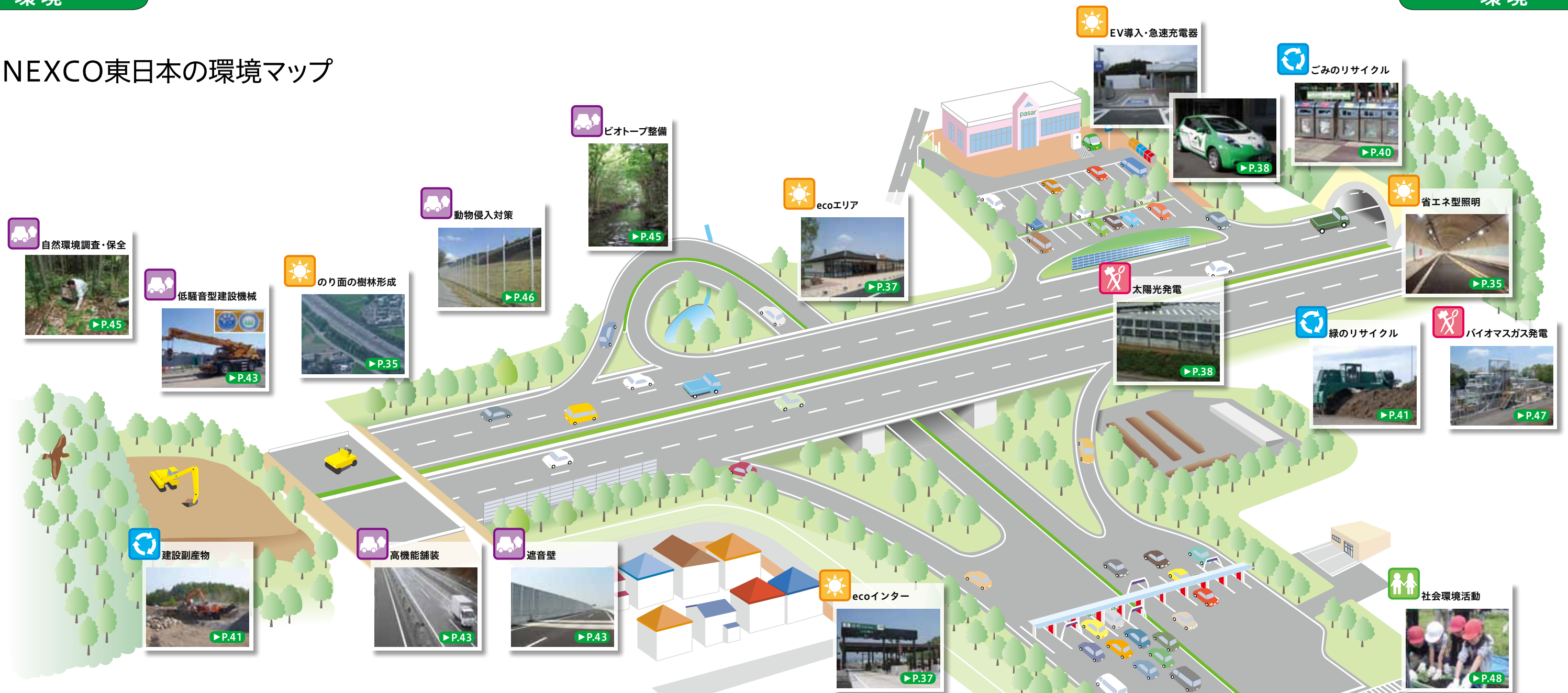
維持管理に係るCO₂排出量のうち、約8割は道路やトンネル照明など電気の使用によるものです。

電気使用量の削減は地球温暖化対策やエネルギー資源の節約にもつながることから、省エネルギー型の機器への更新及び効率的な機器・機材の

運用を実施し、管理延長1km当たりのCO₂排出量を2013年度には62.5トン-CO₂とすることを目標に取り組みを進めていきます。また、NEXCO東日本は、「エネルギーの使用合理化に関する法律」の改正に伴い、1,500kl(原油換算)以上のエネルギーを使用する企業として特定事業者指定されており、オフィスで使用するエネルギー使用量を、2009年度(約6,100kl)を基準に2014年度には5%削減(約5,800kl)することを目標に改善を進めています。

CO₂排出量の推移維持管理に関わるCO₂排出量の内訳

NEXCO東日本の環境マップ



高速道路ネットワーク整備

計画段階

建設工事段階

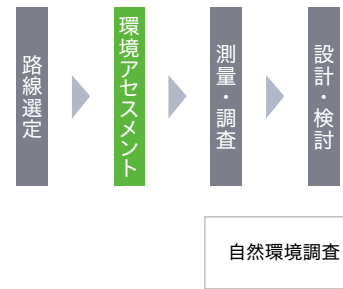
地球温暖化防止への貢献

循環型社会形成への貢献

環境負荷の低減

国・地方公共団体

NEXCO 東日本



のり面の樹林形成

間伐材の有効利用

スマート IC

省エネ型照明

低騒音・排出ガス対策型建設機械

建設発生土の有効利用

建設副産物の有効利用

建設発生木材の有効利用

建設汚泥の有効利用

グリーン調達資材

遮音壁の設置

高機能舗装

トンネル換気設備

生物多様性保全沿道環境の保全

自然環境の復元ビオトープ整備

高速道路管理・運営

のり面樹林の育成・管理

料金所渋滞対策 ETC 整備

本線渋滞対策

省エネ型照明化

ヒートアイランド対策

太陽光発電 EV 導入 急速充電器

緑のリサイクル

ごみの発生抑制

資源ごみのリサイクル

オフィスグリーン調達

遮音壁増設

高機能舗装化

騒音・振動低減

トンネル換気設備保守

動物事故対策

自然環境維持・追跡調査

技術開発

環境経営

・地球温暖化防止、循環型社会の形成、環境負荷の

低減に資するため、保有技術の活用や新たな技術開発に取り組みます。

・環境マネジメントを行い、その結果を CSR レポ

ートにより公表します。また、地域の皆さまと連携した社会環境活動に取り組み、社員の環境への意識向上に努めます。

地球温暖化防止への貢献

高速道路ネットワーク整備の推進、ETCの普及による料金所渋滞対策及び本線渋滞対策を実施し、交通の流れを円滑にすることにより、車両から排出されるCO₂の削減に貢献します。また、のり面の樹林形成を進めることにより、CO₂の吸収・固定を図ります。

●高速道路ネットワーク整備による環境改善効果

高速道路の整備により安定した速度での走行が可能となり、一般道路の利用に比べCO₂のほか、NO_xやSPMの排出量も削減されます。

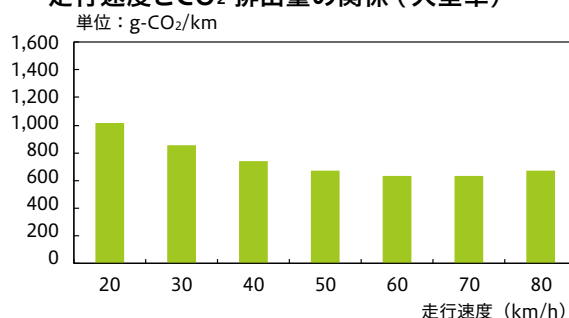
■2011年度開通によるCO₂削減効果

2011年度は、新たに道央道、道東道及び圏央道の4区間約58kmの高速道路ネットワークの整備を行いました。この結果、走行環境の改善や、一般道路の渋滞緩和などによってCO₂排出量が削減され、地球温暖化防止にも貢献します。

項目	2011年度に開通した高速道路ネットワーク整備によるCO ₂ 削減効果
CO ₂ 削減効果(推計)	約5万トン/年

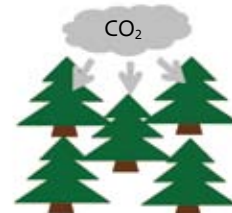
これは、約4,700haの樹林が1年間に吸収するCO₂量に相当します。

走行速度とCO₂排出量の関係(大型車)



○国土技術政策総合研究所「道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠(平成22年度版)」より作成

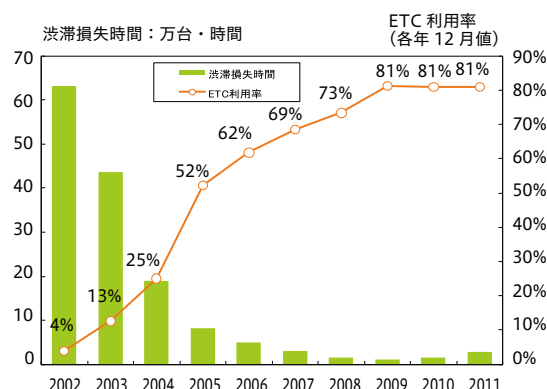
約4,700haの樹林が1年間に吸収するCO₂量を削減したことになります。



●料金所の渋滞緩和によるCO₂削減効果

2011年度は新たに9レーンのETC整備を行っています。料金所付近における渋滞損失時間は、3万台・時間で、2002年に比べ料金所渋滞は約95%減少しています。この効果をCO₂排出量に換算すると、年間4,540トンの削減と推計されます。

料金所渋滞とETC利用率の推移



CO₂削減効果(推計)

項目	2002年	2011年 (2010年)	減少・削減効果 対2002年 (対2010年)
料金所付近の 渋滞損失時間 (万台・時間)	63	3 (2)	▲60 (+1)
CO ₂ 排出量(トン/年)			▲4,540 (+80)



▲圏央道 白岡菖蒲料金所

●本線の渋滞によるCO₂ 排出状況

2009年3月より開始されたETC休日特別割引などで交通量が増えた影響により、2011年度の交通集中による本線の渋滞損失時間は、452万台・時間でした。2011年6月にETC休日特別割引制度が終了したこともあり、前年と比較すると渋滞損失時間は減少しました。

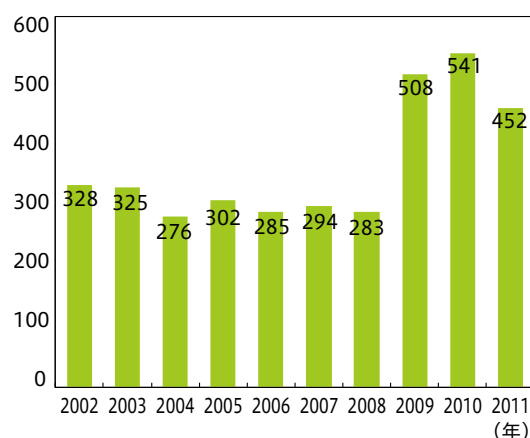
CO₂ 排出状況（推計）

項目	2002年	2011年 (2010年)	減少・削減効果 対2002年 (対2010年)
交通集中による 本線渋滞損失時間 (万台・時間)	328	452 (541)	+124 (▲89)
CO ₂ 排出量 (トン/年)			+3,600 (▲1,500)

※交通集中渋滞及びその他渋滞を含む(P67参照)

交通集中による本線渋滞損失時間の推移

渋滞損失時間：万台・時間



●省エネルギーと視認性に優れた照明の採用

トンネル内の照明を高圧ナトリウムランプから、Hf（高周波型）蛍光ランプへ変更することによって、自然な色合いでものを視認することができるとともに省エネにも貢献しています。

また、トンネル内の照明にLEDを導入するなど、更なる電力削減に向けた取り組みも行っています。

トンネル照明の使用電力削減量とCO₂削減量

項目	削減量（推計）
トンネル照明使用電力量	▲約2,300万 kWh / 年
CO ₂ 排出量	▲約1.3万トン/年

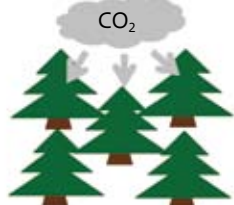


▲LEDのトンネル照明（道央道 鷲ノ木遺跡トンネル）

●盛土のり面などの樹林形成

2011年度は、新規開通路線において約27ha、営業中路線において約4haの植樹を行いました。これにより盛土のり面などの植樹面積は、2011年度末で、約3,600haとなりました。また、この植樹面積によるCO₂の吸収・固定効果は、年間約3.8万トンと推定されます。

約3,600haの樹林が1年間に
約3.8万トンのCO₂を吸収し
たと推定されます。



▲北関東道 足利IC～佐野田沼IC

●高速道路の「みどり」の機能

■みどりの機能

高速道路の樹木は、地球温暖化防止や生物多様性保全などの「環境保全機能」、季節感豊かな走行環境を創出し、周辺景観との調和を図る「景観保全機能」、視線誘導や遮光による走行環境の改善や地吹雪防止などの「交通安全向上機能」の3つの機能を持っています。これらの機能は、地域全体の環境保全にも貢献しており、「環境のこれから」にとっても非常に重要なものになっています。



▲ランドマークとなる“ポプラ”
(関越道 月夜野IC)



▲“サクラ”の開花
(新空港道 成田JCT～成田IC)



▲走行環境を改善する“ムクゲ”
(東北道 白石IC～国見IC)

■維持管理

高速道路の樹木は“いきもの”であり「植えてしまえば終わり」というわけではありません。緑化のさまざまな機能を発揮させるためには、健全な状態を維持して行くことが重要です。

NEXCO東日本グループでは一丸となって点検から、草刈・間伐などの管理作業を計画的に実施しています。



◀植栽点検



管理作業▶



▲“スギ”の管理作業（関越道 越後川口IC～小千谷IC）
密生状態では枝葉の成長が阻害され、CO₂固定機能が低下します（左）。また枯損や倒木のおそれもあることから、適度な密度となるよう間伐などの管理作業を行っています（右）。

COLUMN

高速道路のネットワークが提供する『緑の回廊』

NEXCO東日本では、道路敷地の約35%に草や木などによる緑化を行っています（緑地面積：約6,500ha）。道路緑地は、周辺の既存樹林とつながることにより、さまざまな生物の移動空間としての機能を果たす他、消失した緑地の代替や周辺の生物の生息・生育空間の質的変化を小さくするなど、生物多様性の保全や道路建設によるマイナスの低減（保全）効果があります。

また、周辺景観との調和や地球温暖化防止にも貢献しています。



▲造成直後（1980年頃）



▲31年後（2011年）

横浜横須賀道路の「のり面の森」

造成直後（左）から約30年が経過しましたが、現在では周辺と調和した樹林を形成しています（右）。

●「ecoインター」「ecoエリア」の取り組み

新たに建設するインターチェンジや休憩施設には、太陽光発電による自然エネルギーの活用や、省エネルギー設備を積極的に取り入れ、「環境にやさしい」施設の整備を進めています。



▲北関東道 足利インター



▲北関東道 出流原PA(西行き)



●休憩施設における環境への取り組み

CO₂排出量の少ないレジ袋をNEXCO東日本グループ直営店の全店舗に導入し、各店舗ではリユース箸を使用することで資源の有効活用に貢献しています。

また、関越道 三芳PAでは施設の周囲の照明に風力と太陽光で発電するハイブリッド照明を採用しています。



▲環境に配慮したレジ袋



▲リユース箸の導入



▲ハイブリッド照明(三芳PA)



●急速充電器の設置と電気自動車 (EV) の導入

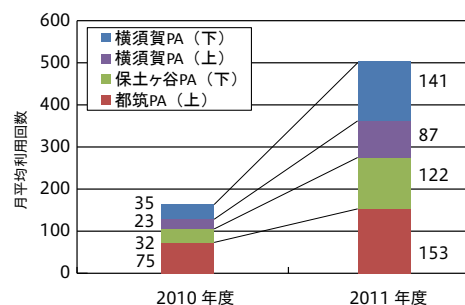
電気自動車の普及促進に貢献するため、急速充電器を神奈川県内や新潟県内に合計6基設置して利用状況の確認を行っています。今後は、関越自動車道を中心に急速充電器の設置を拡大していくことを検討しています。また、業務用車両として電気自動車を4台導入し、活用しています。



▲急速充電器(第三京浜道路 都筑PA)



▲電気自動車の導入



▲急速充電器の利用回数(神奈川県内)

●太陽光発電の採用

2011年度は太陽光発電を新たに5箇所設置し、2011年度末で合計約320kW分の太陽光発電を導入しています。また、道路空間という限られた範囲の中で、効率的に発電を行うことを目指し、遮音壁の裏面を活用した太陽光発電などにも取り組んでいます。



▲道東道 由仁PA(5kW)



▲東関東道 酒々井PA(100kW)

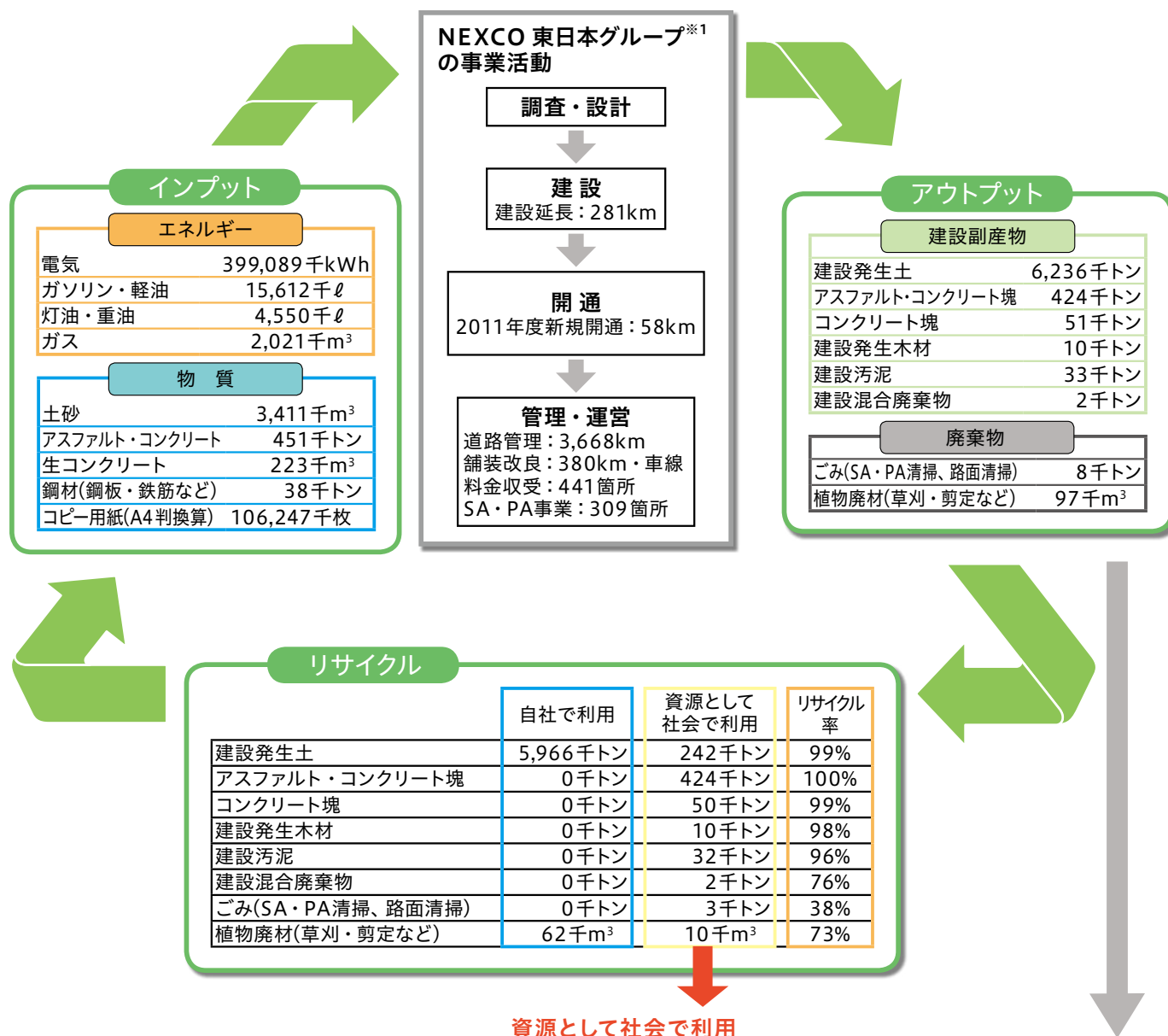


▲館山道 市原SA(遮音壁 両面受光型 13kW)
○共同研究: AGC硝子建材(株)

●事業に伴うエネルギー・物質の流れ(2011年度)

NEXCO東日本グループ^{※1}の事業におけるエネルギー使用は、トンネル・道路照明や事務室の照明などの電気、維持管理車両のガソリンや融雪装置などの燃料です。また、高速道路の工事では主に土砂、アスファルト・コンクリート混合物、生コンクリート、鋼材を使用しています。これら事業により排出された建設副産物、廃棄物(ごみ)については、可能な限り再生資源としてリサイクルを行い、循環型社会形成への取り組みを行っています。

エネルギー・物質の投入(インプット)と排出量(アウトプット)



※1: NEXCO東日本とNEXCO東日本グループ会社(27社)のうち、子会社(20社)のデータを集計

○エネルギー投入量: NEXCO東日本グループの2011年度事業を集計

○物質投入量: 2011年度に完了した工事を対象に主要資材(土砂、アスファルト・コンクリート、生コンクリート、鋼材)を集計

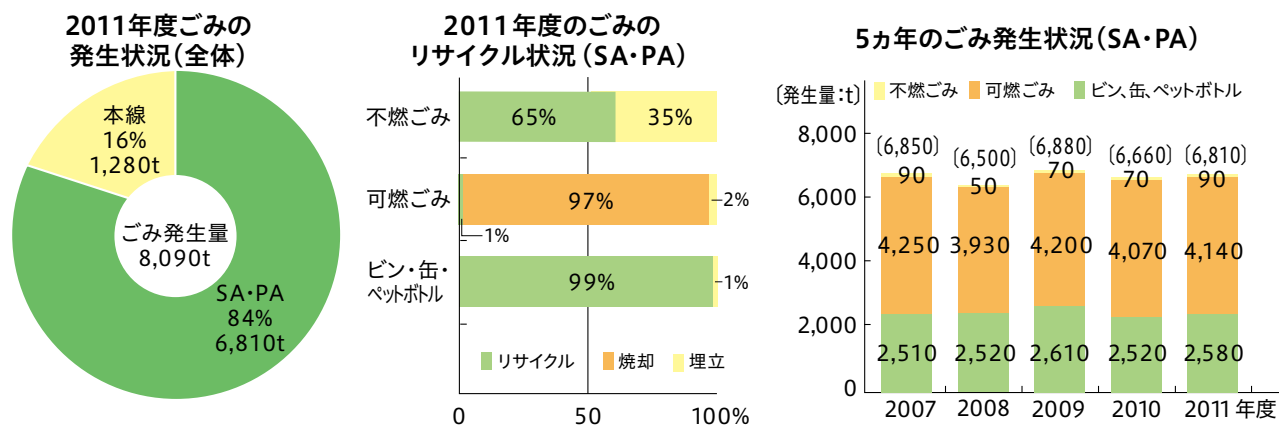
○物質の排出量: 2011年度事業を対象に建設リサイクル法に定められた建設副産物の他、SA・PAのごみ箱から回収されるごみ、路面清掃から回収されるごみ、及び草刈・樹木剪定作業により発生する植物廃材について集計

循環型社会形成への貢献

高速道路の管理運営・建設の事業活動において発生する建設副産物をはじめ、道路・休憩施設（SA・PA）で発生するごみや植物廃材のリサイクル、グリーン調達の推進など、循環型社会形成に向けて、積極的な活動を推進します。

●ごみの発生状況

高速道路で発生する“ごみ”は、2011年度は約8,090トンとなっています。このうち、約84%はSA・PAで回収されるごみで、残りの約16%は、高速道路の路面清掃で回収されるごみです。また、2011年度に発生したSA・PAの可燃ごみは2010年度と比較して、2%増加しました。



●ごみのリサイクル状況

SA・PAではごみの種別に合わせたごみ箱を設置し、ごみのリサイクルに努めています。2011年度のビン、缶、ペットボトルのリサイクル率は、ほぼ100%を達成しています。

引き続き、お客さまへごみの分別にご協力頂くとともにSA・PAから発生するごみの減量に取り組んでいきます。

ごみの種別に合わせたごみ箱▶



◀ごみの分別作業

COLUMN

使用済みユニフォームのリサイクル

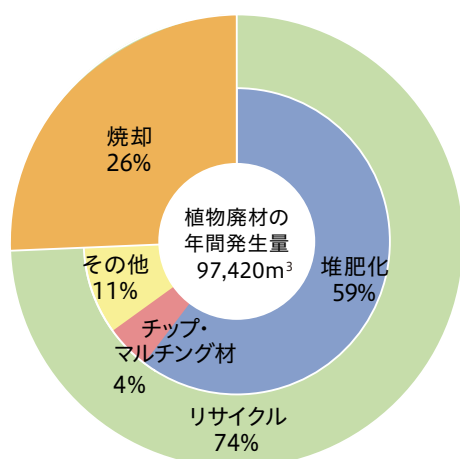
SA・PAの従業員が着用していた使用済みユニフォームを環境省の「産業廃棄物広域認定制度」で認定された業者を通じて、カーペットなどの新たな製品にリサイクルし、循環型社会の実現、CO₂排出削減に貢献しています。



● 緑のリサイクルの推進

2011 年度に樹木の剪定や草刈などの作業で発生した植物廃材は、約 9.7 万 m³ となっています。この植物廃材は、堆肥やチップ材として建設工事で再利用を行うなど、発生量の約 74% で“緑のリサイクル”を行っています。

緑のリサイクル状況 (2011 年度)



緑のリサイクル (堆肥)



緑のリサイクル (チップ材)



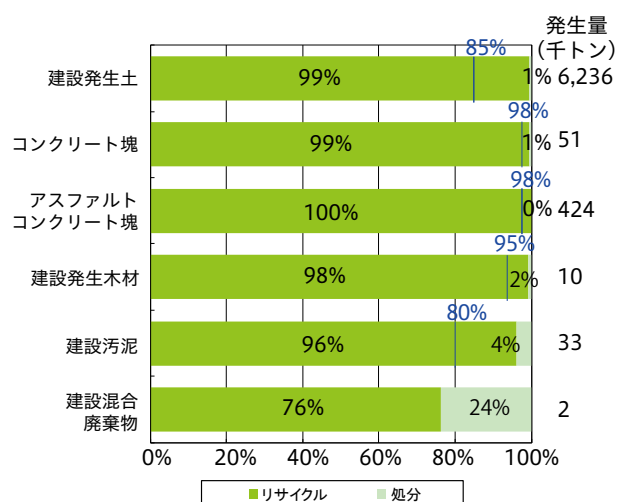
▲北関東道 出流原 PA

● 建設副産物のリサイクルの推進

高速道路の管理運営・建設事業において発生する建設発生土、コンクリート塊、建設汚泥などの建設副産物のリサイクルに取り組んでいます。2011 年度は、これらの建設副産物について、約 670 万トンのリサイクルに取り組みました (リサイクル率約 99%)。

今後も、建設副産物のリサイクルの推進に取り組めます。

建設副産物のリサイクル状況 (2011 年度)



※青字は「建設リサイクル推進計画2008」における2010年度目標値



▲コンクリート塊の小割り
(盛土材に再利用)

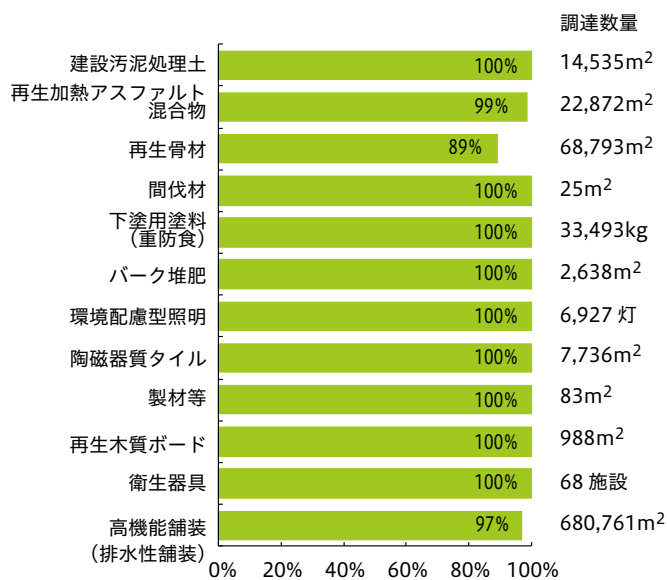
▲分別状況
(再利用の推進)

●グリーン調達の実進

■工事における取り組み

2011年度は、特定調達物品70品目のうち、当社の事業に関連のある37品目の調達に取り組みました。

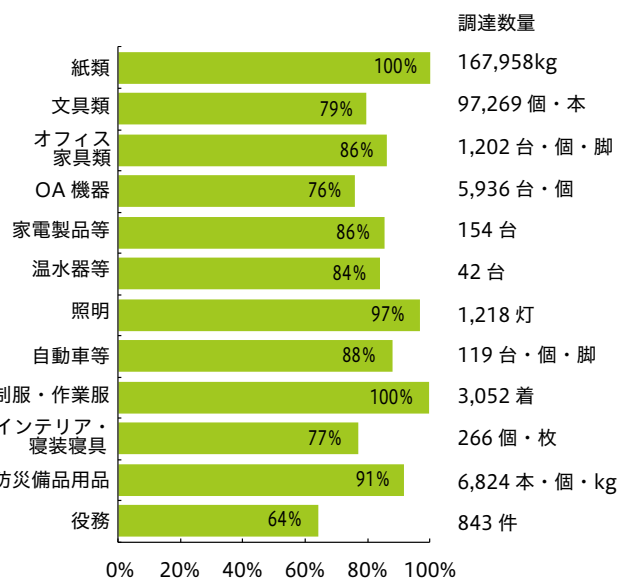
調達を実施した主な工事資材(2011年度)



■オフィス活動における取り組み

2011年度は、物品・役務に係る特定調達物品194品目のうち、150品目の調達に取り組みました。

オフィス関連(2011年度)



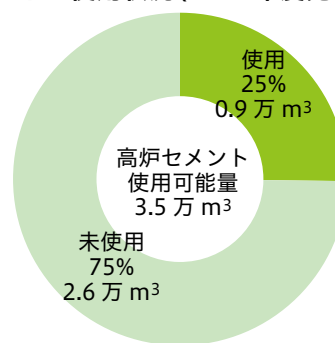
■混合セメントの利用促進

2011年度の完了工事では約0.9万m³の混合セメントが使用され、これにより約900トンのCO₂が削減されたと推計されます。

項目	混合セメントの使用によるCO ₂ 削減効果
CO ₂ 削減効果	約900トン

※セメントのLCIデータの概要(社)セメント協会より推計

混合セメントの使用状況(2011年度完了工事)



COLUMN

中温化舗装の取り組み

中温化舗装は、温度が通常より30℃程度低く、製造時の燃料消費量を抑えることができるため、通常よりCO₂排出量を約14%削減[※]することができます。2012年4月に新規開通した常磐自動車道 南相馬IC～相馬IC間(延長14km)では、全面的に採用するなど、中温化舗装を試験的に使用する取り組みを行っています。

※中温化(低炭素)アスファルト舗装の手引き(2012年4月 一般社団法人日本道路建設業協会)より



新規開通区間における採用
(南相馬IC～相馬IC間)

環境負荷の低減

事業活動の全ての段階における環境負荷の低減に努めます。

● 沿道環境に及ぼす影響の低減

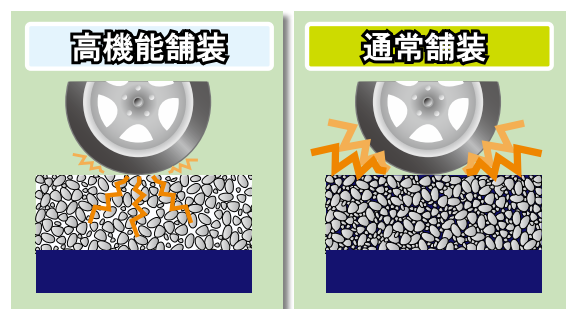
沿道環境に及ぼす影響の軽減を図るため、遮音壁設置による騒音対策や環境施設帯の整備などの対策を行っており、2011年度には、約6kmの区間に遮音壁を設置し、設置延長の合計は約1,000kmとなっています。その他にも騒音対策などを目的として高機能舗装や高架裏面吸音板の整備の取り組み、工事中の環境保全対策を目的として低騒音・排出ガス対策型建設機械の使用や工事中に発生する湧水の濁水対策などを行い、環境負荷の低減に配慮して事業を進めています。

■ 遮音壁・環境施設帯の整備



▲都市部の騒音対策イメージ

■ 高機能舗装の整備



▲隙間に空気が逃げ騒音が出にくい

▲タイヤ溝と舗装面に挟まれた空気の逃げ道がなく騒音が出やすい

■ 工事中の環境保全対策



▲低騒音・排出ガス対策型建設機械



◀遮音壁設置例



▲環境施設帯設置例

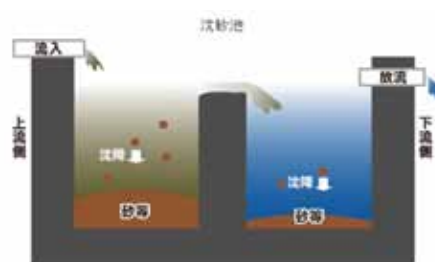
■ 高架裏面吸音板の整備



◀高架橋上から発生する音を遮蔽したり、高架橋の下を走行する車両から発生する音が高架橋に反射して拡散することを防止しています。



▲工事中湧水の濁水対策(沈砂池)



▲沈砂池イメージ

●自然にやさしい道づくり（エコロード）

NEXCO東日本は、将来にわたり自然環境と共存共生していく高速道路を目指して、野生動植物や自然環境保全策を道路整備に反映させる「自然にやさしい道づくり（エコロード）」を先進的に進めています。

エコロードは、自然環境への影響を緩和するだけでなく、道路内に新たな生息・生育環境を創出し、地域における生物多様性の保全や生態系の質的な向上を図っています。

エコロードの方針

エコロードの進め方として、道路による自然環境への影響を緩和する「マイナスの低減」、道路空間を利用して自然環境を創出する「プラスの付加」という考え方があります。

道路による自然環境への影響を緩和する

【マイナスの低減】

- (1) 生育・生息基盤の消失・縮小を少なくする
- (2) 移動経路の分断を防ぐ
- (3) 生育・生息環境の質的变化を小さくする

道路空間を利用して生育・生息環境を創出する

【プラスの付加】

保全（ミティゲーション）

- ①回避
- ②低減
- ③代償

※ミティゲーションとは・・・開発事業による環境に対する影響を軽減する全ての保全行為のことをいいます。

創出

■平面線形の変更

平面線形を谷側にシフトすることにより、山裾の地形改変を回避し、自然豊かな地域を保全しています。また、長大切土を避けることで防災上の安全確保に寄与しています。



▲山形道 月夜川橋

■既存林の保全

自然環境を保全し周辺景観との調和を図るため、ICのループ内の既存樹林を残しています。



▲東北道 滝沢IC

■貴重植物の移植

建設予定地において貴重植物が確認された場合は、工事前に環境が類似した場所への移植を行っています。



▲カントウカンアオイの移植作業(左)と活着状況(右)

■猛禽類の保護

建設中路線において希少動物であるオオタカが生息している区間では、飛翔状況・繁殖状況などのモニタリングを行いながら工事を行っています。



▲オオタカの雛の孵化

■環境築堤の整備

夜間の自動車のヘッドライトによる道路周辺の自然環境への影響を少なくするために、環境築堤を造成しています。



▲道東道 むかわ穂別IC～占冠IC

■ビオトープの整備

ICのループ内を利用して、メダカをはじめとする動植物が生息・生育できる“ビオトープ”の整備を行っています。



※ビオトープとは・・・
野生動植物が生息する空間のことをいいます。

▲青森道 青森中央IC

■地域性苗木による植樹

自然環境が豊かな地域において、道路を建設する場合、造成のり面には周辺地域に自生する樹木の種子を採取し、「地域性苗木」として育苗し植樹しています。

地域性苗木による植樹は2011年度末で約118ha（約17万本）となっています。



▲種子採取



▲育苗（2～3年）



▲植樹

■モニタリング

自然環境保全の取り組みは、道路が完成したら終わりというわけではありません。その後、どのように推移するかを把握・観察することも重要であり、経過年数に応じた調査を行い、新たな取り組みに反映させています。

横浜横須賀道路では、1990年に「ホタル水路」を整備して以来、モニタリング・維持作業を継続しており、毎年ホタル類や昆虫、鳥類の生息を確認しています。



▲ビオトープの管理作業

ホタル水路の状況



▲整備直後（1990年）



▲整備22年後（2012年）

■動物衝突事故対策の機能

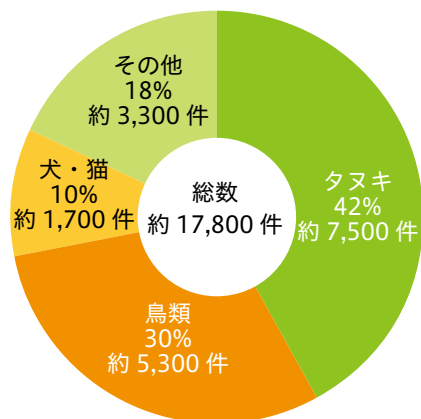
2011年には、交通管理巡回により約17,800件の動物の個体が処理されました。このうち、全体の約42%は「タヌキ」で、次いで、鳥類が約30%を占めています。

野生動物と車との衝突事故防止対策として、次の取り組みを行っています。

- 動物侵入防止柵の設置・改良
- 注意喚起のための標識設置
- 道路構造物を利用したけもの道の確保
- 交通管理巡回などによる動物の処理

このうち、車両との衝突が生じると重大な事故につながりかねない大型動物の侵入対策として、2011年度には、約85kmの動物侵入防止柵のかさ上げを行いました。

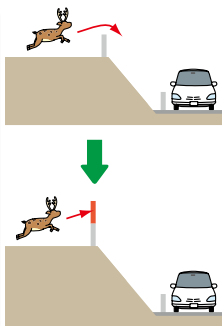
今後も、定期的にデータを収集し適切な対応を図っていきます。



侵入動物の処理状況
(2011年)



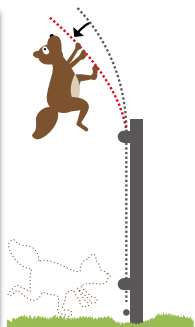
▲大型動物の侵入対策



▲鳥類の飛翔誘導ボールの設置



▲中小動物の侵入対策(しのび返し)



▲中小動物の侵入対策(下部閉塞)

COLUMN

野生動物と車両との衝突事故

野生動物と車両との衝突事故の要因として、次の事項が考えられます。

- 高速道路の通過地域はタヌキの生息域である里山が多いこと
- タヌキは夜行性であり、自動車のヘッドライトを見てすくんでしまう性質(タヌキ寝入り)があること
- 道路で事故にあった動物を餌とするために、鳥類などが飛来し、二次的な要因になること



▲タヌキ寝入り



▲本線上の餌の捕食

新たな環境技術の開発

環境保全に関する技術開発に取り組んでいます。

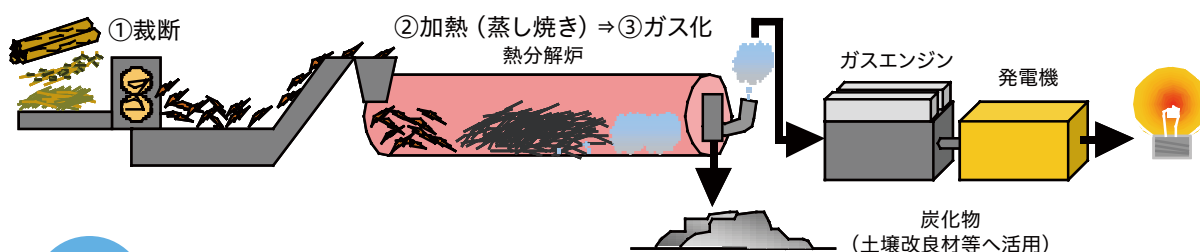
● 環境保全に関する技術開発

■ 植物廃材を活用した「バイオマスガス発電」

高速道路における草刈や樹木剪定などにより発生した植物廃材は堆肥やチップとしてリサイクルを行っていますが、資源（バイオマス）として更なる有効利用を図るため、「バイオマスガス発電」の実用化に向けた共同研究を東北道那須高原SAで進めています。

※バイオマスとは・・・生物を起源とする資源や燃料のことをいいます。

○共同研究 鉄建建設(株)、(株)オストランド



COLUMN

木質バイオマスの有効活用

東北地区では、防雪林の管理作業で発生した間伐材などから製造した木質ペレットを燃料としたペレットストーブを使用しています。

木質ペレットは、植物から作られた燃料のため、化石燃料に代わるカーボンニュートラルな資源として注目されており、ペレットストーブを使用する事で森林の健全な育成と地球温暖化の防止に貢献します。



バイオディーゼル燃料(BDF)車両の使用

使用済みのてんぷら油から製造されたBDF※を交通巡回車両や作業車両の燃料として使用しています。2010年度からは、SA・PAから出される使用済みてんぷら油をBDF化することで、CO₂削減のほか、高速道路内における「循環型社会形成」にも貢献しています。

※BDF(Bio Diesel Fuelの略)とは、菜種油・大豆油といった植物由来の油や天ぷら廃食油などから作られる軽油代替燃料のことです。燃焼によってCO₂を排出しますが、大気中のCO₂総量は増えないことから地球温暖化防止に貢献する再生エネルギーです。



▲BDF車両
ネクスコ・メンテナンス東北所有

環境をテーマとした社会貢献活動

持続可能な社会の発展のため、環境保全に関する社会貢献活動に取り組んでいます。

● 環境をテーマとした活動

■ 環境イベントへの参加

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ」に出展し、高速道路における「自然にやさしい道づくり（エコロード）」の取り組みやバイオマスガス発電など環境技術に関するPRを行いました。



■ エコハイキング

横浜横須賀道路・横浜環状南線は、自然豊かな地域を通過することからさまざまな「エコロード」の取り組みを行っていますが、自然と触れ合いながら高速道路の環境保全を身近に感じていただくハイキングを開催しています。



■ グリーンカーテンプロジェクト

新潟地区では夏季の節電のために休憩施設や庁舎、料金所において「ゴーヤ」などのツル植物を育てることで自然のカーテンを作っています。育成に当たっては地元小学生の協力のもとゴーヤの植栽・収穫イベントを開催しています。



■ インターチェンジの花植式

東北道福島西料金所において、復興支援などで高速道路をご利用されるお客さまに感謝の気持ちを込めてお出迎えしようと、地域の高校生の皆さんと花植を行いました。



社 会

社会から信頼される企業を目指して

NEXCO東日本は、社会的責任を全うすることで、社会から信頼される企業を目指します。お客さま、地域社会、国際社会、社員、取引先との信頼関係を重視し、CSR活動に取り組んでいます。



お客さま満足の向上

気持ち良くご利用いただける料金所を目指して

料金所では、笑顔でお客さまをお迎えし、正確かつ迅速な収受業務・交通状況に応じた適切なレーン開放をはじめとして気持ち良くご利用いただける料金所を目指しています。

● 正確かつ迅速な収受業務

複雑な車種判別、各種お支払い方法、料金割引に的確に対応して、正確かつ迅速な料金収受に努めるとともに、お客さまが気持ちよく料金所をご利用いただけるよう、お客さまとの日頃のコミュニケーションを大切にしています。

● 交通状況に応じた適切なレーン開放

絶えず変動する交通状況を過去の実績等により把握して、渋滞を発生させることのないよう、適切にレーン開放を行っています。

● ETCレーンのモニタリング

お客さまの安全と円滑な交通を確保するために、モニターで24時間確認し、必要に応じ適切にご案内を行っています。

● きめ細かなサービスと緊急時の迅速な対応

お客さまへの道案内や各種お問い合わせへの対応など、きめ細かなサービスに努めています。
また、通行止めなどの緊急時には、速やかにレーンを閉鎖し、お客さまの安全の確保に努めています。



▲お客さまから通行料金を収受



▲モニター確認によるお客さまご案内



▲レーン閉鎖

現場の声



ネクスコ東日本の顔としてお客さまと接する機会が多いので、料金所に花や季節感のある飾り付けを行い、お客さまに気持ちのよい雰囲気を提供できるよう常に心がけて業務に当たっております。

これからも、一期一会の思いで「安心・安全・快適」な道路空間を提供できるよう取り組んでまいります。

(株)ネクスコ・サポート新潟 新潟空港料金所
小林 裕

多様な割引制度の実施

ETC(有料道路自動料金支払システム)を活用した各種時間帯割引、ETCマイレージサービスなどに加え、NEXCO東日本独自の取り組みとして地域と連携した企画割引や開通記念キャンペーンを実施し、お客さま満足の向上に努めています。

●ご利用時間帯・頻度に応じた割引

ご利用の時間帯によって適用される各種 ETC 時間帯割引やご利用の頻度に応じて適用される大口・多頻度割引および ETC マイレージサービスなどを実施し、ご利用いただきやすい料金サービスを提供しています。また、国の政策に基づいた「高速道路利便増進事業」による料金引き下げの実施に協力しています。



※高速道路利便増進事業として、深夜割引は50%割引へ拡充中、通勤割引は100kmを超える区間についても、100km相当分を割引中。(2012年7月1日時点)

●地域と連携した企画割引

地元の観光協会や観光施設等と連携して、地域の観光シーズンなどに高速道路の料金がお得になる企画割引を展開し、多くのお客さまにご利用いただいています。(2011年度実施件数：7件)



●開通記念キャンペーン

新たに開通した区間を一定期間お試しいただけるよう、開通区間のご利用にマイレージポイントのプレゼントを行う開通記念キャンペーンを展開しています。



COLUMN

ETCがもたらす効果

ETCは、料金所渋滞の緩和による快適性向上をはじめ、キャッシュレス化による利便性の向上や弾力的な各種料金割引による料金サービスの向上、管理費の低減などの効果をもたらします。

料金所渋滞の
緩和による
快適性向上

キャッシュレス化
による
利便性向上

多様な
割引制度の導入
による
料金サービス向上

料金所での
排気ガス低減
による環境保全

管理費の低減

道路の安全・安心を守る取り組み

効率的かつ効果的な維持管理

高速道路の維持管理は、日常の維持管理と橋梁や各種施設設備などの老朽化に対する中長期的な取り組みを、きめ細かく現状を把握し、補修の時期や方法を十分に検討したうえで、トータルコストの縮減も考慮しながら計画的に進めています。

● 日常の維持管理

お客さまがいつでも安全・安心に高速道路をご利用いただけるよう、NEXCO 東日本グループ一体となって24 時間体制で、路面や橋梁、トンネル、道路施設設備などの状況を日々把握し、路面やトンネルなどの清掃・補修、草刈や樹木の剪定、交通事故や災害による復旧作業を実施しています。

■ 点検

路面や橋梁、トンネル、道路施設などの状況を日々把握し、緊急性・重要性を考慮した維持管理の作業計画を立案しています。



◀ 舗装路面たわみ量の測定



▲ CCDカメラによるトンネル内の点検



▲ 橋梁点検車による点検



▲ トンネル換気設備の点検

■ 清掃

路面清掃やトンネルの照明清掃を行うことにより塵埃から道路機能を保持し、沿道の環境、高速走行の快適性を保持するために行っています。



▲ 高速清掃車(時速50km)でのトンネル照明清掃

■ 植栽管理

植栽が有する「環境保全」「景観向上」「安全向上」の諸機能を十分発揮させるために植栽の手入れを行っています。



▲ 中央分離帯の草刈剪定作業

■緊急補修

路面や各種構造物などが損傷を受けた箇所の補修、取り替えを行っています。



▲路面に生じたポットホール(小穴)の補修

■設備保守

トンネル非常用設備をはじめとしたトンネル内諸設備の機能保持に努めています。

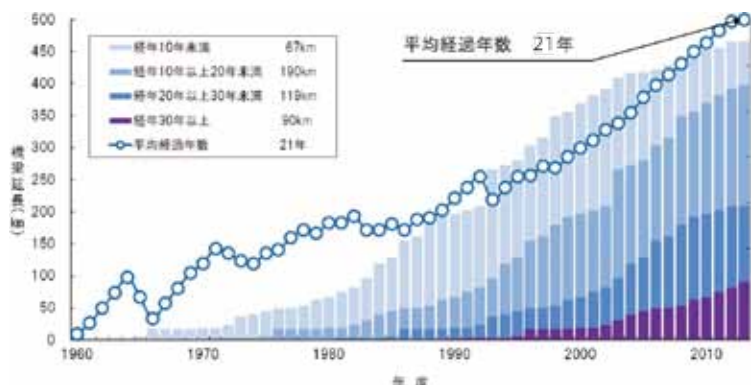


▲トンネル設備の保守作業

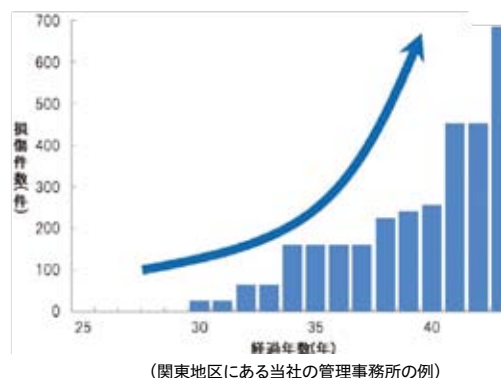
●高齢化の進む高速道路

高齢化の進む日本の高速道路。中でも橋梁は開通後、30年を経過する頃から、損傷が発生する割合が急激に高まります。

NEXCO 東日本 橋梁の経過年数

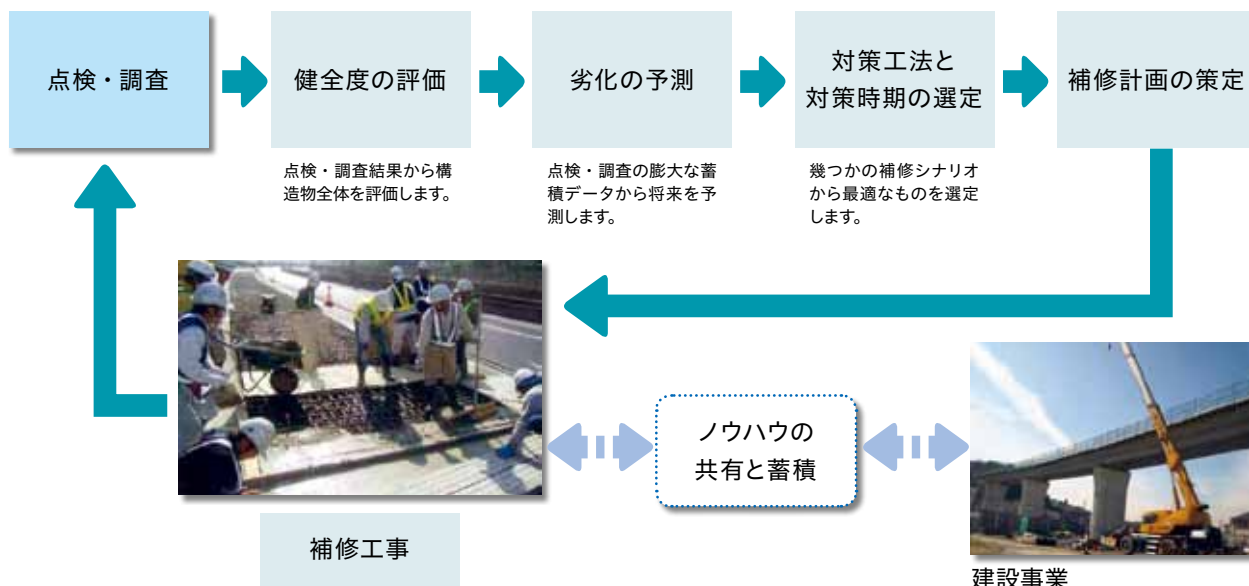


橋梁の補修が必要な損傷件数の推移の一例



●ライフサイクルコストを考慮した補修サイクル

点検・調査・劣化の予測、長期的な補修計画の策定、補修工事の実施により、NEXCO東日本グループが取り組む計画的な補修のサイクルを確立し、長寿命化とライフサイクルコストの最小化を目指します。



● 計画的な維持管理

高速道路の着実な整備が進む中、道路ストックの老朽化も進んでいます。橋梁や舗装などは、きめ細かく現状を把握し、中長期的な劣化の予測や適切な対策工法と対策時期の選定を行いながら、効果的・計画的に補修工事を実施しています。



▲コンクリート片はく落防止対策

■ 橋梁の補修工事

橋梁の補修工事は、長寿命化とライフサイクルコストの最小化を考慮した補修計画により実施しています。



◀鋼橋の塗り替え塗装

■ 舗装の補修工事

舗装路面の補修工事は、路面のわだち量やひび割れなどの状況を定量的に把握し、舗装路面の長寿命化を考慮した補修計画により実施しています。近年は、基層の損傷も著しいことから表層+基層の2層施工も実施しています。



▲舗装（表層）の打ち替え



▲基層以深劣化状況



▲基層劣化箇所の採取コア

現場の声



我々詳細点検員は、高速道路ののり面や橋梁、トンネル等の各構造物の健全性を把握するための点検を行っております。特に、トンネル点検は暗く粉じんの多い悪環境の中で、高所作業車により移動しながら覆工コンクリート全体を、どんな小さな損傷も見逃さず、早期補修になりうるよう、常にお客さまに安全・安心・快適な道路環境を提供すべく、道路を守るプロ集団（道路のお医者さん）として、日々頑張っております。

（株）ネクスコ東日本エンジニアリング 高崎保全計画センター 土木保全計画課長

塚田 芳則

■ 各種施設の更新工事

各種施設の更新工事は、日常の維持管理で実施している建物などの構造物点検結果や、設備の経年劣化に伴う故障統計解析結果に基づき、施設の延命化を考慮した更新計画を立案の上、施工しています。



▲情報板設備の更新状況

現場の声



高速道路には、電気・通信・機械などの道路設備があります。私たちは日頃から、こうした諸設備の状態を点検・監視し日常の清掃整備から補修にいたるまで対応し高速道路のホームドクターとして道路を見守り続けています。長年にわたり培ってきた技術や現場力を生かし、お客さまに安全・安心・快適・便利な高速道路を提供するよう努めています。

(株)ネクスコ東日本エンジニアリング 佐久道路事務所 佐久施設保全課長
山柴 和美

冬期の気象特性に対応した雪氷対策

●雪氷対策

高速道路で、年間1m以上の降雪がある重雪氷地域は全体の約6割、延長は約2,400kmに及びます。2011年度1シーズンでの、延べ雪氷作業延長は約861,000km(地球を約21周に相当)に及びました。

これらの雪氷作業をより効率的に行うために、「GPSを利用した雪氷車両運行システム」や、一部地域において「道路画像配信システム」を導入するなど新技術の活用に取り組んでいます。

また、地ふぶきなどの視界不良が頻発する区間では、視認性を確保するために、防雪柵・防雪林や自発光スノーポールなどを設置しています。



▲除雪作業



▲凍結防止剤散布作業



▲防雪柵



▲自発光スノーポール

現場の声



私たちは、道路の清掃・植栽・事故復旧・補修復旧・雪氷対策などを通じて、お客さまに信頼性の高い道路サービスの提供をすべく、24時間365日取り組んでいます。昨年は東日本大震災の緊急復旧工事を昼夜連続で行い、緊急車両を早期に通行させ震災復旧に貢献することが出来ました。改めて仕事の重みと誇りを感じ、これからも使命感に燃えて仕事に取り組み続けます。

(株)ネクスコ・メンテナンス東北 郡山事務所保全第一課長
移川 俊英

COLUMN

キャラクター「マンモン博士」による告知キャンペーン

お客さまに冬の高速道路を安全に走行していただくため、「マンモン博士の冬の高速道路講座」と称してキャンペーンを毎シーズン実施し、除雪作業等の取り組み、冬タイヤの装着や雪道の安全走行をお知らせしています。

また、天気や路面状態など、走行時に気になる雪道情報をホームページからも配信しています。

【キャンペーン期間：10月1日～翌年4月末まで】



▲ マンモン博士の冬の高速道路講座(トップページ)とキャラクターのマンモン博士(右)

ETCの普及に応じた安全性の向上

各種ETC料金割引の導入などにより、ETCの普及が進む中、お客さまがより安全・安心にETCをご利用いただけるよう、きめ細かな取り組みを行っています。

● 各種安全対策の推進

■ 速度抑制強化対策

ETCレーン内での追突事故等を未然に防止するために2009年3月16日より順次、開閉バーの開くタイミングを遅くする取り組みを実施するとともに、ETCで安全に走行していただくための「ETC安全5則」の広報活動を展開しています。



■ カラー舗装&凹凸薄層舗装

ETC車に対し、路面標示と凹凸による振動によってETCレーン進入時の速度の抑制を促しています。



■ ETCカード未挿入お知らせアンテナ

カード挿し忘れによるトラブルを未然に防止するために、料金所や本線上などで、事前にカード未挿入をETC車載器を通じてお客さまにお知らせするシステムを導入しています。



■ 安全通路

料金所係員などがETCレーンを横断する際の通行車両との接触事故等を防止するために、安全通路を設置しています。

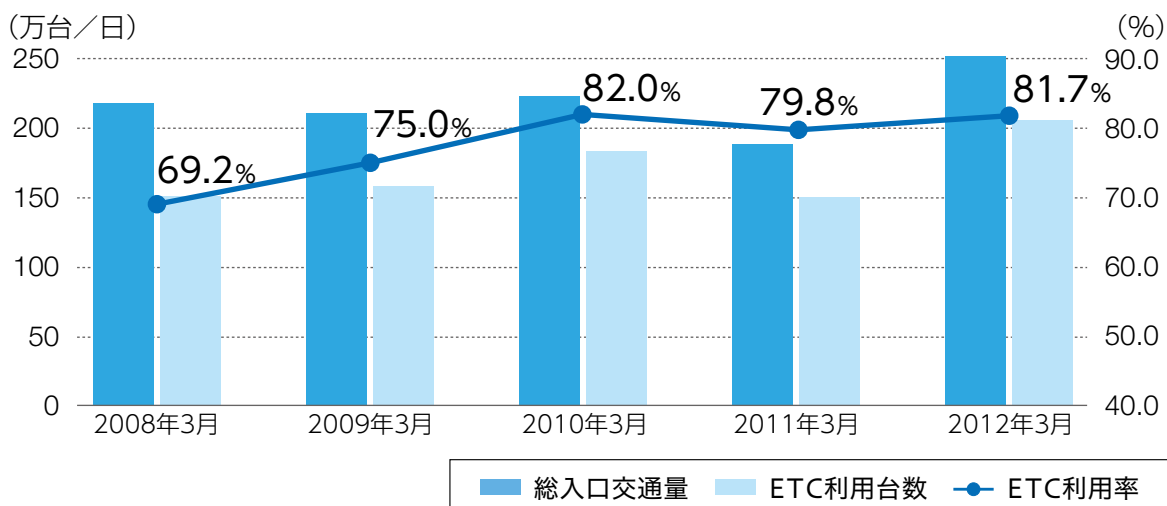


■ ETCセンサーの雪障害対策

雪による通信障害のトラブルを防止するため、ヒーターなどにより、雪塊がETCセンサーの表面につきにくい工夫をしています。



ETC利用率の推移



不正通行対策

「不正通行は許さない」という毅然たる姿勢で対策に取り組んでいます。不正通行対策本部を設置し、不正通行者を特定するための不正通行監視カメラや一般レーンの開閉バーの設置、警察への通報・捜査への協力など対策の強化を図っています。



▲不正通行監視カメラの映像



高品質な高速道路を目指した技術開発・品質管理の取り組み

安全性・快適性の確保、道路の耐久性向上・長寿命化、点検・検査手法の高度化など6つの柱をもとに、将来にわたり安全・快適にご利用いただける質の高い高速道路を管理運営・建設するために、さまざまな技術開発に取り組んでいます。

また、新たな手法や調達方式の導入を図り、コスト削減と品質の向上を図っています。

● 技術開発の取り組み

NEXCO東日本がNEXCO中日本、NEXCO西日本と共同して行う技術開発については、3社共有の関連会社である(株)高速道路総合技術研究所(NEXCO総研)で実施しています。

一方、地域特性、路線特性を背景とした固有の課題を解決するための技術開発については、各地域のグループ会社と協働して取り組んでいます。

また、外部技術力を積極的に活用するために「TIネットワーク(Technical Interchange Network)」という他企業との情報交流の場を当社Web上に開設(P60参照)し、技術提案の受付や募集を実施するとともに、大学等の研究機関や民間会社との共同研究にも積極的に取り組んでいます。

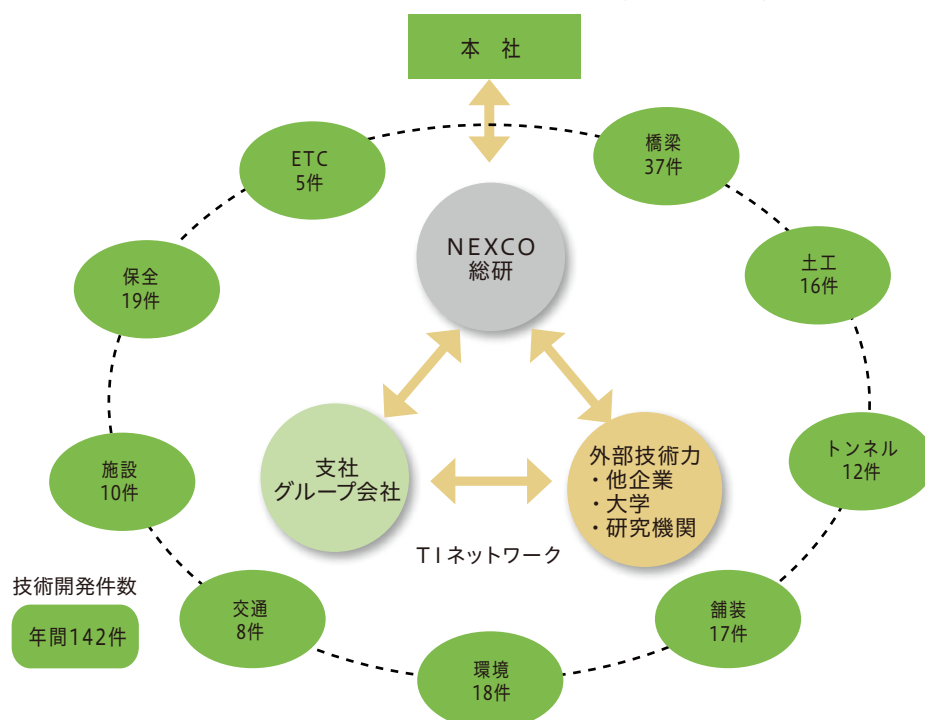


▲「音声認識技術を活用した構造物点検支援システム」の開発(グループ会社)



▲国内唯一の大型回転式舗装試験機(NEXCO総研)

《 技術開発における6つの柱と技術開発体制 》



安全性・快適性の確保

道路の耐久性向上・長寿命化

点検・検査手法の高度化

雪水作業の高度化・省力化

保全作業の効率化・安全性確保

環境
(CO₂削減・リサイクル)

● 技術開発の事例

■ トンネルにおける中流動覆工コンクリートの開発

(NEXCO総研)

(2010年度 土木学会 技術開発賞 受賞)

トンネル地山と型枠の間にコンクリートを隙間なく充填するために、流動性の高いコンクリートを開発しました。これにより、トンネルコンクリート背面空洞の発生を抑え、より密実なコンクリートを施工することができます。



▲トンネルコンクリート



▲従来コンクリート（水気が少なく硬い）



▲中流動コンクリート
(同じ水分量でもやわらかい)

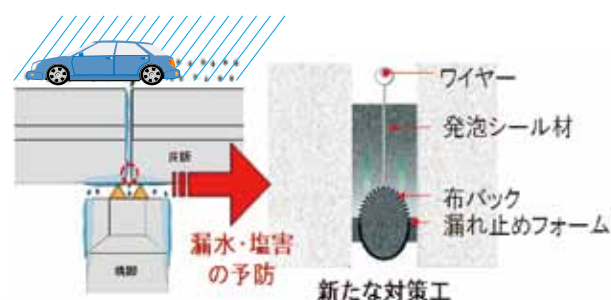


▲中流動コンクリート施工イメージ

■ 橋梁伸縮装置部の小遊間止水工法の開発

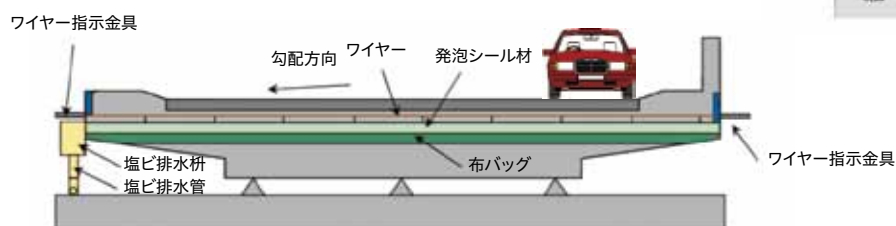
(関東支社)

凍結防止剤(塩分)を含んだ漏水が床版や橋脚に付着するとコンクリートがひび割れを起こし、橋梁の耐久性が低下します。この問題を解決するため、通行止めをせずに狭い遊間(小遊間)を止水する工法を開発しました。



※遊間とは …

橋のつなぎ目に設けられた温度変化による橋げたの伸縮に対応するための適度な遊びの部分のことをいいます。



小遊間止水工法イメージ

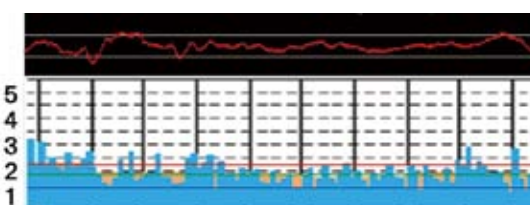
■ 路面の平坦性を簡易に測定する装置の開発

(グループ会社)

走りやすさを簡易に測定評価するために、低コストでかつ精度がよく、特別な車両を必要とせずにリアルタイムなデータ収集が可能な利便性が高い装置を開発しました。この装置を導入することにより、リアルタイムに走りやすさの評価が行えるようになります。



路面の凹凸を測定して数値化



路面の凹凸（縦断方向）と
乗り心地評価値

● 外部技術力の活用

民間企業などからの技術提案を受け付ける窓口として、「TI ネットワーク」を開設しています。

2011 度末までに、橋梁ジョイント部の新型突発騒音吸収装置やバイオマスガス発電等、5 回 19 テーマの技術の募集を行い、新しい技術の共同開発を進めています。

 <http://www.e-nexco.co.jp/bids/tinet/>

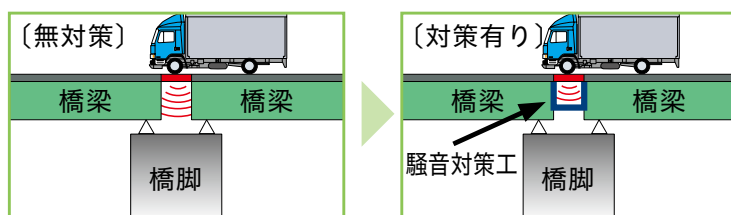
■ 橋梁ジョイント部の新型突発騒音吸収装置の開発

(2010年度 土木学会 環境賞 受賞)

橋梁の伸縮装置(ジョイント)部を車両が通過した際に発生する騒音を防止するため、吸音性能が高くかつ軽量である材料を用い、狭小な橋梁桁下空間にも容易に設置できる製品を開発しました。

なお、この装置は当社が特許を保有しており、既に複数の橋梁ジョイント部に設置されています。

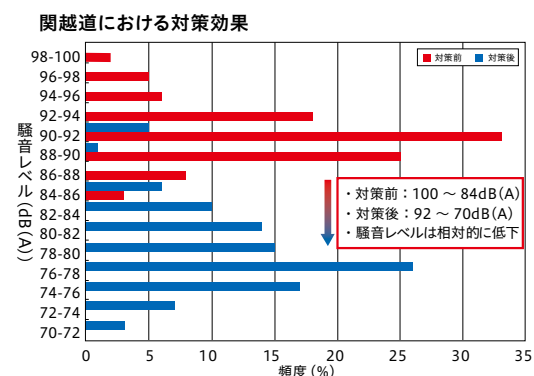
(特許第4982767号)



▲無対策の場合、音が下部に漏れる場合がある。

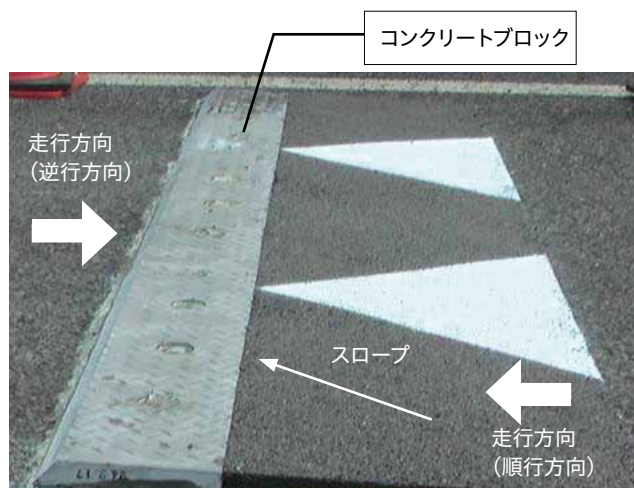
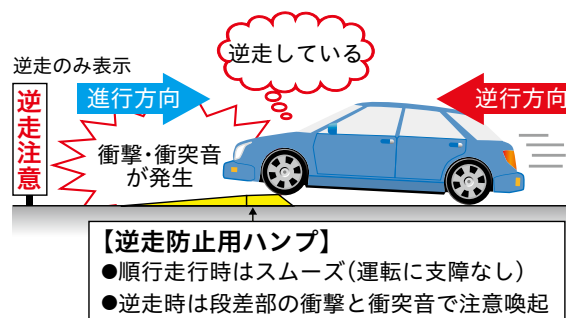


▲設備状況 (横浜横須賀道路)



■ 簡易な誤進入防止対策

高速道路の休憩施設やインターチェンジで発生しうる誤進入(逆走)を防止するために、低コストで誤進入防止効果のある新たなシステムを「TI ネットワーク」で公募し、提案のあった企業と共同研究開発を実施しました。



また、大学との研究協力も進めており、東京大学大学院情報学環と「情報社会基盤に関する研究協力協定」を締結しています。相互に情報や意見の交換を行い、情報技術の活用によるインフラの高度化に向けた共同研究に取り組んでいます。

 http://www.e-nexco.co.jp/pressroom/press_release/head_office/h23/0106/

■ITを用いた点検の効率化技術の開発

情報の自動収集・共有に関する技術を活用して現場における点検業務を最適化し、現場における点検業務を効率化しました。また、大容量情報の解析に関する技術を活用して熟練者が持つ暗黙知を形式知化し、損傷評価等の知的作業を支援するとともに技術者の育成にも活用しています。



▲損傷判定システム内の損傷事例



▲点検業務の流れ

●品質の確保

規格の陳腐化、求める性能の明確化、他基準との整合性、コストの視点から、資材・施工に関する独自規格の見直しや、「設計意図の正確な伝達（継承と反映）」を目的とした発注者・施工者・設計者による三者協議制度の導入、不定期検査の全面導入、中間技術検査の導入などの新たな品質確保の取り組みを実施しています。



◀路面性状測定車

コンクリートの
圧縮強度試験▶



●最適調達推進の取り組み

他企業等の最新の技術力を活用することが可能となる、新しい調達制度を構築するなどして、価格と品質で総合的に優れた調達を推進しています。



◀資材を直接調達
(調達時の検査状況)

入札前の技術提案▶
(コンクリートの養生方法を
採用した工事)



快適なドライブのサポート

道路状況・交通状況の把握と提供

交通管理巡回などにより、刻々と変化する道路状況・交通状況を把握し、道路交通情報の迅速な提供や、異常事態への対応により、お客さまの安全で快適なドライブをサポートしています。

● 交通管理巡回

定期または臨時に高速道路を巡回し、渋滞発生の有無などの交通状況、落下物の有無などの道路状況、気象状況などの情報を収集しています。



▲出勤前の朝礼

また、異常事態が発生した時には現場へ急行し、落下物の排除、交通警察や消防機関とともに事故対応、故障車などに対する支援などを行います。



▲巡回状況

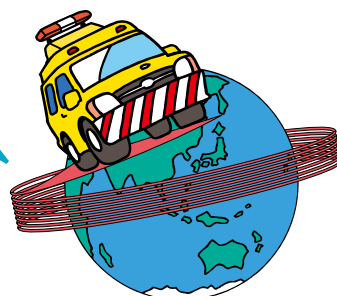


▲落下物の処理作業

2011年実績

落下物などの処理数	約133,300件
交通管理巡回距離	約19,900,000km(地球約498周)

地球
約498周／年



現場の声



24時間365日、定期的に高速道路のパトロールを行い、事故、落下物などの緊急時には、速やかに現地に到着し、交通警察や消防など関係機関と連携して、1分1秒でも早く円滑な交通を確保できるよう努めています。お客さまに、安全・安心・快適な高速道路をご利用いただくために、身体を張って頑張っています。

(株)ネクスコ・パトロール関東
三郷事業所
主任 市野 欽也

●交通管制室

交通管制室では、管区警察局高速道路管理室とともに、異常事態の有無、道路状況、気象状況などを把握し、お客さまへ情報提供しています。異常事態発生時には、現場の交通管理隊などに対し、事態の処理に関して適切な措置をとるよう指示するとともに、必要に応じて消防車、救急車などの出動要請、他の道路管理者、河川管理者、関係自治体への連絡も行っています。



▲交通管制室

●道路交通情報の提供

本線情報板やハイウェイラジオで走行中のお客さまにリアルタイムの情報を提供しているほか、SA・PAやインターネットでも道路交通情報を提供しています。

■本線情報板

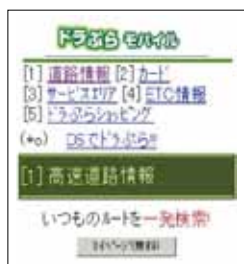
	インターチェンジの手前に設置されています。
	ジャンクションの手前に設置され、進行方向の道路ごとの道路交通情報を提供します。
	主要インターチェンジまでの所要時間を表示します。
	サービスエリア・パーキングエリアの混雑状況を表示します。

■インターネット・携帯電話による情報提供

ドライブ旅行の情報サイト「ドラぷら」ではより詳しい地図を使って、全国の道路交通情報を提供しています。また、同サービスは携帯電話専用サイト「ドラぷらモバイル」でもご利用できることに加え、新たにスマートフォンによるサービスを開始しました。

 <http://www.driveplaza.com/>

 <http://m.driveplaza.com/>



〔携帯電話表示画面〕

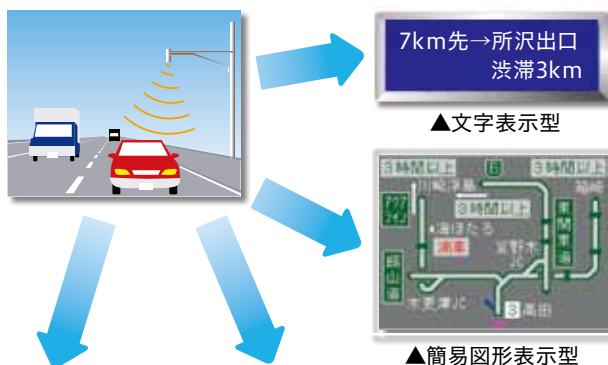


〔スマートフォン表示画面〕

※道路交通情報は(財)日本道路交通情報センター(JARTIC)の提供に基づき提供しています。

■VICS(道路交通情報通信システム)

道路上に設置したビーコン(情報送信装置)やFM多重放送により、VICS対応の機器をご利用のお客さまに、渋滞情報、所要時間情報、交通規制情報などの道路交通情報を(財)道路交通情報通信システムセンターを通じてリアルタイムに提供しています。また、ITSスポットサービスと呼ばれる新しい道路交通情報サービスを2011年から運用開始しました。



▲文字表示型

▲簡易図形表示型



▲ITSスポットサービス表示例



▲地図表示型

■ハイウェイラジオ

高速道路に沿って設置したアンテナからAMラジオ放送(1620kHz)を通じて5分更新で道路交通情報を提供しています。



■サービスエリア・パーキングエリアでの情報提供

ハイウェイ情報ターミナルや掲示板、インフォメーションで道路交通情報を提供しています。



交通安全対策・啓発活動

安全で円滑な交通を確保するため、さまざまな安全対策を通じて走行環境の向上を図っています。また、不正な通行をする車への毅然たる対処や、交通安全啓発活動の推進により安全性の向上を図っています。

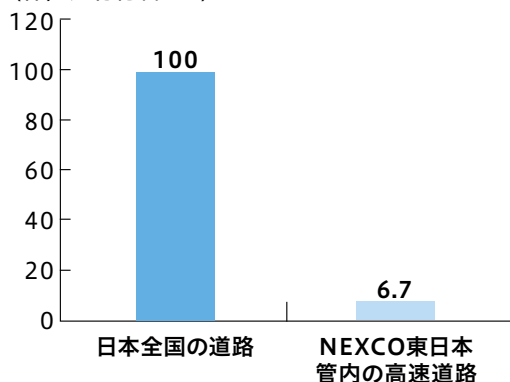
●交通安全対策

自動車専用道路である高速道路は安全性が高く、死傷事故率は、日本全国の道路の約15分の1となっています。NEXCO東日本グループでは交通事故を防止するため、道路の機能向上に努めています。例えば、高機能舗装を採用することにより雨天時の走行環境を改善し、高視認性区画線や自発光デリニエーターにより夜間の走行環境を改善さ

せています。また、事故防止のための中央分離帯防護柵の強化、導流レーンマーク、逆走防止のための路面標示の改良、逆走防止装置の設置、暫定2車線区間の車線逸脱防止のための凹凸型路面標示、大型動物の侵入防止対策なども実施しており、安全性の向上を図っています。

■死傷事故率比較

(件／走行億台km)

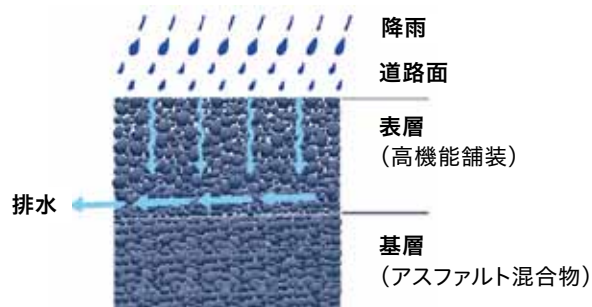


※日本全国の道路は警察庁データ(2010年値)
NEXCO東日本管内は警察庁データ(2011年値)をもとに算出

■高機能舗装

高機能舗装は、従来の密粒度舗装よりも空隙が多いため、排水機能や騒音低減効果に優れており、高速走行時の安全性の向上につながります。新たに建設する高速道路や、舗装改良を行う箇所でも全面的に採用しています。

高機能舗装の排水機能イメージ



▲夜間事故対策
(自発光デリニエーター)



▲強化型防護柵
(中央分離帯)



▲導流レーンマーク



▲逆走防止装置



▲暫定2車線区間の車線逸脱防止対策(凹凸型路面標示)



▲大型動物侵入防止対策



●高速道路ヒヤリマップ

ドライバーの皆さまに、適切な速度で特に注意して運転していただきたい箇所、注意内容をまとめた「気をつけて！高速道路ヒヤリマップ」や、主な渋滞発生状況・発生原因等を掲載した「渋滞ポイントマップ」をドライブ旅行の情報サイト「ドラぶら」に掲載しています。

 <http://www.driveplaza.com/traffic/map/>



▲気をつけて！高速道路ヒヤリマップ

▲チェックポイントの表示

●法令等違反車両取り締まり

道路を通行することができる車両諸元（重さ・長さ・高さ）の最高限度値や、長大トンネルなどを通行する際に積載することができる危険物などは、法令等で定められています。これらの法令等違反車両の指導取り締まりを、入口料金所などで実施しています。



▲法令等違反車両の取り締まり

●ハイウェイドライビングシミュレータの開発

高速道路などを安全に走行していただくために、お客さまが動画CGでバーチャル体験できるシミュレータを開発しました。各休憩施設などでのイベント時にお客さまにご利用いただいています。



◀画像 CG イメージ



◀ハイウェイドライビングシミュレータ

■ハイウェイドライビングシミュレータの運用状況

2011佐久バルーンフェスティバルより



お客さまと一体となって、交通安全を推進しています。

● マナーアップキャンペーン



マナーアップキャラクター
「マナーティ」

「HEARTFUL HIGHWAY～みんなのハイウェイに、みんなのマナーを。～」と銘打ち、「マナーアップキャンペーン」を展開しています。お客さまから寄せられたルールやマナーに関する多くのご意見、ご要望を参考にPRテーマを決定し、高速道路を利用されるすべてのお客さまに「知ってほしいルール」や「気づいてほしいマナー」をお伝えしています。各地でのイベント、SA・PAでのポスター掲示や高速道路のマナーBOOK配布、ホームページなどでさまざまなPR活動を展開していますので是非ご覧ください。



▲みんなのマナー宣言！

◀マナーアップポスター
全17種



高速道路の
マナーBOOK▶

● 交通安全キャンペーン・イベント開催

地域の警察や交通安全協議会などと連携して、交通安全キャンペーンを実施し、安全運転の呼びかけを行っています。



▲交通安全キャンペーン実施のようす



▲プロドライバーの篠塚建次郎氏によるスノードライビングスクール



● 交通安全講習会

高速道路をより安全・快適に走行いただくために、各種安全運転講習会・道路管制センター見学会等を実施しています。



▲管制センター見学会



▲家族向け現地見学会



▲高齢者向け安全運転講習会

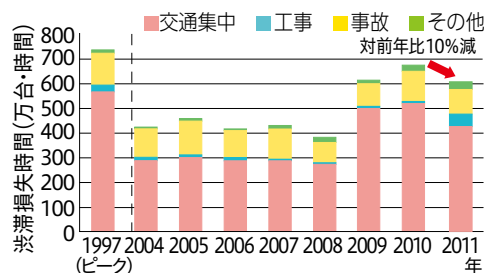
渋滞緩和に向けた取り組み

●渋滞の推移と主な原因(2011年)

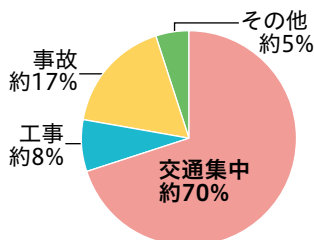
渋滞損失時間は、各種対策の実施によって、2008年にはピーク時の5割程度に減少しましたが、休日特別割引が開始された2009年以降、大幅に増加しました。しかし、2011年は休日特別割引(地方部上限千円)などの終了により、渋滞損失時間は対前年

比約10%の減となりました。渋滞原因の約70%が交通集中によるもので、このうち、上り坂およびサグ部が約64%、インターチェンジ合流部が約13%となっています。また、2011年は東日本大震災の影響により、工事渋滞が前年と比較して増加しています。

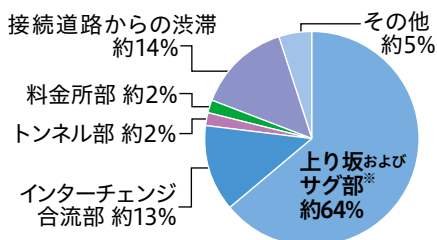
渋滞損失時間の推移



渋滞の発生原因



交通集中の発生場所



※下り坂から上り坂にさしかかる凹部をサグ部といいます。

●交通集中渋滞緩和のための主な対策

長い上り坂やサグ部では無意識に起こる速度低下により渋滞が発生します。

主な対策として、付加車線(ゆずり車線など)などを設置して交通の流れをよくしたり、渋滞の先頭付近でのLED速度回復板による情報提供などの対策を実施し、渋滞緩和に努めています。

付加車線による渋滞対策

【2011年度末までに設置された付加車線】

●東北道 矢板IC(上り)	合流車線の延伸	[2010年 7月完成]
●関越道 本庄児玉IC(上り)	減速車線の延伸	[2010年 12月完成]
●関越道 花園IC付近(上り)	ゆずり車線の設置	[2011年 3月完成]
●関越道 渋川伊香保IC(上り)	合流車線の延伸	[2011年 3月完成]
●京葉道 花輪IC付近(上り)	合流車線の延伸	[2011年 9月完成]

【今後の付加車線設置予定箇所】

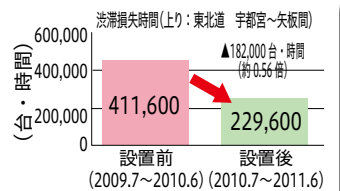
関越道	
●高坂SA付近(上り)	[2013年度完成予定]
●花園IC(上り)	[2015年度完成予定]
東北道	
●岩舟JCT付近(下り)	[2015年度完成予定]
京葉道路	
●六川IC～貝塚IC間(上下線)	[2013年度、2015年度完成予定]



▲関越道(上り)花園IC付近 ゆずり車線設置



▲東北道(上り)矢板IC合流車線延伸



▲付加車線設置による渋滞削減効果

LED速度回復板の情報提供による渋滞対策

①渋滞先頭より300m～1km程度手前「渋滞終了」を予告する表示

②渋滞先頭付近「速度回復」の行動を促す表示



▲渋滞予報ガイド(冊子)



▲スマホによる渋滞予測の公表



▲渋滞の先頭付近



▲渋滞の先頭から1km 手前

お客さまへのおもてなし

魅力あるSA・PAを目指して

お客さまへのより一層の快適・安心なサービス提供のためにさまざまな取り組みを行っています。

●サービスの向上

お客さまの満足度向上のため、基本的なサービスの向上を目指す「礎づくり」と、地域の特徴を活かした個性的で魅力的な店舗作りを目指す「華づくり」を基本コンセプトとしたSA・PAのレベルアップに取り組んでいます。“Pasar(パサール)”をはじめ、“ドラマチックエリア”、“テラス空間”、“テーマ型パーキングエリア”といったこれまでのイメージを刷新した4つのカテゴリーのエリアを展開しています。



●ドラマチックエリアの展開

ドラマチックエリアは、地域の特徴を活かしたSA・PAであり、地域性の充実にこだわり、特産品を取り揃え、目的地へ向かう途中で立ち寄られるお客さまに、その地域ならではの旅の「ドラマ」を演出しています。



上信越道 横川SA(下り)
2011年3月28日オープン

「軽井沢ゲート」をコンセプトにしたリゾートあふれるSAを演出しています。



東北道 那須高原SA(下り)
2011年12月21日オープン

「那須・句感リゾート」をテーマに快適な高原リゾート空間を演出しています。

● NEXCO東日本接客コンテスト

SA・PAで働くスタッフを対象に2010年から「接客コンテスト」を開催しています。コンテストでは、研修の成果発表と接客技術の向上、スタッフのモチベーションアップを目的とし、9つの地域ブロック予選を勝ち抜いた精鋭が本選で競い合いました。出場したスタッフが手本となり、店舗全体の接客技術向上に繋がっています。



▲ 2012年3月8日 第6回
NEXCO東日本接客コンテスト
の模様

現場の声



Pasar幕張は、毎日たくさんのお客さまがご利用になります。休日、家族連れのお客さまが楽しそうに食事をされている風景を見ると心が癒されると同時に、もっといいエリアにしなければとの強い気持ちが生まれます。Pasar（パサール）一号店としての使命を再認識し、お客さまが笑顔でお食事・お買い物を楽しんで頂ける商業施設を目指したいと思います。

ネクセリア東日本(株)京葉支店 Pasar幕張 館長
青木 洋一

● エリアコンシェルジェ

33カ所のSA・PAのインフォメーションに「エリアコンシェルジェ」を配置し、お客さまからの高速道路に対するさまざまなご要望（渋滞情報・料金案内・道路案内等）に対し、きめ細かく対応しています。



▲ エリアコンシェルジェ



▲ 接客研修

● タブレット端末を用いたお客さまへの案内

SA・PAのインフォメーションではタブレット端末を活用し、お客さまに観光地などへの経路、エリアのお勧め品等を案内しています。海外からのお客さまの問合せが多い道央道 輪厚PAや東関東道 酒々井PAでは、より詳しく、迅速にお応えするため、通訳オペレータによるご案内サービスを進めています。



◀ タブレット端末を活用
したご案内

現場の声



私たちエリアコンシェルジェは、お客さまにご満足いただけるよう、お役に立つ情報を積極的に発信し、旅のパートナーとして誠心誠意おもてなしすることで、お客さまのドライブをサポートしています。

なお、お立寄の際はお気軽にお声がけください。

(株)ネクスコ東日本エリアサポート 三芳インフォメーション チーフコンシェルジェ
北沢 佐代子

地域のショーウィンドウ化

東日本の各地を走る高速道路。その旅にもうひとつのよろこびを実感していただくために、SA・PAでの一步進んだサービスの提供をNEXCO東日本グループは追求しています。そのひとつが地域と連携して、SA・PAで地域の味をお楽しみいただけるよう、地元ならではの生鮮野菜や果物などの販売、地域商材の発掘、そこでしか食べられない地場料理店の導入など「地域のショーウィンドウ化」を進めています。

● NEXCO 東日本新メニューコンテスト

地産地消と健康志向をテーマに、サービスエリアのレストランがテーマに沿ったメニューで腕を競い合う「新メニューコンテスト」を2007年より開催しています。

6回目を迎えた今回は「みんなの元気に みんなの笑顔に～東日本のネットワークを活かしたこだわりメニュー～」をテーマに行われ、東北道 長者原 SA(上り)の『六魂彩(ろっこんさい) -みやぎの詩(うた)』がグランプリに輝きました。東日本地域の厳選素材を使った安心・安全なこだわりメニューによって“元気”を養い、“笑顔”になることを願って開発された地域色豊かな新メニューはサービスエリアの人気メニューとなっています。



2012年3月22日
NEXCO 東日本
第6回 新メニュー
コンテスト
決勝大会の様相



◀グランプリ 長者原 SA(上り)
『六魂彩(ろっこんさい) -みやぎの詩(うた)』

● E-NEXCO 野菜市場

地元の畑で収穫された新鮮な旬の野菜や果物を販売しています。2007年7月に上信越道 横川 SA(上り)でのオープン皮切りに、順次展開し、2010年3月にオープンした東北道 那須高原 SA(上り)が8店舗目となりました。地域の特性や立地条件に応じて特徴あるSA・PAを目指す「華づくり」の一環として、今後ご当地特産品の充実を図っていきます。



◀東北道 那須高原 SA(上り)
E-NEXCO 野菜市場外観



◀上信越道 横川 SA(上り)
E-NEXCO 野菜市場店内

●お客さま感謝フェア

高速道路をご利用いただいているお客さまに対し、日頃のご愛顧に感謝するとともに、地元の特産品や名産品等の地域産品を紹介・応援することを目的に「地域産品応援フェア」を実施しています。

ご当地メニューや地域のお土産品を対象にキャン

ペーンを実施し、SA・PAで使えるお買い物券や地域産品のお土産品プレゼントなどの企画で毎回多くのお客さまにご好評をいただいています。



▲2012年2月実施 地域産品応援フェア！（第6弾）実施状況
関越道 高坂SA（上り）

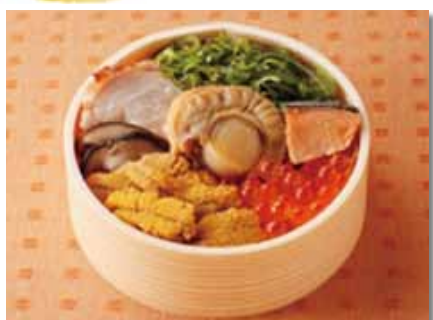


▲2012年2月実施 地域産品応援フェア！（第6弾）実施状況
東北道 佐野SA（上り）

●どら弁当の販売

地域の旬な食材を使用した、お手頃価格でドライブ（道）とともに楽しめる「どら（道楽）弁当」を販売しています。

また、「どら弁当」シリーズの新しいジャンルとして、素材にこだわった、ちょっと贅沢な「どら弁当プレミアム」も販売しています。



さんさ踊り太鼓弁当▶



◀四季の彩り 妙義山

COLUMN

どら弁当のコンセプト

- 地域を代表する特産物、食材を使用
- 500円～1,000円程度のお手頃な価格
- ドライブ（道）とともに、手軽に楽しめる

どら弁当プレミアムのコンセプト

- 大人のためのちょっと贅沢なお弁当
- 東日本の特徴ある旬の食材を使用
- 栄養たっぷり・バランスしっかりでカラダにやさしいお弁当

このそれぞれ3つのコンセプトにかなうものとして、「どら弁当」は旅行ジャーナリスト小林しのぶさん、「どら弁当プレミアム」は料理研究家浜内千波さんが監修し、おすすめするものです。

施設の快適性向上の取り組み

●施設の快適性向上

全てのお客さまに快適にご利用いただけるSA・PAを目指して、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、施設の段差の解消をはじめ、身体障がい者用駐車場、車椅子や筆談ボード、緊急時のためのAED（自動体外式除細動器）を設置するなど施設のバリアフリー化を進めています。



▲身体障がい者用駐車場

トイレは、和式便器の洋式化や温水洗浄便座・温水対応自動水栓の設置を進めているほか、ベビーシートや小型手洗い器を備えた大型ブース、子供用トイレやオストメイト対応トイレ※の整備を行っています。（2011年度末現在で、温水洗浄便座・温水対応自動水栓はすべてのエリアで整備済。オストメイト対応トイレは308エリア中247エリアで整備済であり、今後も整備を実施）

また、一部のトイレではパウダーコーナーや着替えなどができるフィッティングルームを整備するなど、どなたでも快適にご利用いただけるトイレ空間づくりに努めています。

※オストメイト対応トイレ：人工肛門または人工膀胱を保有している方が、排泄物を処理するための流し台や手洗い場が設けられています。



▲段差のない休憩施設



▲AED（自動体外式除細動器）



▲多機能トイレ



▲子供用トイレ



▲フィッティングルーム



▲パウダーコーナー

高速道路を活用した取り組み

高速道路を活用した取り組みやフリーマガジンの配布などお客さまとのコミュニケーションの向上に努めています。

●高速道路をお得にご利用いただけるカード

「E-NEXCO pass」はNEXCO東日本オフィシャルクレジットカードです。あらゆるシーンのご利用でポイントが貯まり、そのポイントは高速道路料金としてお使いいただけるほか、東日本エリアのSA・PAでお買物ができます。お客さまのライフスタイルに応じて選べるように、商品性の異なる2種類のカードをご用意しています。高速道路をご利用されるお客さまの利便性向上を図るとともに、ETCの普及にもつなげています。



▲ニコス E-NEXCO pass



▲ETC カード



▲イオン E-NEXCO pass



▲ETC カード

<http://pass.driveplaza.com/>

●情報満載のポータルサイト

お客さまの安全で快適なドライブをサポートするため、ドライブ旅行の情報サイト「ドラぷら」において高速道路料金・ルート検索、道路交通情報、渋滞予測、SA・PA情報などの情報を提供しています。また、特産品やオリジナル商品などの通信販売や宿泊施設の予約サービスなども実施しています。



▲ドラぷら



ドラぷら モバイル

<http://www.driveplaza.com/>



▲スマートフォン版

●高速道路から直接ご利用いただけるホテル

長距離ドライブのお客さまの宿泊ニーズにお応えするため、高速道路から直接ご利用することができ、お手軽で経済的に泊まることのできるホテル「E-NEXCO LODGE」を東北道 佐野SAにご用意しております。



▲E-NEXCO LODGE 佐野SA店



▲客室内

●高速道路の情報誌

■ハイウェイウォーカー

高速道路地図やドライブ情報、SA・PAのグルメ情報、施設情報など、お客さまにとって役に立つ情報を網羅したフリーマガジン「ハイウェイウォーカー」を、SA・PAで配布しています。

■ごちそうドライブ

SA・PAのレストランメニューやお土産情報などの魅力的な情報を満載した「ごちそうドライブ」を提供しています。



▲ハイウェイウォーカー
(北海道版・東日本版)



▲ごちそうドライブ



お客さまの声への対応

「お客さま第一」を経営方針の重要な柱と位置付け、「お客さまセンター」を設置しています。24時間・365日お客さまからのお問い合わせやご意見・ご要望をお受けし、より質の高いサービスの提供に役立てています。

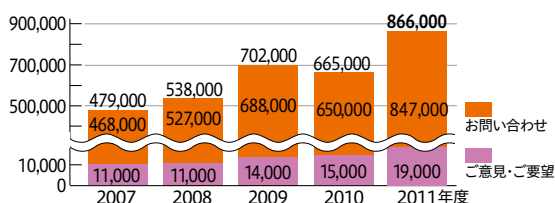
●お客さまの声の状況

お電話やウェブサイトを通じて、お客さまから毎日約2,400件のお問い合わせが寄せられています。昨年は、東北地方無料措置に伴い「料金関係」や東日本大震災及び記録的な降雨・降雪などに伴い「交通関係」などのお問い合わせが増加した影響により、年間で過去最高となる約86万件を超える受信

お客さまの声の受付状況(2011年度)

	総受付件数	お問い合わせ	ご意見・ご要望
1年間合計	865,854件	846,902件	18,952件
1日あたり	2,366件	2,314件	52件
構成比率	100%	98%	2%

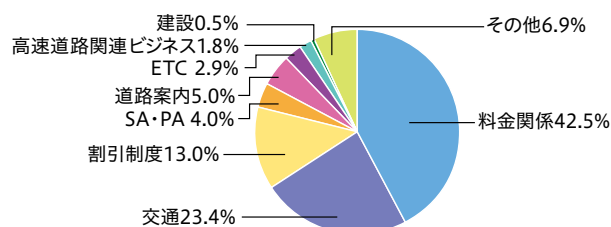
分類別件数推移(年度合計)



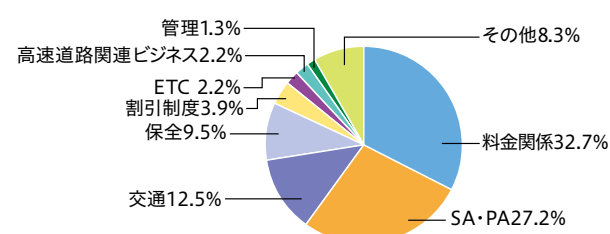
件数となりました。

なお、いただきましたご意見・ご要望は、経営陣を含め社内全体で共有するとともに、さまざまな角度から分析し、お客さまサービスの向上に役立てています。

「お問い合わせ」の内訳



「ご意見・ご要望」の内訳



●「お客さまの声」をもとに取り組みをした事例

【事例①】「ドラぷら」のQ&A情報をもっと探しやすいようにしてほしい。

改善内容① アクセスランキングや新着Q&Aを新たに追加しました。



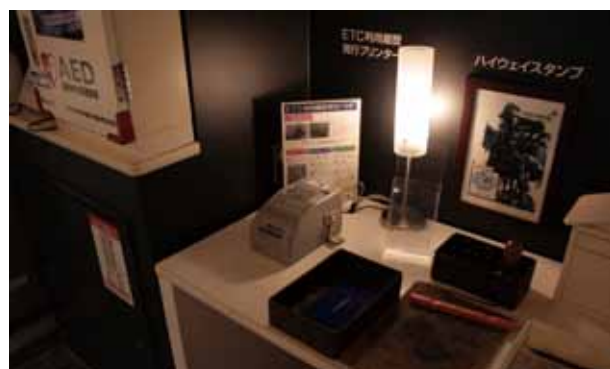
改善内容② 過去のお問い合わせをもとに検索カテゴリーの見直しを行い、求める情報を探しやすいようにしました。



【事例②】東北地方のサービスエリアにETC利用履歴発行プリンターをもっと設置してほしい。

改善内容

東北地方のSA・PAでのプリンターの設置は、2012年1月時点で4カ所でしたが、設置が可能なSA・PAの検討を行い、2012年8月までに新たに26カ所に設置しました。今後も設置場所を増やす予定です。



▲ETC利用履歴発行プリンター（菅生PA（下り））

救命活動のサポート

高速道路で発生した事故への対応や、地域社会の救命活動をサポートするために、「救命活動支援ヘリポート」や「緊急入退出路」を設置しています。また、関係機関との訓練を継続的に実施し、万全の体制を整えています。

●ヘリコプターを活用した救命活動支援

災害発生時に負傷された方々の速やかな搬送や迅速な災害対策の実施のため、北海道・宮城・福島・群馬など13カ所のSA・PAにヘリコプターが離着陸するための「救命活動支援ヘリポート」を整備しています。関係機関とともに、離着陸訓練や負傷者の収容訓練などを実施することや、本線上への離着陸を想定し、「高速道路の離着陸難易度マップ」を作成しています。



▲料金所敷地内におけるドクターヘリの離着陸状況（上信越道 信州中野IC）

救命活動支援ヘリポート整備状況

都道府県名	道路名	サービスエリア・パーキングエリア
北海道	道央道	輪厚PA（下り）
北海道	道央道	岩見沢SA（上り）
青森県	東北道	津軽SA（下り）
岩手県	東北道	前沢SA（下り）
宮城県	東北道	長者原SA（上り）
福島県	東北道	安積PA（上り）
福島県	磐越道	五百川PA（下り）
福島県	磐越道	磐梯山SA（上り）
茨城県	常磐道	守谷SA（上り）
群馬県	関越道	赤城高原SA（下り）
群馬県	上信越道	横川SA（上り）
千葉県	館山道	市原SA（上り）
新潟県	磐越道	阿賀野川SA（下り）

●緊急医療のサポートとして緊急入退出路を整備

救急車による搬送をサポートするために、緊急医療施設に近接して緊急車両専用の緊急入退出路を設けています。一分一秒でも早く治療を受けることが救命率の向上につながります。高速道路の利用により、一般道の渋滞や積雪などの影響を避け、安静かつ迅速な搬送と広域緊急医療体制を構築することが可能になります。



▲緊急退出路を通過する救急車両

緊急入退出路の整備と利用状況

緊急入退出路…主に緊急医療関連車両のための緊急開口部

道路名	区間	上下線	設置箇所 (KPまたは施設名)	設置年度	主な搬送医療施設名	利用回数 (2011年度)
札幌道	手稲～銭函	上下	金山PA	2007	・手稲溪仁会病院 ・北海道立子ども総合医療・療育センター	111
青森道	青森中央～青森東	下り	688.3 KP	2004	・青森県立中央病院	197
秋田道	秋田中央～秋田北	上り	太平山PA	2008	・秋田大学医学部附属病院 ・秋田県立脳血管センター	218
山形道	山形北～山形CT	上り	43.5 KP	2002	・山形県立中央病院	699
日東道	聖籠新発田～中条	上り	31.5 KP	2008	・新潟県立新発田病院	141
北関東道	太田桐生～足利	西行き	36.0 KP	2010	・足利赤十字病院	1
長野道	豊科～麻績	上り	47.3 KP	2005	松本市 ・信州大学医学部附属病院	146
長野道	豊科～麻績	上り	40.5 KP	2007	安曇野市 ・安曇野赤十字病院	43

高速道路ネットワークの整備

ネットワーク整備の推進

●約280kmの新たなネットワークの整備を推進します。

NEXCO 東日本が整備を進める高速道路は、首都圏をネットワークする環状道路や、地域の主要都市間のミッシングリンクを解消する路線です。これまで2005年以降、11路線334.9kmを開通させ、2路線35.9kmの4車線化を完成させました。

ネットワークの整備により、走行性・安全性の向上の

他、地域間の交流の活発化、産業の振興、雇用の創出などの経済効果を生み出します。さらに災害時の代替機能が確保され、救急救命活動にも貢献します。

首都圏環状道路として外環道など約165km、地域の主要都市間道路として常磐道など約115km、合計約280kmの整備を着実に推進しています。



②8道央道 森IC～落部IC



新設区間（合計334.9km）

開通年度	道路名	区 間	延長(km)	開通年月日
2005	① 東京外環自動車道	三郷JCT ～ 三郷南	4.1	2005年11月27日
	② 道央自動車道	八雲 ～ 国縫	21.7	2006年11月18日
2006	③ 首都圏中央連絡自動車道	つくば牛久 ～ 阿見東	12.0	2007年3月10日
	④ 首都圏中央連絡自動車道	木更津東 ～ 木更津JCT	7.1	2007年3月21日
	⑤ 首都圏中央連絡自動車道	八王子JCT ～ あきる野	(当分)0.4	2007年6月23日
	⑥ 館山自動車道	君津 ～ 富津中央	9.2	2007年7月4日
2007	⑦ 道東自動車道	トマム ～ 十勝清水	20.9	2007年10月21日
	⑧ 北関東自動車道	笠間西 ～ 友部	9.1	2007年11月14日
	⑨ 北関東自動車道	伊勢崎 ～ 太田桐生	16.0	2008年3月8日
	⑩ 北関東自動車道	宇都宮上三川 ～ 真岡	7.5	2008年3月15日
	⑪ 首都圏中央連絡自動車道	鶴ヶ島JCT ～ 川島	7.7	2008年3月29日
	⑫ 北関東自動車道	桜川筑西 ～ 笠間西	8.9	2008年4月12日
2008	⑬ 北関東自動車道	真岡 ～ 桜川筑西	14.9	2008年12月20日
	⑭ 横浜横須賀道路	佐原 ～ 馬堀海岸	4.3	2009年3月20日
	⑮ 首都圏中央連絡自動車道	阿見東 ～ 稲敷	6.0	2009年3月21日
	⑯ 日本海東北自動車道	中条 ～ 荒川胎内	9.7	2009年7月18日
	⑰ 常磐自動車道	山元 ～ 亘理	11.5	2009年9月12日
2009	⑱ 道央自動車道	落部 ～ 八雲	16.0	2009年10月10日
	⑲ 道東自動車道	占冠 ～ トマム	26.2	2009年10月24日
	⑳ 東関東自動車道	茨城空港北 ～ 茨城町JCT	8.8	2010年3月6日
	㉑ 仙台北部道路	利府しらかし台 ～ 富谷JCT	6.6	2010年3月27日
	㉒ 首都圏中央連絡自動車道	川島 ～ 桶川北本	5.7	2010年3月28日
	㉓ 北関東自動車道	佐野田沼 ～ 岩舟JCT	5.3	2010年4月17日
2010	㉔ 首都圏中央連絡自動車道	つくば中央 ～ つくばJCT	4.3	2010年4月24日
	㉕ 北関東自動車道	太田桐生 ～ 佐野田沼	18.6	2011年3月19日
	㉖ 首都圏中央連絡自動車道	白岡葛蒲 ～ 久喜白岡JCT	3.3	2011年5月29日
2011	㉗ 道東自動車道	夕張 ～ 占冠	34.5	2011年10月29日
	㉘ 道央自動車道	森 ～ 落部	20.2	2011年11月26日
2012	㉙ 常磐自動車道	南相馬 ～ 相馬	14.4	2012年4月8日

4車線化（合計35.9km）※付加車線設置事業を除く

完成年度	道路名	区 間	延長(km)	完成年月日
2006	A 磐越自動車道	小野 ～ 阿武隈高原 SA	4.8	2006年11月22日
2007	B 磐越自動車道	阿武隈高原 SA ～ 船引三春	6.3	2007年11月17日
	C 磐越自動車道	船引三春 ～ 郡山東	4.9	2008年11月14日
2008	D 磐越自動車道	差塩 PA ～ 小野	7.2	2008年11月30日
	E 磐越自動車道	いわきJCT ～ いわき三和	4.1	2008年11月30日
2009	F 上信越自動車道	豊田飯山 ～ 信濃町	8.6	2009年11月19日



㉗道東道 夕張IC～占冠IC

NEXCO 東日本

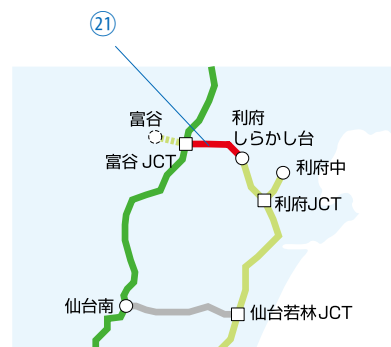
	高速自動車国道	営業中
	一般有料道路	建設中

他機関

	新直轄	供用中
		建設中
	その他	供用中
		建設中

○	インターチェンジ (IC)
○	インターチェンジ (IC) (建設中)
□	ジャンクション (JCT)
□	ジャンクション (JCT) (建設中)

2005年10月～2012年9月 (7年間) 開通・4車化完成区間
※建設中区間のICおよびJCTは、すべて仮称
2012年10月1日現在



②1 仙台北部道路 富谷JCT



②0 東関東道 茨城町JCT



②9 常磐道 南相馬IC～相馬IC



②6 圏央道 久喜白岡JCT

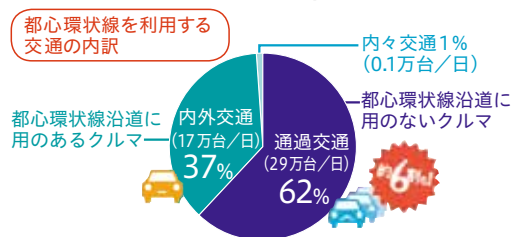
※首都圏の開通時期は78ページを参照。

首都圏の高速道路整備

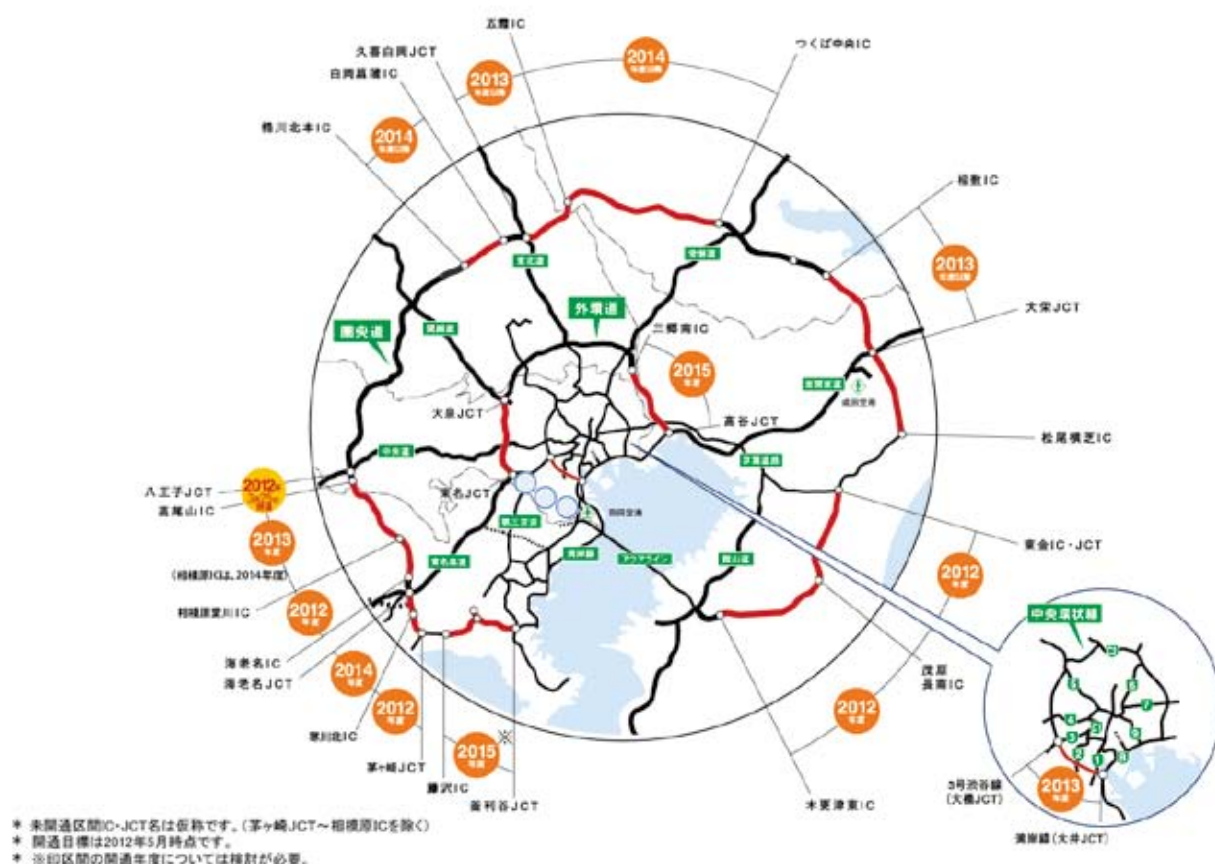
●都心渋滞の解消のため、首都圏の環状道路の早期開通を目指します。

首都圏の道路交通の骨格として、3環状9放射のネットワークが計画されたのは、今からおよそ40年前。以来、東名高速、中央道、関越道、東北道など放射方向の高速道路が整備される中、環状方向の高速道路の整備は遅れました。その結果、都心に用のないクルマが首都高都心環状線に集中し、慢性的な渋滞が発生しています。環状道路（外環、圏央道）が整備されると、都心を迂回できるようになり渋滞解消が期待されます。

通過交通が、渋滞する都心環状線の要因に



出典：国土交通省関東地方整備局HPより



出典：国土交通省関東地方整備局 HP より

COLUMN

諸外国との比較

東アジアの諸国では、道路や空港などのインフラ整備が急速な経済成長を支えています。北京やソウルでは、環状道路は最大8車線で、すでに100%完成するなど、東京を追い越す整備水準となっています。



出典：国土交通省関東地方整備局 HP より

● 圏央道・外環道において着実に事業を進めています。

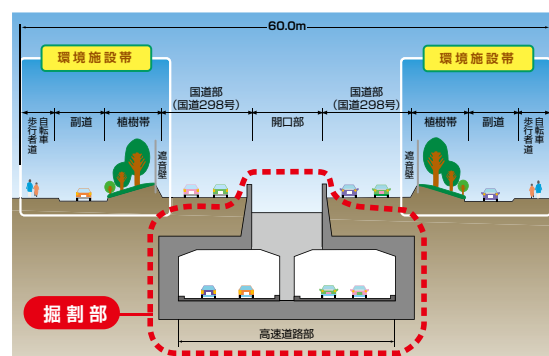
■ 東京外かく環状道路(外環道)

外環道は都心から約15kmの圏域を環状に連絡する延長約85kmの道路で、現在までに大泉JCTから三郷南ICまでの約34kmが開通しています。

【三郷南IC～高谷JCT間】

現在建設中の三郷南IC～高谷JCT間においては、生活環境に与える影響を最小限に抑えるために、掘割構造(半地下構造)として、両側には環境施設帯を設置したゆとりと緑の空間を確保しています。

工事中においても、工事用車両が市内の道路を出来る限り通行しないように事業用地内の走行、交通量の多い道路と交差するところでは、工事用車両専用の仮橋を設置するなど、周辺環境への影響が少ないように努めています。



▲千葉県区間の標準的な断面



▲工事用車両専用の仮橋設置



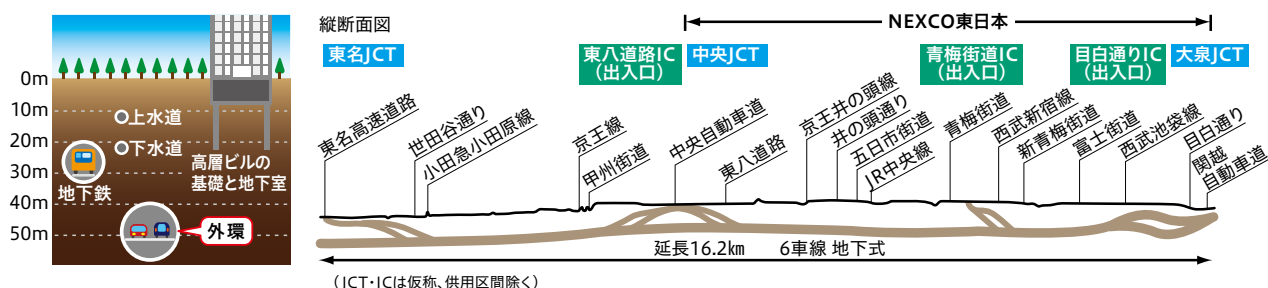
▲掘割構造の施工(国分地区)



▲試験工事で先行施工した掘割部

【東名JCT～大泉JCT間】

東名JCT～大泉JCT間においては、大深度地下を活用したトンネル構造を採用しています。そのうち、中央JCT～大泉JCTについて、2012年4月20日にNEXCO東日本が有料道路事業の許可を受けました。国土交通省、機構、東京都、NEXCO中日本等の関係機関と連携し、早期開通に向け事業を推進してまいります。



■ 首都圏中央連絡自動車道(圏央道)

圏央道は、都心からおよそ半径40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路で、現在までに高尾山ICから桶川北本IC間をはじめ約110kmが開通しています。

神奈川の一部、埼玉、茨城、千葉各県の工事区間について国土交通省と連携し、早期開通に向けて工事を行っています。



▲久喜白岡JCT付近



▲千葉県上太田橋付近

地域を結ぶ高速道路整備

●整備効果《代替機能の強化と地域医療への寄与》

■道央自動車道 大沼公園IC～森IC

【2012年11月10日開通区間】

集中豪雨や津波で国道が通行止めになることで、大きな迂回を余儀なくされることがありましたが、高速道路ネットワークが整備されることで、災害時のリダンダンシー（代替のルート）が確保され、定時性・安全性が向上し、物流や緊急輸送路としての機能が強化されます。

また、救急医療の現場においても、高次救急医療機関のある函館市までの搬送時間が短縮され、患者さまへの負担が軽減されることで、地域の救急医療に貢献します。



▲一般国道5号の通常時と災害発生時の迂回路比較

●整備効果《三次医療施設へのアクセス向上》

■北海道横断自動車道 余市IC～小樽JCT 【事業中区間】

後志地域において、大量出血による救命率の限界といわれる三次救急機関からの60分圏域は、現在は小樽市のみですが、横断道が整備されることで三次医療機関までの所要時間が短縮され、余市町と仁木町が新たに60分圏域に加わり、地域の救命率向上に貢献します。

また、後志地域から小樽市や札幌市へ救急搬送される回数は全体の5割以上となっており、近年高まっている緊急搬送に対して適切に対応することが可能となります。



(IC・JCT名は仮称)

資料：H22道路交通センサス

▲横断道整備前後の三次医療施設※60分圏域
※札幌手稲区仁会病院から60分以内に行ける範囲を考慮

●整備効果《ダブルネットワークの構築》

■東北中央自動車道 南陽高島IC～山形上山IC

【事業中区間】

東北中央道は、本区間と国土交通省にて整備されている福島JCT～米沢北ICが完成することで、東北地方の山形、福島、仙台の3エリア間にダブルネットワークが形成され、東北道、山形道、東北中央道いずれに通行止めがあっても各路線が相互補完し、エリア間の移動が可能となります。

東日本大震災においても東北道並びに山形道は震災後の13日間、一般車両の通行ができませんでしたが、東北中央道沿線は大規模な被害もなく32時間で通行止めを解除し、一般車両が通行しました。



(IC・JCT名は仮称、供用区間除く)

●北関東自動車道全線開通後の1年間の交通状況と整備効果

北関東自動車道【愛称「北関（きたかん）」】は、群馬、栃木、茨城3県を結ぶ延長約150kmの高速道路です。2011年3月19日に全線開通となり、地域経済、地域交流などさまざまな面で北関の整備効果が出ています。



■ネットワーク形成による交通量の増加

北関の全通により関越道・東北道・常磐道が連結され、北関が迂回路として機能するとともに、ネットワークの形成により交通量も大幅に増加しています。

■整備効果①物流や地域経済の発展に寄与

北関沿線地域への工場立地や物流拠点化が進み、港湾への輸送効率が向上し、物流や地域経済の活性化に寄与しています。



▲交通状況：全線開通前後の交通量比較

■ 大型車
■ 小型車
NEXCO 東日本交通量データ（日平均交通量）

■整備効果②北関3県の観光・レジャーに寄与

北関の全通前後で栃木県・茨城県から群馬県への宿泊客数が大幅に増加し、地域間交流に寄与しています。



▲整備効果②：栃木県・茨城県から群馬県への宿泊客数（前年比較）



※資料：工場立地動向調査

▲整備効果①：北関東3県の工場立地件数の推移

●スマートインターチェンジの整備

ETCを利用して、高速道路の本線やSA・PA、バスストップから乗り降りできるスマートインターチェンジの設置を推進しています。NEXCO東日本管内では、現在35カ所で開通、6カ所において事業を実施しています。スマートインターチェンジの整備により、高速道路へのアクセスが改善し、地域の活性化に貢献しています。

2011年度以降新たに開通した箇所

道路名	スマートIC名称	開通日
東北自動車道	佐野SAスマートIC	2011年4月28日
磐越自動車道	新津西スマートIC	2011年12月17日
東北自動車道	蓮田スマートIC	2012年2月4日
北陸自動車道	栄スマートIC	2012年7月14日



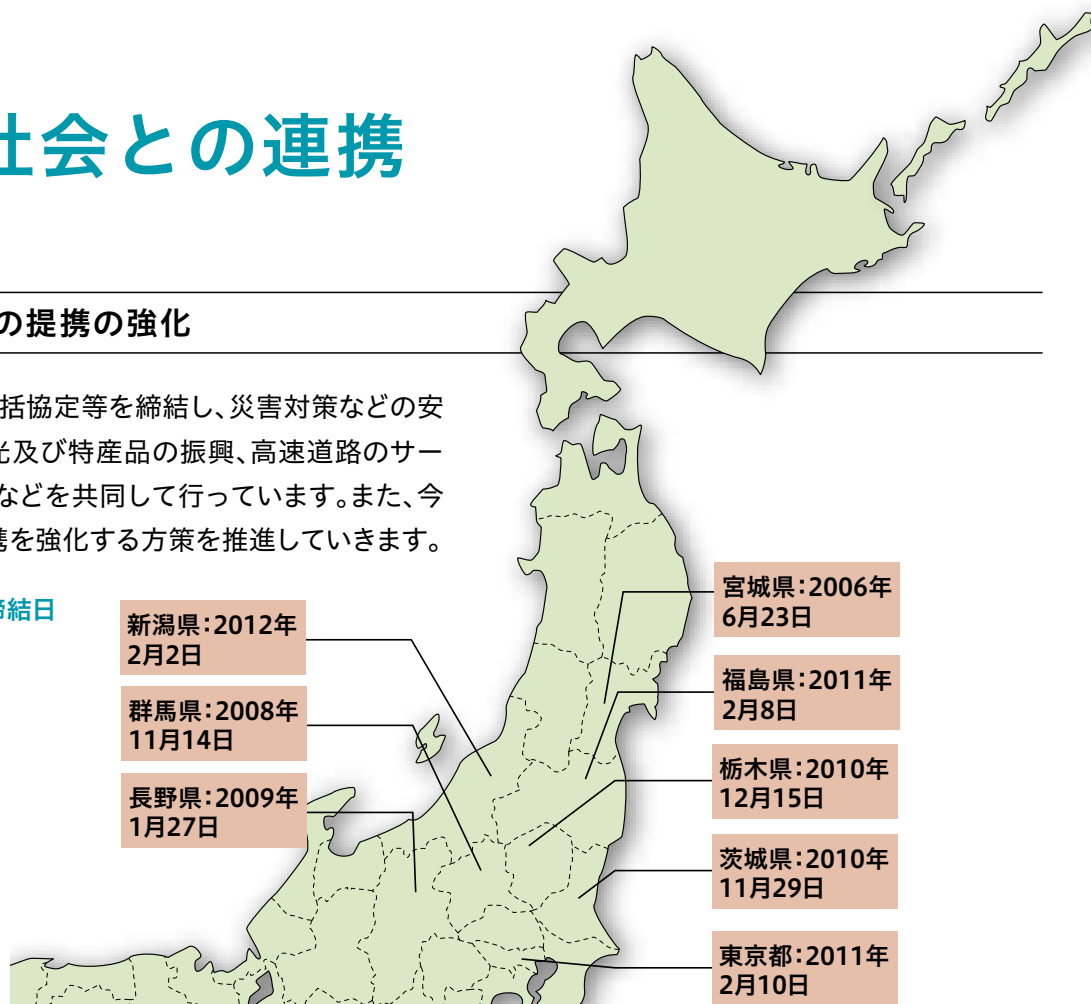
▲東北道 佐野SAスマートIC(上り入口)

地域社会との連携

● 地方自治体との提携の強化

各地自治体と各々包括協定等を締結し、災害対策などの安全・安心の確保、観光及び特産品の振興、高速道路のサービス向上・利用促進などを共同で行っています。また、今後とも、地域との提携を強化する方策を推進していきます。

■ 締結した自治体と締結日



■ 主な取り組み内容

- ① イベント・広報等の相互協力を通じた観光振興と高速道路の利用促進
- ② 相互協力によるSA・PA等の利用促進と各県産品の消費拡大
- ③ 相互協力による安全・安心の確保
- ④ 相互協力による環境保全の推進
- ⑤ 技術提携…良好な社会資本の効率的整備、管理のための土木技術等の相互協力
- ⑥ その他…地域交流の促進等

● 地域産業の課題解決への取り組み

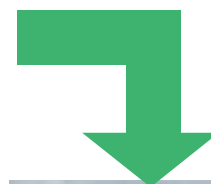
地元特産のホタテを加工した後に残る貝殻を粉末にし、舗装工事に有効活用することにより、大量に発生する貝殻処理に苦慮していた地元産業の課題解決に貢献しています。（2010年度 リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞）



▲ホタテ加工により発生した貝殻
(北海道 鹿部町)



◀貝殻を粉末状に加工



▶ 貝殻粉末を配合した舗装基盤合材として
舗装工事に活用

地域における社会貢献活動

事業活動を通じて地域の皆さまとの交流を図るとともに、社会的課題の解決の一助となるよう社会貢献活動に取り組んでいます。

●日本の未来を支える子供たちの教育支援に取り組んでいます。

普段は立ち入ることができない施設の見学や作業機械への試乗など、子供たちの好奇心や探究心を刺激する現場見学会や出前授業を各地で実施しています。こうした社会学習の場の提供は、高速道路がもたらす地域の発展や生活の向上の理解に役立つと教育関係者の方から評価をいただいています。2011年度は73回実施し、約2,700名の方に参加いただきました。



▲現場見学会の実施

●高齢化社会に向けて高齢者の方の安全・安心・快適なドライブのサポートに取り組んでいます。

高齢者の方が関係する事故を少しでも減らすため、高速道路交通警察隊等の協力を得て、交通安全講習会を開催しています。講習会では、いざというときに役立つ防災筒の使用体験や非常電話の使い方のほか、高速走行の留意点などを学んでいただいています。2011年度は17回開催し、約1,200名の方に参加いただきました。



▲高齢者安全運転講習会

●地域の活性化のため、地域との交流に取り組んでいます。

地元の清掃活動や地域で開催される各種イベントに積極的に参加し、地元の皆さんとの交流や地域の活性化と一緒に盛り上げる活動を行っています。2011年度は各地で166回の活動に参加しました。



▲地域交流イベント

COLUMN

自動車用マタニティステッカーの配布

妊婦さんと赤ちゃんの交通安全を守る「自動車用マタニティステッカー」の配布を通し、マタニティマークの普及と交通安全の啓発に大きく貢献されている「NPO法人ひまわりの会」の活動を支援することを目的として、全国33カ所のインフォメーションにて、自動車用マタニティステッカーを配布し、交通安全啓発及びCSR活動の推進に努めました。この活動が評価され、「NPO法人ひまわりの会」から「ひまわり褒章2012」（企業部門）を受賞しました。



◀自動車用マタニティステッカー



▲「ひまわり褒章2012」授賞式

世界の高速道路づくりへの貢献

長年にわたり高速道路事業者として培った“技術とノウハウ”を発揮し、海外の道路事業への参画、発展途上国への専門技術者の派遣と海外研修生の受入れ、国際技術交流により、世界の高速道路づくりに貢献しています。

●海外の道路事業への参画

高速道路のプロとして培った技術とノウハウを発揮し、インドITS導入支援、ミャンマー道路技術調査やベトナム高速道路設計などのコンサルティング業務を通して世界の道路づくりに貢献しています。また、インド事務所による情報収集を進めるとともに、高速道路5会社※共同出資による日本高速道路インターナショナル株式会社（JEXWAY）と協働し、海外での道路事業参入を目指しています。

※ NEXCO 東・中・西日本、首都高速道路、阪神高速道路

●専門技術者派遣と海外研修生の受入れ

発展途上国などの道路関係機関へ国際協力機構（JICA）専門家として社員を派遣し、技術指導を行っています。2011年度には、インドとスリランカへ2名の長期専門家を派遣しています。また、スリランカへは交通管理運営の短期専門家を派遣するなど、各国の交通問題解決に貢献しています。さらに国内では、国土交通省やJICA等からの要請に応じ、海外研修生の受入れ（2011年度は約130名）も行っています。

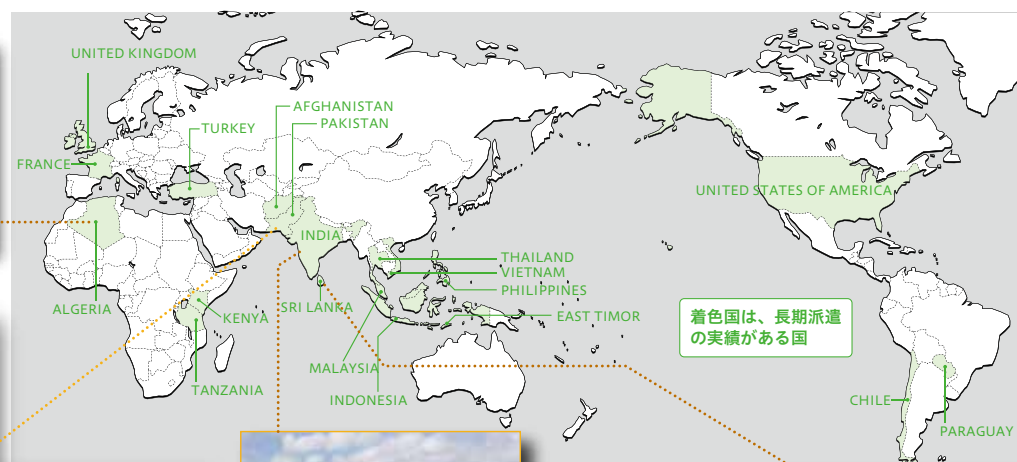
活動実績



Algeria（アルジェリア）



Pakistan（パキスタン）



India（インド）



Sri Lanka（スリランカ）



●国際技術交流

日本を代表する高速道路会社として、PIARC（世界道路協会）等への参加や、世界の高速道路会社との技術交流を通し、世界の高速道路技術の向上と諸問題の改善に貢献しています。

■PIARC国際会議

メキシコシティで開催されたPIARC世界大会では、暫定2車線高速道路の整備手法や安全対策等の紹介を行いました。

さらに、大会後に開催された技術委員会セミナーでは、当社の先進的ETCシステムの利便性等について発表を行いました。



▲ PIARC 世界大会への参加
(メキシコ)



▲ PIARC セミナーでの発表
(メキシコ)

■ITS世界会議

米国オーランドで開催されたITS世界会議では、震災リスクを考慮して構築した先進的な交通管制システムについて紹介しました。

さらに、交通渋滞が深刻化するインド国バンガロールで開催されたセミナーでは、ITSを活用した交通問題解決手法について発表を行いました。



▲ ITS 世界会議への参加
(アメリカ合衆国)



▲バンガロールセミナーで発表
(インド)

■技術交流会議

当社と、インドネシア、韓国、タイ、中国、マレーシアの道路会社は、各国の道路整備の課題等の情報交換の場として、技術交流会議を開催しています。

また、オーストリアの高速道路会社ASFINAG（アスフィナグ）とは、友好関係の促進と高速道路技術に関する情報交換等を目的とした覚書を締結しています。



▲アジア各国との技術交流活動
(韓国：道路管制センター)



▲ ASFINAG との情報交換活動
(オーストリア：道路管制センター)

■維持管理・災害対応技術の発信

東日本大震災で被災した高速道路の迅速な復旧は、世界で大きな反響を呼びました。洪水対策を進めるブラジルからは当社技術者が特別講演者として招聘され、セミナーにて復旧技術の紹介をしました。また、大雨等で度々の通行止めに苦悩する台湾からも講演依頼を受け、国際フォーラムの場において、防災技術の紹介を行いました。



▲洪水被災地でのディスカッション
(ブラジル)



▲防災技術の国際フォーラム
(台湾)

働きやすい職場環境づくり

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進等により、社員がいきいきと仕事をし、「やりがい」や「満足感」を実感できる環境づくりに取り組んでいます。

また、ダイバーシティの推進や社員の能力開発を支援する研修の実施により、経営力や現場力の強化につながる人材や事業領域の拡大に応じた人材を確保・育成しています。

●社員教育

「NEXCO東日本グループ人材育成基本プログラム」を策定し、グループの経営ビジョンを具体化してグループ全体の専門力・経営力を向上させる多様な人材を育成しています。OJT、off-JT、自己啓発支援を『人材育成の三本柱』とし、ジョブ・ローテーションと連動させて育成しています。新入社員研修のほか、階層別・業務別に求める人材像を明確にした研修を実施するとともに、専門家の育成にも取り組んでいます。



▲新入社員研修

●人事評価

社員の働きがいと業績向上の両立を図るため、透明性・公正性・納得性を重視した人事評価制度を導入しています。評価結果は、処遇に反映するとともに、社員の指導・育成に活用しています。



▲次世代経営者育成研修

●表彰制度

社員自らの創意工夫によりチャレンジし、業務効率化など具体的な成果が上がったものであり、かつ、業務を完遂した努力・姿勢などが他の社員の模範となるものを対象として、毎年10月に社長表彰を行っています。2011年度は、14件の事案が受賞しました。



▲2011年度社長表彰式

●タスク・ダイエット活動

グループの社員一人ひとりが自発的に取り組む業務改善活動として「タスク・ダイエット活動」を実施しており、活動に取り組む社員、現場組織のモチベーション向上などを目的として、毎年「タスク・ダイエット発表会」を開催しています。2006年度から活動を開始し、これまでに約3,000件の改善事例が報告されています。



▲タスク・ダイエット発表会

●ワーク・ライフ・バランスの推進

ワーク・ライフ・バランスを実現するため、年次休暇のほか、以下の各種休暇制度を設けるとともに、観光庁等が推進するポジティブ・オフ運動に賛同し、休暇取得の促進などに積極的に取り組んでいます。また、2011年6月に、「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣から認定を受けました。



POSITIVE OFF

【各種休暇制度】

育児休業	社員の子供の養育のため、子供が3歳に達する日まで	介護特別休暇	毎年度5日以内 (要介護者が2人以上の場合は10日以内)
産前・産後休暇	社員が出産する場合は、産前6週間・産後8週間	介護休暇	社員の親族などで日常生活を営むのに支障がある者の介護のため、連続する6カ月の期間内において必要な期間
配偶者分娩休暇	社員の配偶者が出産する場合は、3日以内	ボランティア休暇	社員が社会貢献活動として、災害時における被災者や障がい者などに対する支援活動を行う場合は、5日以内
育児参加休暇	社員の配偶者が出産する場合に、出産した子供または小学校就学前の子供の養育のため、5日以内		
看護休暇	小学校就学前の子供の看護のため、5日以内 (2人以上の場合にあっては、10日以内)		

●福利厚生

■社員の健康管理

社員の健康維持・増進を図るため看護師が常駐する「健康相談室」を設置し、健康管理面のサポート体制を構築しています。また、「心の健康づくり計画」を策定し、相談窓口の設置や研修の実施など、メンタルヘルスケアにも積極的に取り組んでいます。

■労働安全衛生システム

「衛生委員会」を設置し、社員の安全と健康の保持、職場環境の向上を図っています。また、社内イントラネットを活用し啓発活動を積極的に行っています。

●ダイバーシティ(多様化)の推進

■女性社員の積極的採用等

現在、女性社員は全社員の約1割ですが、女性社員の活躍の場を広げるために、女性社員の積極的な採用に取り組んでいます。また、グローバル人材等の採用に向けた活動も行っています。

■障がい者の雇用

各地域の障がい者就職面接会に積極的に参加するなどして、計画的に採用を行っており、法定雇用率を維持しています。引き続き障がい者の採用を進めていきます。

■高齢者の雇用

社員が将来の雇用不安を抱くことのないよう、高齢者雇用安定法を踏まえ、年金支給開始年齢(65歳)までの再雇用制度を設け、雇用を確保しています。

また、社員のキャリア開発・自己能力の向上、将来の生活設計等を支援するため、ライフデザイン研修も実施しています。

●健全な労使関係の維持

会社における良好な職場環境と人間関係を構築するためには健全な労使関係が基本にあると考え、定期的に会社側から労働組合に経営方針等を説明し、労使で意見交換を行う「経営懇談会」を開催するなど、相互の理解を深めています。



◀経営懇談会

取引先との連携による安全・円滑な事業の推進

● 地元企業とテナント事業者との商談会

地元の地域産品の消費拡大を図ることを目的として、地元企業とSA・PAのテナント事業者との商談会を開催しております。

地元の地域産品をSA・PAにおいて取扱うことで、商業施設や地元地域の魅力を高め、高速道路をご利用される多くのお客さまに地元の地域産品に触れていただく機会を増やし、お客さまサービスの向上につなげています。



▲テナント事業者と地元企業との商談会

● 工事中の事故防止への取り組み

工事中の事故防止のために、工事施工会社と一体となった「安全協議会」を設置しています。安全協議会では作業員の安全確保に向けて、工事現場の安全パトロールや安全講習会の実施、安全優良会社の表彰などの活動を推進しています。

また、工事中の近隣の交通安全や、清掃活動に取り組んでいます。



▲安全講習会

● 食の安全

お客さまに品質が良く安全な食品を提供することは食品営業の基本であり、食品の衛生管理は従事者全員が正確な衛生知識と自覚をもって日々実践されるべき大切な仕事です。

そのため、お客さまに安全で安心な食事を提供できる衛生管理体制を確立するとともに、専門家等による「衛生講習会」を定期的に開催しています。



▲衛生講習会

● 反社会的勢力等への対応

市民社会に脅威を与える反社会的勢力及び団体などには、毅然として対応いたします。

- ①私たちは、市民社会に脅威を与える反社会的勢力及び団体などには、毅然として対応し、一切の関係を遮断します。
- ②私たちは、高速道路を利用する際のルールを守らない通行者に対しては、毅然として対応します。

経 済

高速道路という 重要な社会インフラを担う企業として

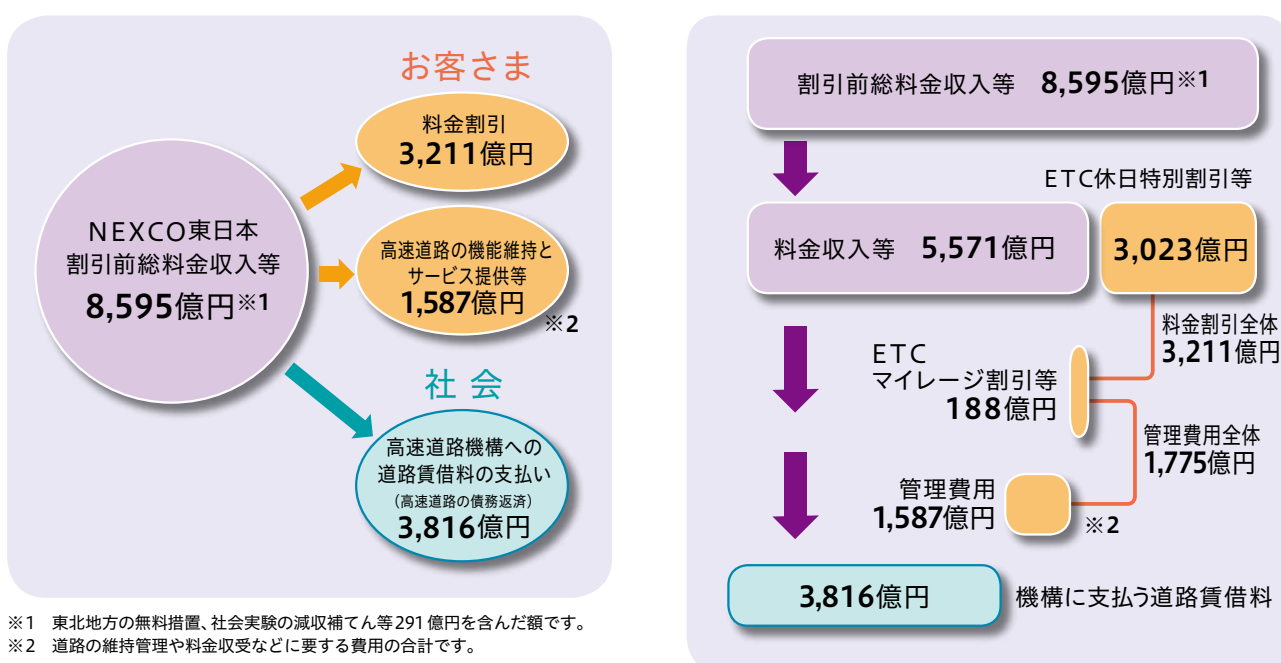
高速道路という社会インフラを適正に管理運営しサービスエリア事業や
高速道路関連ビジネスによる収益拡大を目指すとともに、財務体質の
強化に努めます。

着実な債務の返済による社会への還元

お客さまからいただいた通行料金をもとに、道路の機能維持、サービスの提供及び高速道路機構を通じた債務の返済を行っています。

●高速道路事業における還元のしくみ（2011年度）

高速道路事業では、高速道路料金に利潤を含まないこととなっています。お客さまにはさまざまな料金割引をご利用いただいております。その上で、いただいた料金は、安全・安心・快適・便利な高速道路のために必要な道路の維持管理や各種サービスの提供などとともに高速道路機構を通じた債務の返済にあてています。



※1 東北地方の無料措置、社会実験の減収補てん等291億円を含んだ額です。

※2 道路の維持管理や料金収受などに要する費用の合計です。

[単位未満を切り捨て表示しているため、表上の計算は合わない場合があります]

●第7期（2011年度）決算の損益状況

		単位：億円		単位：億円	
		連結		単体	
		2010年度	2011年度	2010年度	2011年度
道路事業 ※3	営業収益	7,430	7,816	7,364	7,759
	営業費用	7,376	7,816	7,332	7,778
関連事業 ※4	営業収益	617	619	348	287
	営業費用	575	571	324	265
全事業	営業利益	97	48	55	2
	経常利益	118	71	64	49
	税引前利益	126	88	55	48
	当期純利益	77	45	24	30

※3 営業収益及び営業費用はそれぞれ機構に引き渡した資産に対する道路資産完成高、道路資産完成原価を含んだ金額です。

※4 関連事業は、受託事業収入・費用を含んだ金額です。

※5 当期は、法人税等連結：40億円 単体：13億円を計上しております。

[単位未満を切り捨て表示しているため、表上の計算は合わない場合があります]

資金調達活動とIR活動

高速道路ネットワークの建設のための資金調達にあたり、投資家の皆様への積極的な情報開示に努めています。

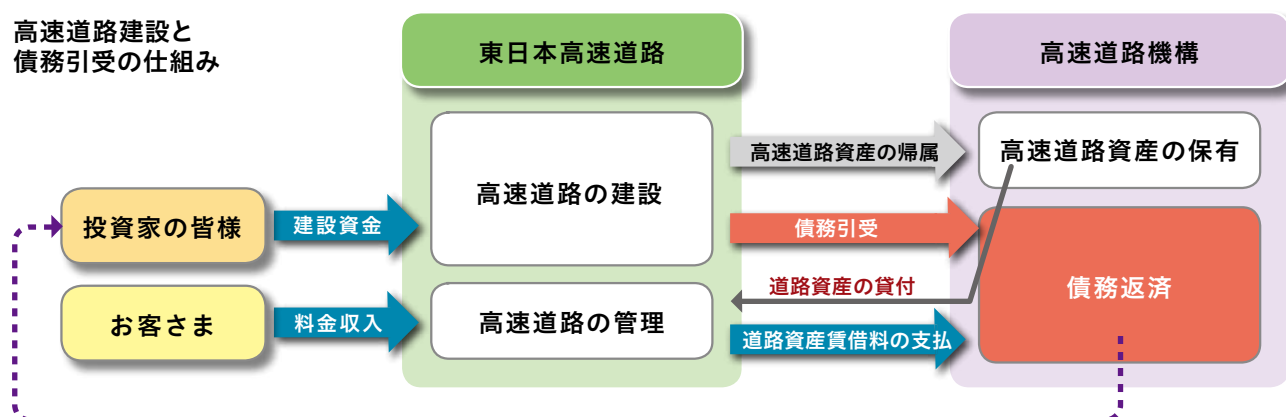
●みちを「つなぐ」資金

首都圏のネットワークや都市間をつなぐネットワーク等の早期整備は、社債の発行や金融機関からの借入れにより調達した資金を用いて、着実に進められています。

当社の社債や借入金は、高速道路の完成とともに機構に債務引受され、投資家の皆様には機構から返済されることとなります。



高速道路建設と
債務引受の仕組み



● IR 活動の充実

当社は、市場との対話を重視し、投資家の皆様との個別ミーティングを積極的に実施しております。また、当社Webサイトでは決算情報、資金調達の状況及び債務引受の状況等を適時提供しております。特に重要な債務引受の状況については、官報及び全国紙による公告やメール等でのお知らせもしております。

今後も、双方向のコミュニケーションを充実させ、投資家の皆様の求める情報に個別にきめ細やかな対応を実施してまいります。

 <http://www.e-nexco.co.jp/ir/>



東日本高速道路株式会社

〒100-8979 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング(総合受付15F)

NEXCO東日本 お客様センター

0570-024-024

(PHS・IP電話のお客様: 03-5338-7524)

<http://www.e-nexco.co.jp/>

